

ス。鐵坑トハ石炭、金厨等ヲ發掘スル爲メ開鑿シタル地下ノ空孔ヲ謂フナリ。本條ノ罪ハ火ヲ放テ以上ニ掲ケタル物ヲ燒燬スルニ因リ成立スルモノトス。火ヲ放テトハ故意ニ目的物ヲ燒燬スヘキ一切ヲ方法ヲ意味シ燒燬トハ犯人ノ放火カ其媒介物タル燃料ヲ離レ獨立シテ目的物ヲ燒燬スヘキ状態ニ達シタルコトヲ謂フナリ。故ニ實際燒燬シタル部分ノ大小及ヒ其目的物ノ效用ヲ滅却シタルヤ否ヤハ之ヲ問フノ要ナシ。換言スレハ犯人カ放火ノ手段ニ供シタル燃料ノ火力カ目的物ニ燃移ラス又ハ燃移リタルモ其儘消火シタルトキハ燒燬ノ未遂ナレトモ一旦目的物ニ燃移リタル火力カ其手段タル媒介物ノ火力ニ關係ナク獨立シテ繼續スヘキ状態ニ達シタルトキ燒燬ノ既遂トナルモノトス。次條以下ノ規定スル放火ノ目的物ハ犯人ノ所有ニ屬スルト否トニ因リ其刑責ヲ異ニスレトモ本條ノ罪ハ犯人以外ノ人ノ生命、身體、財產ヲ保護スルコトヲ目的トスルヲ以テ其目的物ノ所有權カ犯人ニ屬スルト否トハ毫モ本罪ノ成立及ヒ刑責ニ關係ナク死刑、無期又ハ五年以上十五年以下ノ刑中適當ナルモノヲ選擇シテ科刑スルナリ。

【參照判例】

- ◎ 自己ノ所有家屋ト雖モ他人ノ住居スルトキハ之ヲ燒燬スレハ本條ノ罪ヲ成立ス(大審三五年判決 錄三卷一二頁)
- ◎ 燒燬トハ犯人ノ點シタル火力カ其媒介物タル燃料ヲ離レ目的物件ニ移リ獨立シテ其燒燬力ヲ繼續スル事實ヲ指稱ス(大審三五年判決 錄九卷一四頁 四頁 四三年三月四日判決)
- ◎ 犯人ノ使用シタル燒燬物ノ作用ニ依リ家屋又ハ建造物ノ一部ニ火ヲ發シ燃ヘ上リタルトキヲ以テ放火罪ノ既遂トス(大審三五年判決 錄一卷九七頁)
- ◎ 苟モ他人カ住家トシテ平常使用スル建物ハ其住居者カ一時外出シテ不在ナルトキト雖モ人ノ住居スル家屋ナリ(大審三八年判決 錄七九二頁)
- ◎ 家屋ニ放火シテ其棟木、垂木及ヒ屋根板ノ幾部ヲ燒燬セシメタル以上ハ放火ノ既遂ナリ(大審二九年判決 錄一〇四六頁)
- ◎ 村役場ハ役場吏員カ其職務執行ノ爲メ現ニ住居ノ用ニ供セラルル建造物ナリ(大審四〇二年判決 錄四〇二頁)
- ◎ 人トハ犯人以外ノ者ヲ指稱シ家屋ノ所有權カ何人ニ屬スルヤハ之ヲ問ハス

(大審四二年判決)  
録一七三五頁

第九條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス但公共ノ危險ヲ生

セサルトキハ之ヲ罰セス(舊刑四〇三、四〇五、四〇七)

本條ハ人ノ住居又ハ現在セサル物ニ對スル放火罪ヲ規定シタルモノナリ而シテ本條第一項ノ意義ハ前條ノ說明ニ依リ明白ナルヲ以テ茲ニ再言セス只第二項ニ一ノ除外アルヲ以テ第一項ノ規定ハ放火ノ目的物カ犯人以外ノ者ノ所有ニ屬スル場合ニ限ルコトヲ注意スルノミ

第二項ニ於テハ第一項ニ掲クル放火ノ目的物カ犯人ノ所有ニ屬スル場合ヲ規定ス即チ此場合ニ於テ其放火カ公共ノ危險ヲ生セサルトキ例ヘハ廣野ニ孤立スル物置ヲ其所有者カ自ラ燒燬スル如キ場合ニ於テハ一ノ財產處分タルニ止リ固ヨリ罪トナラサルモ公共ノ危險ヲ生スルトキ例ヘハ他人ノ家屋ニ延燒スヘキ虞アル如キ場合ニ於テハ所有者カ自己ノ物ヲ燒燬スルモ第二項ノ刑罰ヲ受クルモノトス(一一五)

【參照判例】

◎物置小屋ハ人ノ住居スヘキ建造物ニ非サルモ人カ其内ニ立入りテ現在スルコトアルヘキ建造物ナリ從テ之ヲ燒燬スルトキハ本條ノ罪ヲ構成ス(大審四一年頁〇二)

第一百條 火ヲ放テ前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス(舊刑四〇四、四〇六)

本條ハ前二條ニ掲ケタル以外ノ物ニ對スル放火罪ヲ規定シタルモノナリ即チ人ノ現住シ又ハ現在スル建造物、汽車、電車、艦船、鑛坑及ヒ人ノ現住又ハ現在セサル建造物、艦船、鑛坑以外ノ物ニ放火シ公共ノ危險ヲ生セシメタル場合ニ關スルナリ而シテ其物カ犯人ノ所有ニ屬セサルトキハ第一項ノ刑ヲ科シ犯人ノ所有ニ屬スルトキハ第二項ノ刑ヲ科スルモノトス(五)然レトモ其放火ニ因リ公共ノ危險ヲ生セサルトキハ毀棄罪ヲ構成スルニ止リ本條ノ罪トナラス(二六)

本條用語ノ意義ニ付テハ前二條ノ說明ヲ參照スヘシ

第一百一十條 第九條第二項又ハ前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ第八條又ハ第九條第一項ニ記載シタル物ニ延焼シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス  
前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ前條第一項ニ記載シタル物ニ延焼シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ人ノ現住又ハ現在セサル自己所有ノ物ニ放火シテ人ノ現住スル物ニ延焼シ又ハ自己所有ノ物ニ放火シテ他人ノ所有物ニ延焼シタル場合ヲ規定シタルナリ此場合ニ於テ犯人カ豫メ其延焼スヘキコトヲ認識シタルトキハ其延焼ノ點ニ付キ重キ罪ヲ構成スルコト勿論ナリ例ヘハ人ノ住家ニ隣接スル自己所有ノ物置ニ放火シタル者ハ物置ノ燒燬ニ因リ當然其隣家ニ延焼スルコトヲ豫見シタルトキハ住家ニ對スル放火罪(八〇)ヲ構成スルカ如シ本條ハ犯人カ全ク其延焼ヲ豫見セサル場合即チ結果ノ認識ナキ場合ニ限り適用アルモノトス又本條ニ延焼トハ必シモ燒燬ノ既遂タル状態ニ達シタルコトヲ要セサルナリ(〇八九)

第一百一十二條 第八條及第九條第一項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ放火ノ未遂罪ヲ罰スル場合ヲ定メタルモノナリ即チ第八條第九條

第一項ニ掲ケタル物ニ對シ放火シタルトキハ犯人以外ノ障害ニ因リ又ハ犯人任意ノ中止ニ因リ燒燬ノ結果ヲ生セサルトキト雖モ其危險重大ナルヲ以テ之ヲ處罰スルモノトセリ但其刑ハ之ヲ減輕スル場合ト免除スル場合アルコトハ既ニ述ヘタルカ如シ(四三)

第一百一十三條 第八條又ハ第九條第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコト得

本條ハ放火ノ豫備ヲ罰スルコトヲ規定シタルモノナリ即チ第八條第九條第一項ノ規定スル罪ハ其危險極メテ重大ナルヲ以テ前條ニ於テハ其未遂ヲ罰スルコトヲ定メタル上本條ニ於テ尙其豫備ヲモ處罰スルモノトセリ而シテ豫備トハ放火ノ準備行爲ニシテ未タ其實行ニ著手セサル以前ノ行爲ヲ謂フナリ例ヘハ石油ヲ目的物ニ注キ又ハ放火スヘキ場所ヲ詮索スル行爲ノ如シ尙未遂ト豫備トノ區別ニ付テハ第四十三條ノ說明ヲ看ルヘシ  
本條ノ豫備罪ニハ一月以上二年以下ノ懲役刑ヲ科スヘキモ其犯情極メテ輕微ナルモノニ付テハ其刑ヲ免除スルコトヲ得ルモノトセリ刑ヲ免除スル場合ニ

於テハ免訴ノ判決ヲ爲スヘキナリ(刑一六五ノ六)

第一百四條

火災ノ際鎮火用ノ物ヲ隠匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ鎮火ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ鎮火ノ妨害罪ヲ規定シタルモノナリ火災ノ際鎮火ヲ妨害シタル者ハ間接ニ其危害ヲ幫助スルモノナルヲ以テ本條ニ於テハ稍々重キ刑ヲ之ニ科スルモノトセリ火災ノ際トハ第八條乃至第十條ニ掲クル物カ火力ニ因リ損壞セントスル一切ノ場合ヲ包含シ其出火ノ原因カ放火ナルト失火ナルト又天災ニ因ルトヲ問ハス又鎮火ヲ妨害スル方法ハ鎮火用ノ器具ヲ隠匿又ハ損壞シ其他消防夫ヲ抑留シ水便ヲ害スル等直接ニ火災消防ノ妨害トナルヘキ一切ノ行為ヲ包含スルモノトス

第一百五條

第九條第一項及ヒ第十條第一項ニ記載シタル物自己ノ所有ニ係ルト雖モ差押ヲ受ケ物權ヲ預摺シ又ハ貸貸シ若クハ保險ニ付シタルモノヲ燒燬シタルトキハ他人ノ物ヲ燒燬シタル者ノ例ニ同シ

本條ハ放火ノ目的物カ犯人ノ所有ニ屬スル場合ニ於ケル特例ヲ定メタルモノナリ即チ第九條第一項第十條第一項ニ掲クル物カ犯人ノ所有ニ屬スルト

キハ之ヲ燒燬スルモ他人所有ノ其物ヲ燒燬シタル場合ニ比シ其刑ノ輕キコトハ同條ノ規定スル所ナレトモ其物カ犯人ノ所有ニ屬スル場合ニ於テモ若シ其物カ直接ニ他人ノ權利ノ目的物タルトキハ其燒燬ニ因リ他人ノ權利ヲ害スルコト甚シク寧ロ他人ノ所有物ヲ燒燬シタル場合ト毫モ擇ム所ナキヲ以テ本條ニ於テハ斯ル場合ニ於テ他人ノ物ヲ燒燬シタル者ト同一ノ刑ヲ科スヘキモノトセリ從テ第九條第一項第十條第一項ノ刑ヲ科シ第九條第一項ノ規定スル物ニ付テハ其未遂又ハ豫備ヲモ之ヲ處罰スルナリ(一一三)

本條ニ差押ヲ受ケトハ民事裁判所ノ命令ニ因リ債權者カ差押ヲ爲シタル場合及ヒ租稅滯納處分ニ因リ收稅官吏カ差押ヲ爲シタル場合ヲ謂ヒ物權ヲ負擔シトハ特定物ニ付キ犯人以外ノ者カ民法第二編ニ規定スル占有權以下ノ物權ヲ有スル場合ヲ謂ヒ賃貸シトハ犯人カ其所有物ヲ一定ノ賃料ヲ得テ貸與シタル場合ヲ謂ヒ(故ニ保管寄託又ハ使川貸借ヲ包含セス)保險ニ付シタルモノトハ犯人カ其物ニ付キ他人ト火災其他ノ損害保險契約ヲ爲シ其物ノ燒失ニ因リ保險者ヨリ一定ノ保險金ヲ受領シ得ヘキ場合ヲ謂フナリ又他人ノ物ヲ燒燬シタル者ノ例ニ同シトハ他

人ノ物ヲ燒燬シタル場合ト同一ノ刑ヲ科ストノ意味ニシテ本條ニ掲クル犯人ノ所有物ハ他人ノ所有物ト看做ストノ謂ヒニ非ス(三四)從テ燒燬ノ故意ナキ延燒ノ場合ニ付テハ本條ハ其適用ナキモノトス故ニ他人ニ關係ナキ自己ノ所有物ヲ燒燬シ意外ニモ本條ニ掲クル物ニ延燒スルモ第百十一條ヲ適用スルノ限ニ在ラサルナリ

第百十六條 火ヲ失シテ第百八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物ヲ燒燬シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

火ヲ失シテ自己ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物又ハ第百十條ニ記載シタル物ヲ燒燬シ四テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ(舊刑四〇九)

本條ハ失火罪ニ付キ規定シタルモノナリ火ヲ失シテトハ過失ニ因リ火災ヲ生セシメタル場合即チ相當ノ注意ヲ加フルハ斯ル結果ヲ生セサルニ其注意ヲ怠リタル爲メ出火スルニ至リタル場合ヲ謂フナリ故ニ過失ノ有無及ヒ其程度ニ付テハ各個ノ場合ニ於テ判斷スヘキ事實問題ナリ

元來過失ハ犯意ナキ場合ナルヲ以テ原則トシテ之ヲ罰スルコトヲ得サレトモ本條ハ其危險ノ重大ナル爲メ特ニ之ヲ罰スルモノトセリ即チ火ヲ失シテ他人

所有ノ物ヲ燒燬シタルトキハ第一項ニ依リ處罰シ自己所有ノ物ヲ燒燬シタルトキハ之ニ因リ公共ノ危險ヲ生セシメタル場合ニ限り第二項ニ依リ處罰スルモノトス(三八)燒燬ノ意義ニ付テハ第百八條以下ノ説明ヲ看ルヘシ

第百十七條 火藥汽罐其他激發ス可キ物ヲ破裂セシメテ第百八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ハ放火ノ例ニ同シ自己ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物又ハ第百十條ニ記載シタル物ヲ損壞シ四テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

前項ノ行爲過失ニ出テタルトキハ失火ノ例ニ同シ(舊刑四一〇)

本條ハ準放火及準失火ニ付キ規定シタルモノナリ即チ故意ニ激發物ヲ破裂セシメ之ニ因リテ第百八條ニ掲クル物及ヒ他人ノ所有ニ屬スル第百九條ニ掲クル物ヲ損壞シタルトキ及ヒ自己ノ所有ニ屬スル第百九條第百十條ニ掲クル物ヲ損壞シテ公共ノ危險ヲ生セシメタルトキハ放火ニ準シ第百八條乃至第百十五條ノ區別ニ從ヒ之ヲ處罰スルモノトシ過失ニ因リ激發物ヲ破裂セシメ之ニ因リテ以上ノ結果ヲ生セシメタルトキハ失火ノ例ニ準シ前條ニ依リ處罰スルモノトセリ其詳細ニ至リテハ第百八條以下ノ説明ヲ參照セハ自ラ明瞭ナルヲ

以テ再言セス

第一百八條 瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ノ生命、身體又ハ財産ニ危險ヲ生セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

本條ハ瓦斯、電氣又ハ蒸汽ノ漏出、流出又ハ遮斷ニ關スル犯罪ヲ規定シタルモノナリ即チ瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ不當ニ漏出又ハ流出シ又ハ其漏出若クハ流出ヲ不當ニ遮斷シタル爲メ他人ノ生命、身體又ハ財産ニ對シ危險ヲ生セシメタル者ヲ處罰スルノ規定ナリ危險ヲ生セシメタルトキトハ他人ヲ窒息セシメ身體ヲ傷害シ又ハ財産ヲ燒燬若クハ破壞シタル場合ヲ謂フナリ而シテ其刑罰ハ一月以上三年以下ノ懲役又ハ二十圓以上百圓以下ノ罰金中適當ナル刑ヲ科スルモノトス右ノ行爲ニ因リ人ヲ死ニ致シ又ハ傷害シタルトキハ本條ノ刑ト傷害ノ刑(二〇〇五)トヲ比較シ其重キ傷害ノ刑ヲ以テ處罰スルモノトス

### 第十章 溢水及ヒ水利ニ關スル罪

第一百九條 溢水セシメテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車若クハ鐵坑ヲ浸害シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス(舊刑四一一)

本條ハ溢水罪ヲ規定シタルモノナリ溢水罪トハ堤防ヲ決潰シ、水閘ヲ破壞シ又ハ其他ノ手段(三、二)ヲ以テ自然ノ水流區域外ニ水ヲ氾濫セシムル行爲ヲ謂ヒ其結果本條ニ掲クル物ヲ浸害シタルトキハ本條ノ罪ヲ構成スルモノトス而シテ本條ノ罪ハ放火罪ト同シク人ノ身體、生命又ハ財産ニ對スル危險ヲ加フルコトヲ一ノ要素トスルヲ以テ浸害ノ程度カ右ノ危險ヲ生スヘキニ至ラサルトキハ既遂ヲ以テ論スルコト能ハサルナリ然トモ燒燬ノ既遂タルニ目的物ノ全部燒失ヲ要セサルト同シク浸害ノ既遂タルニモ物ノ全部ヲ浸害シ又ハ物ヲ流失セシムルコトヲ必要トセサルナリ其他ノ點ニ付テハ第一百八條ノ說明ヲ看ルヘシ

第二十條 溢水セシメテ前條ニ記載シタル以外ノ物ヲ浸害シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第二編 第十章 溢水及ヒ水利ニ關スル罪

浸害シタル物自己ノ所有ニ係ルトキハ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ貸貸シ若クハ保險ニ付シタル場合ニ限り前項ノ例ニ依ル(舊刑四一一、四一二)

本條モ亦溢水罪ヲ規定シタルモノニシテ前條ニ掲ケタル以外ノ物ヲ浸害シタル場合ナリ此場合ニ於テハ浸害ノミニ因リ犯罪カ成立セス實際公共ノ危險ヲ生セシメタルコトヲ必要トス此點ハ前條ノ溢水罪ト異ル所ナリ  
前條ニ掲ケタル以外ノ物ヲ浸害シ之ニ因リ公共ノ危險ヲ生セシメタルモ其浸害シタル物カ犯人自身ノ所有ニ屬スルトキハ之ヲ罰セサルヲ原則トス但其物カ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ貸貸シ若クハ保險ニ付シタル場合ニ限り他人ノ物ヲ浸害シタル場合ト同一ノ刑ヲ科スルニ過キス但以下ノ意義ニ付テハ第百十五條ニ述ヘタルト全然同一ナリ

第二百一十一條 水害ノ際防水用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ水防ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ水防ノ妨害罪ヲ規定シタルモノナリ而シテ本條ノ意義ハ鎮火妨害罪ニ付キ説明シタル所ト全然同一ナルヲ以テ其説明ヲ參照スヘシ(四一一)只本條ニ水

害ノ際トハ人カ故意又ハ過失ニ因リテ溢水セシメタル場合ト天災ニ基ク場合トヲ問ハサルコトヲ注意スヘキノミ

第二百二十二條 過失ニ因リ溢水セシメテ第百十九條ニ記載シタル物ヲ浸害シタル者又ハ第百二十條ニ記載シタル物ヲ浸害シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス(舊刑、四一四)

本條ハ過失溢水罪ヲ規定シタルモノナリ過失ノ意義ハ第百十六條ノ失火ニ付キ述ヘタル如シ又溢水及ヒ浸害ノ意義ニ付テハ第百十九條ニテ説明セリ

第二百二十三條 堤防ヲ決潰シ、水閘ヲ破壞シ其他水利ノ妨害ト爲ル可キ行爲又ハ溢水セシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス(舊刑、四一三)

本條ハ水利ノ妨害及ヒ溢水ト爲ルヘキ行爲ニ付キ規定シタルモノナリ水利トハ主トシテ農業上自然ノ水流ヲ使用スル便益ヲ謂ヒ堤防ヲ決潰シ、水閘ヲ破壞シ其他水流ヲ遮斷スル等從來ノ水利ヲ妨害スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ現ニ水利ヲ妨害セサルモ本條ノ罪ヲ構成スルモノトス

又堤防ヲ決潰シ、水閘ヲ破壊スル等自然ノ水流ヲ變更シ溢水セシムヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ現ニ溢水セシメサルモ第百十九條以下ノ規定スル溢水罪ノ未遂トナラスシテ本條後段ノ罪ヲ構成スルモノトス  
而シテ本條ノ刑罰ハ一月以上二年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金中適當ノ刑ヲ選擇スルコトヲ得ルモノトセリ

### 第十一章 往來ヲ妨害スル罪

#### 第二百二十四條

陸路水路又ハ橋梁ヲ損壞又ハ壅塞シテ往來ノ妨害ヲ生セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處断ス(舊刑一六二、一六八)

本條ハ往來妨害罪ヲ規定シタルモノナリ而シテ本條ニ陸路トハ陸上ノ通路ヲ謂ヒ水路トハ水上ノ通路ヲ謂ヒ橋梁トハ其架セラレタル場所カ陸上ナルト水上ナルトハ之ヲ問ハサルモ一般公衆ノ往來ニ供セラルコトヲ必要トシ一私人専用ノ通路又ハ橋梁ヲ包含セサルモノトス損壞及ヒ壅塞トハ人ノ往來ヲ妨害

スヘキ程度ニ達シタルコトヲ要シ道路ニ小孔ヲ穿テ橋上ニ小石ヲ並フルモ未タ損壞又ハ壅塞ト謂フヘカラス然レトモ往來ヲ妨害スヘキ損壞又ハ壅塞ヲ爲シタルトキハ其行爲ヲ爲スト同時ニ本罪カ成立シ現ニ往來ノ妨害ヲ受ケタル人ノ有無ハ毫モ本罪ニ影響ナキモノトス  
第二項ハ往來ノ妨害ト爲ルヘキ行爲ニ因リ人カ死傷シタル場合ナリ即チ犯人カ其行爲ニ因リ人ノ死傷スヘキコトヲ豫見セサル場合ニ於テハ前項ノ罪トヲ比較シ重キニ從テ處断スヘシトノ意義ナリ若シ人ノ死傷ヲ豫見シタルトキハ殺人又ハ傷害ノ罪ト本條ノ罪トニ付キ第五十四條前段ニ依リ重キニ從テ處断スヘキモノトス

#### 【參照判例】

◎道路トハ必シモ國縣村道ノミニ限ラス苟クモ公衆ノ往來ニ供シタルモノハ總テ之ニ包含ス(大審、四〇年判 決録一九六頁)

#### 第二百二十五條

鐵道又ハ其標識ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ汽車又ハ電車ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス



燈臺又ハ浮標ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ艦船ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ(舊刑、一六五、一六六)

本條ハ汽車、電車及ヒ艦船ノ往來妨害罪ヲ規定シタルモノナリ即チ鐵道、又ハ其標識、燈臺又ハ浮標ヲ損壞シ其他鐵道ニ障害物ヲ横へ若クハ水路ニ激發物ヲ埋没スル等苟モ汽車、電車又ハ艦船ノ往來ニ危險ヲ生スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ本條ニ依リ二年以上十五年以下ノ懲役ニ處スヘキモノトス然レトモ本條ノ罪ハ危險ヲ生スヘキ行爲ヲ爲スニ因リ成立シ其行爲ニ因リ實際上汽車、電車又艦船ノ覆没、衝突等ノ事故ノ發生シタルコトヲ必要トセサルナリ實害ノ發生シタル場合ニ於テハ次條以下ニ之ヲ規定セリ

第二百二十六條 人ノ現在スル汽車又ハ電車ヲ顛覆又ハ破壞シメタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

人ノ現在スル艦船ヲ覆没又ハ破壞シタル者亦同シ(舊刑、四一五)  
前二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

本條ハ汽車、電車及ヒ艦船ノ覆没又ハ破壞罪ヲ規定シタルモノナリ人ノ現在スルトハ乗組員タルト乘客タルト又一人ナルト數人ナルトヲ問ハス又本條ノ行

爲ハ顛覆、覆没及ヒ破壞ニ限ルヲ以テ單ニ衝突又ハ脱線セシメタルニ止ルトキハ本條ノ罪ヲ構成セスト雖モ此等ノ結果ヲ生スルノ豫見アルコトヲ要シ此豫見ナキトキハ次條ノ適用ヲ受クルモノトス

第三項ノ規定ハ犯人ノ豫見セサル致死ノ結果ヲ生シタル場合ニシテ犯人カ死ノ結果ヲ豫見シテ前二項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ普通ノ殺人罪ヲ構成スルコト勿論ナリ然レトモ其死ニ至リタル者カ其汽車、電車又ハ艦船内ノ人ナルト否トハ之ヲ問ハサルモノトス

第二百二十七條 第二百二十五條ノ罪ヲ犯シ因テ汽車又ハ電車ノ顛覆若クハ破壞又ハ艦船ノ覆没若クハ破壞ヲ致シタル者亦前條ノ例ニ同シ(舊刑、一六九、四一六)

本條ハ第二百二十五條ノ行爲ノ結果罪ヲ規定シタルモノナリ即チ汽車、電車又ハ艦船ノ覆没又ハ破壞ナル結果ノ生スルコトヲ豫見セシテ其往來ノ危險ヲ生スヘキ行爲ヲ爲シ其行爲ニ因リ何等ノ結果ヲ生セサルトキハ第二百二十五條ニ依リ處罰スヘキモノナレトモ若シ其行爲ニ因リ上述ノ結果ヲ生シタルトキハ本條ニ依リ處罰ストノ謂ヒナリ而シテ斯ル場合ニ於テハ前條ノ例ニ同シキヲ

以テ破壊覆没シタル汽車、電車又ハ艦船ニ人ノ現在シタル場合ニ限リ若シ人ノ現在セサルモノナルトキハ以上ノ結果ヲ生スルモ本條ノ適用ナキモノト謂ハサルヘカラス又本條ノ刑罰モ前條ト同一ナルヲ以テ破壊又ハ覆没ノ結果人ヲ死ニ至ラシメタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處スヘキモノトス

第二百二十八條 第二百二十四條第一項、第二百二十五條及ヒ第二百二十六條第一項、第二項ノ未

遂罪ハ之ヲ罰ス(懲刑、一七〇)

本條ハ往來妨害罪ノ未遂ヲ罰スル場合ヲ定メタルモノナリ即チ本條ニ掲クル各法條ノ規定スル行為ノ實行ニ著手シタルトキハ其犯罪ヲ遂クルニ至ラサルモ未遂罪トシテ之ヲ處罰ストノ謂ヒナリ但其刑ノ減輕又ハ免除アルコトハ第四十三條ノ規定スル所ナリ

又本條ニ於テ第二百二十四條第二項、第二百二十六條第三項、第二百二十七條ヲ掲ケサルハ此條ノ法條ハ犯人ノ全ク豫見セサル結果ニ付キ處罰スヘキ場合ニシテ其性質上未遂罪ヲ處罰スルコト能ハサルヲ以テナリ次條ニ規定スル過失罪ニ付キ未遂罪ナキコトモ亦同一ノ理由ニ外ナラス

第二百二十九條 過失ニ因リ汽車、電車又ハ艦船ノ往來ノ危險ヲ生セシメ又ハ汽車、電車ノ

顛覆若クハ破壊又ハ艦船ノ覆没若クハ破壊ヲ致シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

其業務ニ従事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ過失ニ因ル汽車、電車又ハ艦船ノ往來妨害罪ヲ規定シタルモノナリ過失ノ意義ニ付テハ第十六條ニ於テ説明シタル如シ本條ハ過失ニ因リ汽車、電車又ハ艦船ノ往來ニ危險ヲ生セシメ又ハ汽車、電車ノ顛覆、破壊、艦船ノ覆没、破壊ナル結果ノ生シタル場合ニ限リ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處スルモノナルヲ以テ其他ノ者ノ往來ヲ妨害シタル場合(一)(二)ハ之ヲ罰スル能ハサルナリ

又過失ニ因リ上述ノ結果ヲ生セシメタル者カ特種ノ業務ニ従事シ特別ノ注意ヲ施スヘキ義務アル者ナルトキハ重キ一月以上三年以下ノ禁錮又ハ二十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處スヘキモノトス蓋本條第二項ニ其業務ニ従事スル者トハ汽車、電車又ハ艦船ノ進行ニ關スル業務ニ従事スル者ヲ總稱ス例ヘハ運轉手、ポイントマン、艦長又ハ船長等ノ如シ此等ノ者ハ其電車、汽車又ハ艦船ノ進行ニ付キ其危險ヲ生セサシメ又ハ顛覆、覆没、破壊セサシムルコトニ付キ特ニ注

意ヲ施スノ義務アルモノナルヲ以テ其注意ヲ怠リタル爲メ斯ル結果ヲ生シタルトキハ之ニ重キ刑ヲ科スヘキモノトシ其従業者ヲシテ一層ノ注意ヲ施スヘキコトヲ促スノ法意ニ外ナラサルナリ

### 第十二章 住居ヲ侵ス罪

第三百三十條 故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若クハ艦船ニ侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス  
(懲刑一七一、一七二)

本條ハ邸宅侵入罪ヲ規定シタルモノナリ故ナクトハ居住者又ハ看守人ノ意ニ反スルコトヲ意味シ明示又ハ默示ノ承諾アルトキヲ包含セス人ノ看守スルハ管理人ノ存スル場合ヲ意味シ其邸宅、建造物若クハ艦船内ニ現ニ人ノ存スル場合ノミニ限ラス例ヘハ一定ノ管理人アル空家ノ如シ又人ノ住居トハ獨立ノ建造物タルコトヲ要セス苟モ他人カ寢食、安息ヲ爲ス爲メ區劃セラレタル場所ヲ謂フモノトス例ヘハ旅館又ハ船舶内ノ客室ノ如シ  
以上ノ場所ニ故ナク侵入シ又ハ一旦住居者、管理人ノ承諾ヲ得テ入りタル者カ

要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサルトキハ本條ニ依リ一月以上三年以下ノ懲役又ハ二十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處スルモノトス

#### 【參照判例】

◎故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入ルトハ正當ノ事故ナクシテ人ノ住居ニ侵入スルヲ謂フ(大審三二年判決 録三卷一〇一頁)

第三百三十一條 故ナク皇居、禁苑、離宮又ハ行在所ニ侵入シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス  
神宮又ハ皇陵ニ侵入シタル者亦同シ(懲刑一七三)

本條ハ特別ノ邸宅侵入罪ヲ規定シタルモノトス即チ故ナク侵入シタル場所カ皇居、禁苑、離宮、行在所、神宮又ハ皇陵ナル場合ニ於テハ他ノ場所ニ侵入シタル罪ヨリ重キ刑ヲ科スルモノトセリ本條ハ特別罪ニシテ故ナク侵入シタル場合ニ限ルヲ以テ要求ヲ受ケテ退去セサルモ前條ニ依リ之ヲ處罰スルコト能ハス然レトモ其侵入シタル場所カ本條所定ノ特別ノ場所ナルコトヲ知ラサルトキ例ヘハ禁苑ヲ一私人ノ邸園ト誤解シテ侵入シタル場合ノ如キハ本條ニ依リ處罰

スルコト能ハサス只前條ノ刑ヲ科セラルルモノトス(三八)

第三百三十二條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ邸宅侵入罪ノ未遂ヲ罰スヘキコトヲ定メタルモノナリ未遂罪ニ付テハ前數章ニ於テ述ヘタル外總則ノ規定ノ條下ニ於テ説明シタルヲ以テ本條ニ於テハ更ニ之ヲ説カス(四三)

### 第十三章 秘密ヲ侵ス罪

第三百三十三條 故ナク封緘シタル信書ヲ開披シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ信書開披罪ヲ規定シタルモノナリ故ナクトハ第三百三十條ニ於テ説明シタルト同シ只信書カ受信人ニ著シタル後ニ於テハ發信人ノミノ承諾ヲ得ルモ之ヲ開披スレハ故ナキ開披ナリ封緘シタル信書トハ特定ノ人ニ對シ意思ヲ傳達スヘキ文書ニシテ之ニ封緘ヲ施シタルモノヲ謂フ故ニ郵便端書又ハ小包郵便ヲ包含セス然レトモ其信書ハ郵便ニ依リ送達セラルルト特使ヲ以テ送達セ

ラルルトヲ問ハス開披トハ其信書ノ内容ヲ閱覽シ得ル程度ニ於テ封緘ヲ破棄スルコトヲ謂フナリ但本條ノ罪ハ其封緘ヲ開披スルニ因リテ成立スルモノナルヲ以テ犯人カ實際其信書ヲ閱覽シタルト否トヲ問ハサルモノトス  
本罪ノ處分ハ一年以上一年以下ノ懲役又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金中相當ノ刑ヲ科スヘキモノトス

#### 第三百三十四條

醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

宗教者クハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキ亦同シ(舊刑三六〇)

本條ハ秘密漏泄罪ヲ規定シタルモノナリ本條ニ掲クル者ハ其業務ノ性質上人ノ秘密ヲ知り得ル場合多キヲ以テ故ナク之ヲ漏泄スルトキハ人カ安シテ其業務ニ信賴スルコト能ハサルニ至ルヲ以テ本條ニ於テハ獨立ノ罪トシテ之ヲ罰スルモノトセリ然レトモ本條ノ罪ヲ構成スルニハ本條ニ掲クル特定ノ業務ニ従事スル者カ其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知り得タル人ノ秘密ナルコトヲ

要スルヲ以テ業務外ニ於テ知り得タル人ノ秘密ヲ漏泄スルモ本條ノ罪トナラ  
 ス又秘密トハ一私人カ他人ニ知ラルルコトヲ欲セサル總テノ私事ヲ謂ヒ漏泄  
 トハ他人ノ秘密ヲ第三者ニ告知スルコトノ意ニシテ其方法カ文書ニ依ルト言  
 語ニ依ルト公然ナシタルト隱密ニナシタルトヲ問ハス又一人ニ告ケタルト數  
 人ニ告ケタルトヲ問ハス等シク漏泄ナリ故ナクトハ既ニ述ヘタル如シ(一三)故  
 ニ明示又ハ點示ノ承諾アルトキハ其者ノ秘密ヲ漏泄スルモ本罪ヲ構成セス尙  
 辯護人ハ辯護士タルコト通常ナレトモ辯護士ニ非シテ刑事事件ノ辯護ヲ爲  
 ス者アルヲ以テ(刑訴七九)本條ハ其兩者ヲ掲ケタリ

第三百三十五條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス(舊刑三六一)

本條ハ前二條ノ罪ニ特別ナル訴追條件ヲ定メタルモノナリ即チ前二條ノ罪ハ  
 一私人ノ秘密ヲ保護スルコトヲ直接ノ目的ト爲シ縱令信書ヲ開披シ又ハ秘密  
 ヲ漏泄スルモ其被害者ノ意ニ反セサルトキハ初メヨリ犯罪ヲ構成セサルモノ  
 ナルヲ以テ一旦故ナク右ノ行爲ヲ爲スモ被害者ニ於テ其處罰ヲ要求セサルト  
 キハ進ンテ之ヲ處罰スルノ必要ナキノミナラス之ヲ處罰スルトキハ一層其秘

密ヲ社會ニ曝露スルコトトナリ被害者ノ利益ヲ害スルノ結果ヲ生スヘキニ因  
 リ本條ハ之ヲ親告罪ト爲シ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論スヘキモノトセリ然レ  
 トモ前二條ノ罪ハ被害者ノ告訴ニ因リ初メテ犯罪ヲ構成スルモノニ非スシテ  
 單ニ此告訴アルニ非サレハ檢事力之ヲ訴追スルコト能ハサルニ止ルモノトス  
 換言スレハ親告罪ニ於ケル告訴ハ犯罪構成ノ條件ニ非スシテ一ノ訴追條件ナ  
 ルヲ以テ檢事カ告訴ヲ待タスシテ起訴シタルトキハ裁判所ハ公訴不受理ノ判  
 決ヲ爲スヘキモノニシテ固ヨリ無罪ノ判決ヲ爲スヘキモノニ非サルナリ(刑訴  
 八六)

告訴ハ被害者ニ於テ檢事又ハ司法警察官ニ對シテ之ヲ爲スヘキモノナレトモ  
 若シ被害者カ無能力者ナルトキハ法律上代理人即チ親權者又ハ後見人ヨリ之  
 ヲ爲スコトヲ得其方式ニ付テハ刑事訴訟法ノ規定ニ從フヘシ(刑訴四九乃至五  
 一五四)

### 第十四章 阿片煙ニ關スル罪

第三百三十六條 阿片煙ヲ輸入製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル

第二編 第十四章 阿片煙ニ關スル罪

者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス(舊刑、二三七)

本條ハ阿片煙ノ輸入、製造、販賣及ヒ所持罪ヲ規定シタルモノナリ而シテ輸入トハ帝國外ヨリ帝國内ニ運ヒ來ルノ謂ヒニシテ帝國内ノ或場所ヨリ他ノ場所ニ移送スルハ輸入ニ非ス製造トハ新ニ阿片煙ヲ作製スルコトヲ謂ヒ自ラ之ヲ吸食スル爲メナルト他人ニ賣却スルノ目的ニ出ルトヲ問ハス販賣トハ特定セサル多數人ニ對シ賣却スルノ目的アルコトヲ要シ一友人ニ之ヲ賣却スル如キハ販賣ニ非ス所持トハ自己ノ支配ノ下ニ置クコト即チ自由ニ處分シ得ル状態ニ置クコトヲ意味シ必シモ現ニ之ヲ手ニ握リ懷中ニ收ムルコトヲ必要トセス但本條ノ所持罪ハ販賣ノ目的ヲ以テ所持スルコトヲ必要トシ此目的ナキトキハ第四百十條ニ依リ處罰スルモノトス

尙行政官廳ノ免許ヲ得テ阿片ヲ製造販賣シ醫師カ之ヲ患者ニ販賣スルカ如キハ法令ノ認ムル所ナルヲ以テ本條ノ適用ナキコト勿論ナリ(明治三〇年法律二七號同年臺灣律令二號)

照參

【參照判例】

◎輸入トハ陸上ニ在テハ國境線ヲ踰越シ海上ニ在テハ船舶ヨリ陸揚シテ外國貨物ヲ國內ニ運ヒ入ルル行爲ヲ指稱ス從テ外國貨物ヲ積載シタル船舶カ我領海ハ勿論我港内ニ入ルモ之ヲ以テ輸入ト謂フコト能ハス(大審四〇〇七頁決)

第三百三十七條 阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス(舊刑、二三八)

本條ハ阿片煙吸食器具ニ關スル犯罪ヲ定メタルモノナリ本條ノ意義ハ前條ニ於テ説明シタル所ニ依リ明カナルヲ以テ茲ニ之ヲ再說セス

第三百三十八條 稅關 吏阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ輸入シ又ハ其輸入ヲ許シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス(舊刑、二三九)

本條ハ特別ノ身分ヲ有スル者カ輸入ヲ爲シタル場合ヲ規定シタルモノトス即チ稅關官吏ハ直接ニ輸入ニ關スル職務ヲ擔當スル者ナルヲ以テ通常人カ之ヲ犯シタル場合ニ比シ其刑責ヲ加重スルノ必要アルコト勿論ナルヲ以テ特ニ本條ニ於テ之ヲ規定シタルナリ又通常人カ密輸入ヲ爲スコトヲ知リナカラ之ヲ許容シタル如キ場合ニ於テモ亦自ラ輸入シタル場合ト同一ノ刑ヲ科スモノト

セリ輸入ヲ許シタルトキトハ明カニ其輸入ヲ許容シタル場合ハ勿論其輸入ヲ默認シタル場合ヲモ包含スルモノトス

第三百三十九條

阿片煙ヲ吸食シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス  
阿片煙ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖リタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス(舊刑、二四〇、二四一)

本條第一項ハ阿片煙吸食罪ヲ規定シタルモノニシテ第二項ハ其房屋給與罪ヲ規定シタルモノトス吸食罪ニ付テハ特ニ說明ノ要ナシ房屋給與罪ハ利ヲ圖ルコトヲ其構成條件ト爲スヲ以テ何等ノ利益ヲ豫想セサルトキハ本罪ヲ構成スルコトナク吸食罪ノ從犯トナルニ過キス(六二)然レトモ利ヲ圖リトハ利益ヲ得ルコトヲ目的トスルヲ以テ足り必シモ現ニ一定ヲ利益ヲ取得シタルコトヲ必要トセス又其利益ハ必シモ金錢ノ取得ノミニ限ラサルモノトス

第四百十條

阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ所持シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス(舊刑、二四二)

本條ハ單純ナル阿片煙及ヒ其吸食器具ノ所持罪ヲ規定シタルモノトス所持ノ

意義ニ付テハ第三百三十六條ニ於テ說明シタルト同シ只茲ニ所持トハ毫モ其目的ノ如何ヲ問ハサルヲ以テ自ラ之ヲ吸食使用スル爲メナルト他人ニ賣却スル爲メナルト(販賣ノ爲メ所持スルト)又ハ他人ヨリ寄託ヲ受ケタル爲メナルトヲ問ハス之ヲ所持スルトキハ本罪ヲ構成スルモノトス

第四百十一條

本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ阿片煙ニ關スル罪ノ未遂ヲ規定シタルモノナリ未遂ノ意義及ヒ其刑罰ニ付テハ既ニ屢々之ヲ說明シタルヲ以テ參照スヘシ(四三)

第十五章 飲料水ニ關スル罪

第四百十二條

人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用ユルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス(舊刑、二四三)

本條ハ普通ノ飲料水汚穢罪ヲ規定シタルモノトス人ノ飲料ニ供スル淨水トアルヲ以テ犯人以外ノ人ノ飲料淨水ナル以上ハ其人カ一人ナルト數人ナルトヲ問ハサルモ(次條ノ公衆飲料)田圃灌漑用水、家畜ノ飲料水及ヒ淨水以外ノ液體例ヘハ

鑛泉、酒等ヲ包含セス汚穢トハ淨水ヲ不潔ナラシムル行爲ヲ總稱シ其方法ノ如何ハ之ヲ問ハスト雖モ汚穢ノ結果其淨水カ人ノ飲料ニ適セサルニ至ラサレハ本罪ヲ構成セス

本條ノ刑ハ選擇刑ナリ懲役罰金ノ兩刑中犯情ニ對應スル適當ノ刑ヲ選擇シテ科スヘキモノトス

第四百十三條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ヲ汚穢シ因テ之ヲ用ユルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス(舊刑、二四三)

本條ハ水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料水ノ汚穢罪ヲ規定シタルモノナリ水道ニ由リ公衆ニ供給スルコトヲ要スルヲ以テ水道ニ由ルモ公衆ニ供給セサルモノ及ヒ公衆ノ飲料ニ供スルモ水道ニ由ラサルモノヲ包含セス例ヘハ特定人ノ飲料ニ供スル爲メ寬ニテ清水ヲ呼フモノ又ハ公衆ノ飲料ニ供スル泉水ノ如シ此等ノ場合ニ於テ總テ前條ニ依リ處罰スヘキナリ其他ノ點ニ付テハ前條ノ說明ヲ參照スヘシ

第四百十四條 人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル

者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス(舊刑、二四四)

本條ハ健康危害物ヲ飲料淨水ニ混入シタル場合ヲ規定シタルモノナリ人ノ飲料ニ供スル淨水ノ意義ハ第四百十二條ニ於テ説明シタル如シ毒物其他人ノ健康ヲ害スヘキ物即チ各種ノ病菌ノ如キ物ヲ淨水ニ混入シタルトキハ直ニ本罪カ成立シ現ニ健康ヲ害シタル者ノ有無ハ本罪ニ關係ナキナリ(次條)

第四百十五條 前三條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス(舊刑、二四五)

本條ハ前三條ノ罪ニ關スル一ノ結果ヲ規定シタルモノトス即チ人ノ飲料淨水ヲ汚穢シ又ハ之ニ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入スルモ之カ爲メ常ニ人ノ死傷ナル結果ノ伴フモノニ非スト雖モ若シ右ノ行爲ニ因リ斯ル結果ヲ生シタルトキハ前三條ノ刑ト傷害罪ノ刑(三〇四)トヲ比較シテ其重キニ從フヘキモノトセリ(四六後)但人ヲ殺害スル目的ヲ以テ其者ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ又ハ之ニ毒物ヲ混入シタルトキハ當然殺人罪ノ規定(一九九乃至二〇三)ニ依リ處罰シ本條ノ適用ナキコト勿論ナリ



第四百四十六條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若リハ五年以上ノ懲役ニ處ス

本條ハ健康危害物ヲ水道ノ淨水又ハ水源ニ混入シタル場合ナリ而シテ此意義ニ付テハ第四百四十四條ニ於テ説明シタルト全ク同一ナリ只本條前段ノ罪ヲ犯シ之ニ因リ人ヲ死ニ致シタルトキハ普通ノ飲料淨水ニ毒物其他ノ物ヲ混入シ之ニ因リ人ヲ死ニ致シタル場合ノ刑(五、四)ニ比シ特ニ重キ刑ヲ定メタルコトヲ注意スヘシ

第四百四十七條 公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞又ハ壅塞シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ水道ノ損壞及ヒ壅塞罪ヲ規定シタルモノナリ本罪ノ目的物ハ公衆ノ飲料ニ供スル水道ナルコトヲ要シ其意義ニ付テハ前數條ニ於テ説明シタル所ナリ其水道ヲ損壞シタルトキ又ハ其水道ヲ壅塞シテ水流ヲ害シタルトキ本罪ハ成立スルモノニシテ損壞又ハ壅塞ノ手段ハ固ヨリ之ヲ問ハサルナリ

### 第十六章 通貨偽造ノ罪

第四百四十八條 行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス  
偽造變造ノ貨幣紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ(舊刑一八二乃至一八六、一八九)

本條ハ通貨ノ偽造及ヒ變造罪ヲ規定シタルモノナリ茲ニ通貨トハ貨幣紙幣及ヒ銀行券ヲ總稱シ貨幣トハ貨幣法ノ規定スル金銀貨白銅貨及ヒ青銅貨ヲ謂ヒ紙幣トハ貨幣ニ代用セラルル紙標ヲ謂フ明治初年ニ於テ政府又ハ國立銀行ヨリ之ヲ發行シタルトモ孰レモ其紙幣ハ明治三十二年十二月限り其通用ヲ失ヒ其後之ヲ發行セサルヲ以テ現今ニ於テハ全ク通用ノ紙幣ナシ次ニ銀行券トハ特種ノ銀行ニ於テ發行スル兌換券ニシテ強行通用力ヲ有スルモノナリ現今取引上ニ通用セラルル日本銀行兌換券ハ通俗ニ紙幣ト稱スレトモ法律上ニ於テハ一種ノ銀行券ニ外ナラス銀行券ハ日本銀行ニ於テ發行スルモノノ外臺灣銀

行及ヒ横濱正金銀行ニ於テモ之ヲ發行スルコトアリ以上ニ述ヘタル通貨ハ現ニ通用スルモノニ限り本罪ノ目的トナルモノトス  
 而シテ偽造トハ以上ニ述ヘタル通貨ヲ製造スル權ナキ者カ真正ノ通貨ニ模擬シタル物ヲ製作スルコトヲ謂ヒ變造トハ真正ナル通貨ヲ材料トシ其一部ヲ變換シテ他ノ通貨ニ模擬スルコトヲ謂フナリ換言スレハ通貨ノ偽造ト變造トハ真正ナル通貨ニ模擬シタル物ヲ製作スル點ニ於テハ差異ナシト雖モ一ハ真正ナル通貨ヲ材料トシ一ハ否ラサル點ニ於テ之ヲ大略區別スルコトヲ得ヘシ然レトモ變造ハ真正ナル通貨ノ一部ヲ變換スルコトヲ要素トスルヲ以テ縱令真正ナル通貨ヲ材料トスルモ其全部ヲ變換シタルトキ例ヘハ一錢銅貨數個ヲ溶解シ之ヲ材料トシテ二錢銅貨數個ヲ製作スルカ如キハ偽造ニシテ變造ニ非ス又偽造及ヒ變造ハ共ニ真正ナル通貨ニ模擬スルコトヲ要スルヲ以テ楕圓形ノ貨幣類似物又ハ一億圓ノ名價ヲ附シタル銀行券類似物ヲ製作スルモ現今ニ於テハ固ヨリ偽造又ハ變造トナラス又偽造及ヒ變造ハ行使ノ目的即チ通貨トシテ之ヲ通用セシムル目的ニ出テタルコトヲ必要トスルヲ以テ斯ル目的ナキトキ

例ヘハ一ノ玩具ニ供スル目的ニ出テタルコト明カナルトキハ本條ノ罪ヲ構成スルモノニ非ス

第二項ニ偽造又ハ變造ノ通貨ヲ行使シトアルハ之ヲ真正ナル通貨トシテ他人ニ交付シ之ヲ通用セシムルコトヲ謂ヒ交付トハ偽造又ハ變造ナルコトヲ告ケ之ヲ真正ナル通貨トシテ流通セシムル爲メ即チ行使ノ目的ヲ以テ他人ニ交付スルコトヲ謂フナリ輸入ノ意義ハ既ニ述ヘタリ(六三)  
 本罪ノ刑ハ選擇刑ニシテ無期又ハ三年以上十五年以下ノ懲役刑中適當ナルモノヲ選擇科刑スヘキモノナルモ若シ行使ノ目的ヲ以テ偽造又ハ變造シ之ヲ行使シタルトキハ手段結果ノ關係アル場合ナルニ依リ一ノ重キ刑ニ從ヒ處分スヘキモノトス(五四)

【參照判例】

- ◎銅貨ヲ用ヒテ銀貨ヲ作製シタル銀貨ノ偽造ナリ(大審三九九年判決七六八頁)
- ◎行使トハ真正ノモノトシテ情ヲ知ラサル者ニ對シ使用スルコトヲ謂フ故ニ偽造タルノ情ヲ明カシテ他ニ交付スルモ行使ニ非ス(大審三七年判決一〇九六頁)

第四百十九條 行使ノ目的ヲ以テ内國ニ流通スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

偽造、變造ノ外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若リハ輸入シタル者亦同シ(舊刑一八二乃至一八六、一八九)

本條ハ内國ニ流通スル外國通貨ノ偽造及ヒ變造罪ヲ規定シタルモノナリ内國ニ流通スル外國ノ通貨トハ事實上内國ニ於テ流通セラルル外國ノ通貨ヲ謂フニ非スシテ法令ニ因リ内國ニ於ケル流通ヲ認許シタル外國ノ通貨ヲ指稱スルナリ現今ニ於テハ斯ル外國ノ通貨ナシト雖モ將來斯ル事例ノ生スルコトナキヲ保セスト認メ本條ノ規定ヲ設ケタルモノトス  
本條ノ解説ハ前條ト全ク同一ナルヲ以テ之ヲ省略ス

第五十條 行使ノ目的ヲ以テ偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ取得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス(舊刑一九〇)

本條ハ偽造又ハ變造ノ通貨取得罪ヲ規定シタルモノナリ即チ偽造又ハ變造ノ通貨タルコトヲ知リナカラ之ヲ行使スル目的ヲ以テ取得シタル者ハ一月以上三年以下ノ懲役ヲ處ストノ意ナリ茲ニ收得トハ其通貨ノ所持ヲ取得シタルニ

切ノ行爲ヲ總稱スルモノニシテ他人ヨリ之ヲ讓受ケタルト或ハ之ヲ拾得シタルトヲ問ハス其取得ノ當時行使ノ目的ヲ有シタルトキハ本條ノ罪ヲ構成スルモノトス(三五)但其取得後之ヲ行使シタルトキハ前二條第二項ノ罪トナルコト勿論ナリ

尙本條ニハ單ニ偽造、變造ノ貨幣云々トアリテ特ニ通用又ハ流通ノ文字ナシト雖モ(前二條)現ニ通用又ハ流通スルモノニ非サレハ偽造又ハ變造罪トナラサルコト前二條ニ於テ説明シタル如クナルヲ以テ本條ニ所謂貨幣云々トアルハ現ニ通用スルモノ又ハ現ニ流通スル外國ノ貨幣其他ノモノヲ指稱スルコト明カナリ

第五十一條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス(舊刑一八二乃至一八六、一八九)

本條ハ前三條ノ罪ノ未遂ヲ罰スルコトヲ規定シタリ而シテ未遂罪ノ意義及ヒ刑罰ニ付テハ既ニ屢々述ヘタルヲ以テ前ノ説明ヲ參照スヘシ(四三)

第五十二條 貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ取得シタル後其偽造又ハ變造ナルコトヲ知テ之ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シタル者ハ其名價三倍以下ノ罰金又ハ

科料ニ處ス但一圓以下ニ降スコトヲ得ス(懲刑一九三)

本條ハ偽造又ハ變造通貨ノ行使罪ヲ規定シタルモノニシテ其通貨收得後偽造又ハ變造ノ事實ヲ知リタル場合ニ關スルモノトス行使及ヒ交付ノ意義ニ付テハ第四百四十八條ノ說明ヲ看ルヘシ

本罪ノ刑罰ハ罰金又ハ科料ニシテ其多額ハ名價ノ三倍トス故ニ例ヘハ偽造又ハ變造ノ百圓金貨一個ヲ行使又ハ交付シタルトキハ三百圓以下ノ罰金又五圓銀行券一枚ヲ行使又ハ交付シタルトキハ十五圓以下ノ科料ヲ以テ多額トス但其寡額ハ罰金ハ二十圓科料ハ十錢以上ナレトモ(一七五)本條ノ但書ニ依リ一圓以下ニ降スコト能ハサルヲ以テ科料ノ寡額ハ常ニ一圓以上トナルヘシ從テ偽造又ハ變造ノ二十錢銀貨一個ヲ使用又ハ交付シタル場合ニ於テハ其名價ノ三倍ハ六十錢ニ過キサレモ尙一圓ノ科料ニ處スヘキモノトス

又本條ニ所謂名價トハ偽造又ハ變造ニ因リ製作シタル通貨ノ附シタル名價ヲ指シ其材料ニ供シタル真正ナル通貨ノ名價ヲ意味スルモノニ非ス故ニ例ヘハ五厘銅貨ニ鍍金シテ二十錢銀貨ヲ變造シタルトキハ其變造貨幣ノ名價ハ即チ

二十錢ナルカ如シ

第五百五十三條 貨幣紙幣又ハ銀行券ノ偽造又ハ變造ノ用ニ供スル目的ヲ以テ器械又ハ原料ヲ準備シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス(懲刑一八二乃至一八六、一八九)

本條ハ通貨偽造又ハ變造ノ準備罪ヲ規定シタルモノナリ凡ソ犯罪ノ準備ハ之ヲ罰セサルヲ原則トシ特別ノ場合ニ於テノミ處罰スルモノナルコトハ既ニ述ヘタル如シ(四三)本條ハ其特別ノ場合ニ該當スルモノトス本條ノ罪ハ器械又ハ原料ヲ準備シタル場合ニ限ルヲ以テ其他ノ準備ヲ爲スモ本罪ノ成立セサルコト勿論ナリ例ヘハ工場ヲ新築シ職工ヲ雇入レ又ハ偽造變造ノ方法ヲ考究スルカ如キ孰レモ本條ノ適用ヲ受クヘキ準備ニ非サルナリ

【參照判例】

◎偽造器械ノ豫備罪ハ其器械ノ幾部ヲ準備スルヲ以テ足り必シモ其諸器械悉皆ノ準備ヲ必要トセス(大審二八年判 決録三〇六頁)

### 第十七章 文書偽造ノ罪

第五十四條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シ又ハ偽造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

御璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ヲ變造シタル者亦同シ(舊刑、一九四乃至一九七、二〇二乃至二〇五)

本條ハ詔書ノ偽造又ハ變造罪ヲ規定シタルモノナリ而シテ本條第一項前段ハ眞正ナル御璽、國璽又ハ御名ヲ使用シ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル場合ニシテ後段ハ自己又ハ他人ノ偽造ニ係ル此等ノモノヲ使用シテ右ノ文書ヲ偽造シタル場合ニ關シ第二項ハ眞正ナル御璽、國璽ノ押捺セル文書又ハ眞正ナル御名ノ署シアル文書ヲ變造シタル場合ニ關スルモノトス御璽トハ陛下ノ御印章ヲ謂ヒ國璽トハ帝國ノ印章ヲ謂ヒ御名トハ陛下ノ御署名ヲ意味ス詔書其他ノ文書トハ御璽、國璽又ハ御名ヲ署スヘキ一切ノ文書ヲ指ス例ヘハ勅書、上諭、官記、勅記、位記其他外交上ノ御親書ノ如シ(明治四〇年勅(六號公式令))

偽造又ハ變造ノ意義ハ第四百四十八條ニ於テ説明シタルト同シ即チ御璽、國璽若クハ御名ノ偽造トハ眞正ナル御璽、國璽若クハ御名ニ模擬シ其影蹟又ハ御名ヲ

描出スルコトヲ謂ヒ詔書其他ノ文書ノ偽造トハ公式令ニ依リ御璽、國璽若クハ御名ヲ必要トスル文書ヲ新ニ作成スルコトヲ謂ヒ其偽造文書ト同一内容ヲ有スル眞正文書ノ存スルト否トヲ問ハス又變造トハ眞正ナル文書ノ一部ヲ變換スルコトヲ謂フ然レトモ其文書ノ性質ヲ全然變更スルニ至リタルトキハ偽造ニシテ變造ニ非ス

以上ニ述ヘタル偽造又ハ變造ハ行使スル目的即チ眞正ナル文書トシテ之ヲ使用スルノ意思アルコトヲ必要トス故ニ此意思ナキトキハ縱令偽造又ハ變造スルモ本罪ヲ構成スルコトナシ但之ヲ行使シタルトキハ別ニ行使罪ヲ構成スルコト後ニ述フヘシ(一五)

第五十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ公務所又ハ公

務員ノ作リタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス(懲刑一九四乃至一九七二〇ニ乃至二〇五、二一三)

本條ハ公文書ノ偽造又ハ變造ヲ規定シタルモノナリ而シテ第一項前段ハ真正ナル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シ後段ハ自己又ハ他人ノ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ孰レモ公務所又ハ公務員ノ作成スヘキ文書又ハ圖畫ヲ偽造シタル場合ヲ規定シ第二項ハ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名アル真正ノ公文書又ハ圖畫ヲ變造シタル場合ヲ規定シ第三項ハ真正又ハ偽造ナル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用セスシテ公文書又ハ圖畫ヲ偽造シ又公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ナキ公文書又ハ圖畫ヲ變造シタル場合ヲ規定セリ

公務所及ヒ公務員ノ意義ハ第七條ニ於テ説明シ偽造及ヒ變造ノ意義ハ第四百四十八條及ヒ前條ニ於テ之ヲ説明シタリ而シテ本條ニ所謂文書又ハ圖畫ハ公務所又ハ公務員カ其職責上作成スヘキ文書又ハ圖畫ヲ指スモノナルヲ以テ一實<sup>ニ</sup>在セサル公務所又ハ公務員ノ名義ヲ用ヒタルモノハ勿論縱令實在セル公務所

又ハ公務員ノ名義ヲ以テ或文書又ハ圖畫ヲ作成スルモ其職務ニ關セサルモノナルトキハ本條ノ適用ナシ例ヘハ他人カ官吏其ノ一私人タル資格ニ於ケル名義ヲ使用シテ借用證書ヲ偽造スルニ當リ某信用ヲ増加スル爲メ偶々官名ヲ記載シ又ハ官印ヲ押捺シタル如シ二、一私人ノ作成シタル文書又ハ圖畫ハ公務所又ハ公務員カ保管シ公務上之ヲ使用スルモ本條ノ文書又ハ圖畫トナラス例ヘハ裁判所ニ於テ保管中ナル一私人ノ作成シタル告訴狀ヲ變造スルモ本條ノ適用ナキカ如シ然レトモ一私人ノ作成シタル文書又ハ圖畫ニシテ公務所又ハ公務員ノ證明ヲ得タルモノハ其證明ノ部分ニ止マラス全部本條ノ文書又ハ圖畫トナル例ヘハ市町村長カ一私人ノ在籍證明願ノ末尾ニ證明ノ文言ヲ記載シタル場合ノ如シ故ニ斯ル文書ヲ一私人カ占有中變造シタルトキハ本條ノ罪ヲ構成スルモノトス

本條ノ罪モ亦行使ノ目的ニ出テタルコトヲ要スルハ前條ノ偽造又ハ變造罪ト同一ナリ

## 【參照判例】

- ② 印鑑簿ハ印章ニ非スシテ文書ナリ故ニ其印影ヲ塗抹シテ更ニ偽印ヲ押捺シタル所爲ハ文書變造ナリ(大審二九年判決 録一卷一一二頁)
- ③ 郵便爲替證書ハ官文書ナリ(大審三三年判決 録二卷一一一頁)
- ④ 海外旅行券ハ免狀鑑札ニ非スシテ官文書ナリ(大審三四年判決 録六卷四頁)
- ⑤ 法律ニ於テ代理ヲ許ス場合ナルト否トニ拘ハラヌ代理權限ナキ者カ擅ニ其代理ト記入シ之ヲ以テ眞ニ官ヨリ發シタル文書ナリトシテ行使シタルハ官文書偽造行使罪ナリ(大審三五年判決 録九卷八七頁)
- ⑥ 官報ハ官文書ナリ(大審三七年判決 録一四四二頁)
- ⑦ 官署ノ名稱ニ多少ノ相違アルモ苟モ實在セル官署ヨリ出テタル文書ナリトシテ人ヲ欺クニ足ルモノヲ偽造行使シタルトキ官文書偽造行使罪ナリ(大審二七年判決 録一七頁)
- ⑧ 苟クモ官署ヨリ出ツヘキ文書ナル以上ハ其公權關係ニ於テ作成シタルモノナルト否トニ拘ハラヌ官文書ナリ(大審三八年判決 録二一七頁)
- ⑨ 署名者ノ資格ヲ僞冒シ新ニ文書ヲ作成スルハ偽造ニシテ署名者アル既存ノ

文書ニ變更ヲ加フルハ變造ナリ(大審三九年判決 録一四〇頁)

- ⑩ 既存ノ文書ニ増減變換ヲ加ヘタル場合ト雖モ常ニ文書變造罪ノミヲ構成スルモノニ非ス單ニ文書ノ證明力ヲ増減變更シタルニ過キサルトキハ文書變造ニシテ其増減變更ニ因リテ新ナル證明力ヲ具有スルトキハ文書偽造罪ナリ(大審四〇年判決 録九六七頁)

- ⑪ 文書ノ偽造トハ文書ノ作成名義ヲ詐ハルノ義ニシテ其内容ハ必シモ眞實ニ違フコト要セス(大審四〇年判決 録一三九三頁)

- ⑫ 帝國鐵道廳カ手荷物ノ發送ニ付キ使用シタル驛名札ハ本條第三項ノ文書ナリ(大審四二年判決 録八七七頁)

第五十六條 公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虛偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ文書若クハ圖畫ヲ變造シタルトキハ印章署名ノ有無ヲ區別シ前二條ノ例ニ依ル(舊刑二〇二乃至二〇五)

本條ハ公務員ノ公文書偽造又ハ變造罪ヲ規定シタルモノナリ即チ前段ニ於テハ公務員カ其職務ニ關スル虛偽ノ文書又ハ圖畫ヲ作成シタル場合ヲ規定シ後

段ハ公務員カ眞正ナル公文書又ハ圖畫ノ保管中之ヲ變造シタル場合ヲ規定シタルモノトス故ニ本條ノ罪ハ公務員タル身分ヲ以テ構成條件トスル犯罪ナリ從テ此身分ナキ者ハ單獨ニテ本罪ヲ犯スコトヲ能ハサルコト言フ俟タス(六五)例ヘハ裁判所ノ小使カ判決書ヲ偽造スルモ本條ノ適用ナキカ如シ公務員カ虛僞ノ文書又ハ圖畫ヲ作り又ハ之ヲ變造シタル場合ト雖モ其文書又ハ圖畫ハ其職務ニ關スルモノナルコトヲ要スルヲ以テ該文書又ハ圖畫ヲ作成シ若クハ之ヲ保管スル職務ヲ有セサル場合例ヘハ檢事カ判決書ヲ作成シ保管ノ職責ナキ巡查カ判決書ヲ變造スルモ本條ノ罪トナラサルコト勿論ナリ但變造ノ場合ニ於テハ其文書又ハ圖畫カ公務所又ハ公務員ノ作成シタルモノニ限ルヤ否ヤニ付テハ多少ノ疑アリト雖モ本罪ノ刑罰ハ下ニ述フル如ク全然公文書變造ノ刑ト同一ナルヨリ考フルモ其文書又ハ圖畫モ亦公文書ニ限ルノ法意ナリト解セサルヘカラス從テ公務員カ職務上保管スル一私人作成ノ文書又ハ圖畫ヲ變造スルモ本條ノ適用ナキモノトス例ヘハ登記官吏カ其保管スル登記申請書ヲ變造シタル場合ノ如シ尙前二條ノ説明ヲ參照スヘシ

本條ノ刑罰ハ印章署名ノ有無ヲ區別シテ前二條ノ例ニ依ルモノトス故ニ公務員ノ作成シタル虛僞ノ文書又ハ圖畫及ヒ變造シタル文書又ハ圖畫ニ偽造又ハ眞正ナル御璽國璽御名ヲ使用シタルトキハ無期又ハ三年以上十五年以下ノ懲役、公務所又ハ公務員ノ印章又ハ署名ヲ使用シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處シ公務所又ハ公務員ノ印章及ヒ署名ヲ使用セサルトキハ一月以上三年以下ノ懲役又ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處スヘキモノトス

第百五十七條

公務員ニ對シ虛僞ノ申立ヲ爲シ權利義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

公務員ニ對シ虛僞ノ申立ヲ爲シ免狀鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス(舊刑二〇二乃至二〇五、二一一、二一四)

本條ハ公務員ヲシテ不實ノ記載ヲ爲サシメタル場合ニ關スルモノナリ即チ公務員ニ對シ虛僞ノ申立ヲ爲シ其公務員カ職務上作成スヘキ權利義務ニ關スル公正證書ノ原本免狀鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル場合ナリ權利義務ニ關スル公正證書ノ原本トハ法律上權利又ハ義務ノ發生消滅變更ノ原因



タルヘキ事實ヲ記載シタル文書ニシテ公務員カ其職務上作成スヘキモノヲ謂フナリ例ヘハ登記官吏ノ作成スヘキ登記簿、公證人ノ作成スヘキ賣買、貸借、贈與、債權讓渡、免除及ヒ辨濟證書ノ如シ免狀トハ國家カ一私人ニ對シ或行爲ヲ爲スノ資格ヲ付與シタルコトヲ證明スル文書ヲ謂ヒ鑑札トハ一私人ニ對シ或行爲ヲ爲スコトヲ許シタル場合ニ於テ之ヲ證明スル爲メ付與スル文書ヲ謂ヒ旅券トハ一私人ノ旅行ヲ認許シタルコトヲ證明スル文書ヲ謂ヒ孰レモ法令ノ規定ニ依リ公務員カ申立ニ因リ一私人ニ之ヲ下付スルモノヲ謂フナリ例ヘハ醫師、教員、船長免許狀及ヒ各種ノ營業鑑札、車馬ノ鑑札等ノ如シ

本條ノ罪ハ公務員ヲシテ以上ノ各文書ニ不實ノ記載ヲ爲サシムル爲メ虛偽ノ申立ヲ爲シタル場合ニ成立ス換言スレハ申立ノ内容カ同時ニ文書ノ内容タルヘキ場合ニ於テ其内容ニ不實及ヒ虛偽ノ存スルコトヲ必要トス故ニ實際貸借ヲ爲ササルニ公證人ニ對シ之ヲ爲シタル旨虛偽ノ申立ヲ爲シ公證人ヲシテ其申立タル事實ヲ記載シタル公正證書ヲ作成セシメタルトキハ當然本罪ヲ構成スヘキモ眞實車夫ヲ爲スノ意思ナキニ之アリト詐言シ警察官吏ヨリ鑑札ノ下

付ヲ受クルモ其鑑札ニ記載スヘキ事項ノ申立ニ不實ナキ以上ハ本罪ヲ構成セサルナリ

本條ノ處分ハ虛偽ノ記載ヲ爲サシメタル文書カ權利義務ニ關スル公正證書原本ナルト免狀、鑑札、旅券ナルトニ因リ之ヲ區別シ前者ハ後者ヨリ稍重キ刑ヲ科スヘキモノトセリ

尙本條ノ罪ハ其未遂ヲモ之ヲ罰ス故ニ一旦不實ノ申立ヲ爲シタル以上ハ公務員カ未タ虛偽ノ記載ヲ爲ササルトキト雖モ本罪ノ未遂罪トシテ處罰スルモノトス未遂罪ニ付テハ前ノ説明ヲ看ルヘシ(四三)

【參照判例】

◎免狀トハ之ヲ受クルト同時ニ或特種ノ行爲ヲ實行シ得ヘキ權利ヲ享有スルモノヲ謂フ故ニ書記試験及第證書又ハ小學校教員免許狀ノ如キモノヲ包含セス(大審三五年判決錄五卷一七四頁、三七年二一九八頁)

◎公證人ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタルトキハ犯人カ自己ノ名義ヲ用ヒタルト他人ノ名義又ハ代理資格ヲ用ヒタ

ルト否トヲ問ハサルモノトス(大審四二年判) 決録八八頁)

第五百十八條 前四條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虛偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ト同一ノ刑ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス(舊刑二〇二乃至二〇五、三一)

本條ハ偽造變造ニ係ル公ノ文書圖畫ノ行使罪ヲ規定シタルモノナリ即チ前四條ニ於テ説明シタル偽造又ハ變造文書圖畫及ヒ不實ノ記載ヲ爲サシメタル文書圖畫ヲ行使シタル場合ニシテ其文書又ハ圖畫ハ他人カ偽造變造又ハ不實ノ記載ヲ爲サシメタル場合ナルト自己ノ爲シタル場合ナルトヲ問ハス其情ヲ知リナカラ之ヲ行使シタルトキハ本條ニ依リ處罰スルモノトス自己カ偽造變造シ又ハ不實ノ記載ヲ爲サシメテ之ヲ行使シタルトキ手段結果ノ關係アルヲ以テ第五十四條ノ適用ヲ受クルコト勿論ナリ

右ノ文書又ハ圖畫ノ行使トハ之ヲ眞正又ハ眞實ナル文書トシテ使用スルコトヲ謂フ故ニ行使ノ方法ハ文書ノ種類ニ因リ同一ナラスト雖モ之ヲ使用スル爲

メ情ヲ知ラサル他人ニ交付シ又ハ閱覽セシメ若クハ一定ノ場所ニ備付ケ他人ヲシテ之ヲ閱覽シ得ヘキ状態ニ置クトキハ皆行使ナリ例ヘハ之ヲ證據トシテ裁判所ニ提出シ辯護士ニ交付シ又ハ之ヲ證書ノ相手方ニ提出交付シ若クハ不實ノ記載ヲ爲サシメタル公正證書ノ原本ヲ公證人役場ニ備付ケシムルカ如シ然レトモ單ニ婦女ノ歡心ヲ買ハンカ爲メ不實ノ記載ヲ爲サシメタル免狀ヲ其婦人ニ示スカ如キ何等權利義務ニ影響ナキ場合ニ於テハ本條ノ行使罪ヲ構成セサルコト勿論ナリ

本罪ノ刑ハ前四條ニ掲ケタル偽造、變造、虛偽ノ文書作成及ヒ不實ノ記載ヲ爲サシメタル罪ノ刑ト同一ナリ故ニ例ヘハ第五十四條ニ掲クル偽造文書ヲ行使シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處スヘキカ如シ

第五百十四條乃至第五十六條ノ偽造變造及ヒ虛偽ノ文書作成罪ノ未遂ハ之ヲ處罰セスト雖モ本條ノ行使罪ハ總テノ場合ニ於テ其未遂ヲモ處罰スルモノトス未遂罪ノ意義及ヒ刑罰ニ付テハ既ニ屢々之ヲ述ヘタリ(四三等)

【參照判例】

◎行使トハ犯人ノ所爲カ文書ノ信用ニ對スル危險ヲ生スルノ程度ニ達シタルノミヲ以テ足レリトシ犯人ノ行爲ヨリ生スル其後ノ結果ハ之ヲ問フノ必要ナシ從テ犯人カ或方法ヲ以テ偽造文書ヲ利害關係人ノ閱覽ニ供シ利害關係人ヲシテ其内容ヲ知ルコトヲ得ヘキ状態ニ置キタルトキハ利害關係人ニ於テ現ニ之ヲ閱覽シテ其内容ヲ認識シタルト否トニ拘ハラズ偽造文書ノ行使ナリ(大審三〇七年判決錄五〇七頁)

◎郵便ヲ以テ偽造文書ヲ對手人ニ送達スル場合ニハ其文書カ受取人ノ手許ニ達シ又ハ受取人ノ郵便受領函ニ入りタル時ヲ以テ行使ノ既遂トス(大審四〇年判決錄四九頁)

第五百十九條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス  
他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者亦同シ

前二項ノ外權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス(舊二一〇二五乃至二一七)

本條ハ私文書ノ偽造及ヒ變造罪ヲ規定シタルモノナリ即チ第一項前段ハ真正ナル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ文書又ハ圖畫ヲ偽造シタル場合ニ關シ後段ハ自己又ハ他人ノ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ文章若クハ圖畫ヲ偽造シタル場合ニ關ス又第二項ハ真正ナル他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル文書又ハ圖畫ヲ變造シタル場合ニ關シ第三項ハ真正若クハ偽造ナル他人ノ印章又ハ署名ヲ使用セスシテ文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シタル場合ニ關スルモノトス  
偽造及ヒ變造ノ意義ニ付テハ第四百四十八條及ヒ第五百十四條ニ於テ既ニ述ヘタル如クニシテ本條ニ於ケル偽造又ハ變造モ多ク其意義ヲ異ニスルモノニ非ス即チ私文書ノ偽造ハ自己以外ノ他人カ真正ニ作成シタルモノトシテ不真正ナル文書ヲ新ニ製作スルコトヲ謂ヒ變造トハ既ニ他人カ真正ニ作成シタル文書ノ一部ヲ増減變換シテ不真正ナル文書ヲ製作スルコトヲ謂ヒ兩者共ニ必シ

モ他人ノ名義又ハ印章ヲ使用スルト否トニ關係ナキコト上述セル如シト雖モ全ク實在セサル虛無ノ人ノ名義又ハ印章ヲ用ヒテ文章圖畫ヲ偽造スルモ本罪ヲ構成セサルハ勿論ナリ次ニ本條ノ目的タル文書又ハ圖畫ハ權利義務又ハ事實證明ニ關スルモノナルコトヲ必要トス權利義務ニ關スル文書ノ意義ニ付テハ第五十七條ニ於テ説明シタルカ如シ事實證明ニ關スルモノトハ直接ニ權利義務ノ得喪又ハ變更ヲ生セサルモノニシテ法律關係ニ影響ヲ及ホスヘキ事實ヲ證明スヘキモノ一切ヲ包含スルモノトス凡事實ナル語ヲ廣義ニ解スルトキハ宇宙間ニ發生スル總テノ現象ヲ包含シ吾人日常ノ行動ヨリ天災地變ニ至ルマテ自然界ノ出來事ハ皆之レ事實ニ非サルハ莫シ然レトモ法律上研究スヘキ事實トシテハ斯ル廣義ニ解スヘキモノニ非スシテ此等無數ノ事實中特ニ權利ノ得喪又ハ變更ヲ生スルモノノミヲ指稱スルコト言フ俟タス從テ權利義務ニ關スル文書又ハ圖畫モ亦事實證明ニ關スルモノノ一種ニ屬スルコト明ナリト雖モ本條ニ於テハ特ニ之ヲ除外シタルヲ以テ直接ニ權利義務ノ得喪變更ヲ生スヘキ事實ヲ證明スルモノヲ權利義務ニ關スル文書又ハ圖畫ト謂ヒ間接ニ

此等ノ事實ヲ證明スルモノヲ事實證明ニ關スル文書又ハ圖畫ト稱スルモノ謂ハサルヘカラス故ニ例ヘハ直接ニ法律行為ニ關スル文書又ハ圖畫ハ前者ニ屬スルモ他人ノ財産ヲ横奪占有セル事實不法ニ他人ヲ傷害シタル場合ニ於ケル傷害ノ形狀程度ニ關スル事實法律行為ノ目的物ノ形狀數量ニ關スル事實ノ如キ何レモ本條ニ所謂事實ナリトス本條ノ偽造又ハ變造罪モ亦行使ノ目的ニ出テタルコトヲ其成立條件トスルコト前數條ノ場合ト同一ナリ又第一項及ヒ第二項ノ偽造變造罪ノ刑ハ同一ニシテ之ニ比シ第三項ノ刑大ニ輕キコトハ第五十五條ノ場合ト同一ニシテ他人ノ印章又ハ署名ニ關係ナキ文書ノ偽造變造ハ其危險輕微ナリト認メタルニ外ナラス

尙印章及ヒ署名ノ意義ニ付テハ後ノ説明ヲ參照スヘシ(七六)

【參照判例】

- ◎ 帳簿ニ詐欺ノ記入ヲ爲シタル所爲ハ文書偽造ナリ(大審二九〇年判決)
- ◎ 受領證書ハ權利義務ニ關スル證書ナリ(大審二九〇年判決)

⑤ 白紙委任狀ニ委任權外ノ事項ヲ記載シテ行使シタル所爲ハ私書偽造ナリ(大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決)

⑥ 虛無ノ名義ヲ以テ私書ヲ偽造スルモ法律上罪トナラス(大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決)

⑦ 出訴期限ノ經過シタル證書ノ返濟期限ヲ變更シ未タ出訴期限ヲ經過セザルモノノ如ク作成シタルハ文書變造ナリ(大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決)

⑧ 商業帳簿ハ權利義務ニ關スル證書ナリ(大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決)

⑨ 品物ノ注文書ハ權利義務ニ關スル證書ナリ(大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決)

⑩ 新ニ證書ヲ作成シ又ハ既存ノ證書ヲ利用シ其記載ヲ變更シテ新ナル權利關係ヲ證スヘキ證書ヲ作成シタルハ偽造ナリ單ニ其效力ヲ變更スルニ過キサルトキハ變造ナリ(大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決)

⑪ 登記申請書ハ權利義務ニ關スル證書ナリ(大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決)

⑫ 白紙委任狀ハ權利義務ニ關スル證書ニ外ナラス(大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決)

⑬ 他人ノ代理資格ヲ作リテ文書ヲ作成シタル以上ハ其代理者ノ氏名ニ虛無ノ名稱ヲ用ヒタル場合ト雖モ文書偽造罪ヲ構成ス(大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決)

⑭ 實印紛失届及ヒ改印届ハ孰レモ事實證明ニ關スル文書ナリ(大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決)

⑮ 文書ノ署名トハ文書自體ニ爲シタル署名ノ謂ナレハ文書ヲ離レテ他ノ物體ニ爲シタル署名ハ縱シヤ其物體カ該文書ニ添付セラレ又ハ之ヲ封入スルノ用ニ供セラレタル場合ト雖モ文書ノ一部分ヲ爲スモノニ非ス從テ該文書ト他ノ物體ニ爲シタル署名トハ各々獨立シテ其效力ヲ有スルモノトス(大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決)

⑯ 他人ノ代理者タル資格ヲ詐リ文書ヲ作成シタルニ於テハ其效果ハ直接ニ他人ノ署名ヲ詐リタル場合ト擇ム所ナキヲ以テ本條第一項ノ犯罪ヲ構成ス(大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決)

⑰ 死亡者ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ文書ヲ偽造シタル場合ト雖モ該文書ニシテ其生存中ノ日附ニ係ルトキハ文書偽造罪ヲ構成ス(大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決)

⑱ 會社ノ取締役カ自己又ハ他人ノ利益ノ爲メ會社名義ノ預金證書ヲ偽造シタルトキハ文書偽造罪ヲ構成ス(大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決) (大審三〇年判決)

第百六十條 醫師公務所ニ提出ス可キ診斷書檢案書又ハ死亡證書ニ虛偽ノ記載ヲ爲シ

第二編 第十七章 文書偽造ノ罪

タルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス(舊刑二一五〇乃至二一七)

本條ハ醫師ノ虛偽文書作成罪ヲ規定シタルモノナリ即チ本條ハ醫師タル特別ノ身分ヲ其構成條件トスル犯罪ニシテ第五十六條ノ罪ト其性質ヲ同フス從テ醫師以外ノ者例ヘハ產婆、藥劑師等カ文書ニ虛偽ノ記載ヲ爲スモ本罪ヲ構成セス又公務所ニ提出スヘキ云々トアルヲ以テ斯ル目的ニ出テスシテ作成シタル文書ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタルトキハ偶々之カ公務所ニ提出セラレルモ固ヨリ本罪ヲ構成セス例ヘハ保險會社ニ提出スヘキ死亡證書ニ虛偽ノ記載ヲ爲スカ如シ本罪ノ目的タル文書ハ診斷書、檢案書又ハ死亡證書ニ限ルヲ以テ他ノ文書ニ虛偽ノ記載ヲ爲スモ本罪トナラサルコト勿論ナリ例ヘハ處方箋ノ如シ然レトモ文書ノ内容カ病狀其他身體ニ關スル判斷又ハ死亡ヲ證明スルモノナルトキハ其文書ニ附シタル名稱ノ如何ハ固ヨリ之ヲ問ハサルモノトス換言スレハ苟モ斯ル内容ヲ有スルトキハ記又ハ書ト題スルモ又何等ノ名稱ヲ附セサルモ本條ノ文書タルヲ妨ケサルナリ

本條ノ罪モ亦普通ノ故意ヲ必要トスルヲ以テ(三八)醫師カ公務所ニ提出スヘキ

文書ナルコトヲ知ルコト及ヒ故意ニ虛偽ノ記載ヲ爲スノ意思アルコトヲ必要トス從テ誤解又ハ誤診ニ因リ眞實ニ反スル記載ヲ爲スモ本條ノ罪ヲ構成セサルハ勿論ナリ

第六十一條

前二條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ

偽造若クハ變造シ又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者ト同一ノ刑ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ前二條ノ文書又ハ圖畫ノ行使罪ヲ規定シタルモノナリ而シテ本罪ハ自ラ文書圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シテ行使シタルト他人ノ偽造若クハ變造又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル文書圖畫ヲ行使シタルト問ハサルヲ以テ前條ノ虛偽文書ニ付テハ之ヲ行使シタル者カ醫師ナルト否トニ拘ハラサルコト勿論ナリ

本條ノ意義ハ第五十八條ト全然同一ナルヲ以テ同條ノ說明ヲ參照スヘシ

【參照判例】

④ 偽造證書ノ謄本ヲ裁判所ヘ提出スルモ之ヲ以テ偽造證書ノ行使ト謂フコト

能ハス(大審三一年判  
決録四卷七頁)

●行使罪ハ偽造ノ文書ヲ以テ真正ノ文書トシテ行使スルニ因リ成立シ偽造文書ナルコトヲ明言シタルハ行使ニ非ス(大審三二年判決録二卷二  
八頁三六年一九七三頁)

●文書ヲ偽造シ虚偽ノ事實ヲ信用セシムルノ用ニ供シタルトキハ文書偽造行使罪カ成立シ行使シタル原因ノ如何ハ固ヨリ之ヲ問ハス(大審三二年判決  
録三卷一五頁)

●偽造證書ヲ真正ナル證書ナリトシ之ヲ自己ノ訴訟代理人ニ交付シタルハ行使ナリ(大審三七年判決録一〇〇五頁三  
七年二一九頁四二年四八頁)

●苟モ偽造ノ證書ヲ真正ノ證書トシテ他人ニ提出シ或證明ノ用ニ供スルニ於テハ其證書ノ本旨ニ從ヒテ之ヲ使用シタル場合ト同シク行使ナリ(大審四一  
〇頁三)

### 第十八章 有價證券偽造ノ罪

第六十二條

行使ノ目的ヲ以テ公債證書官府ノ證券會社ノ株券其他ノ有價證券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

行使ノ目的ヲ以テ有價證券ニ虚偽ノ記入ヲ爲シタル者亦同シ(舊刑二〇二乃至二〇五  
二〇九)

本條ハ有價證券ノ偽造及ヒ變造罪ヲ規定シタルモノナリ有價證券トハ證券ニ表示セラルル權利ノ行使ニ其證券ノ占有ヲ必要トスルモノ即チ其證券ヲ占有スルニ非サレハ他ニ如何ナル證據ヲ有スルモ法律上其權利ヲ行使スルコト能ハサルモノヲ謂フ本條ニ例示スル公債證書官府ノ證券郵便爲替證書ノ如シ會社ノ株券ハ勿論各種ノ手形債券ノ如キ何レモ有價證券ナリ故ニ有價證券モ亦前章ニ規定セル文書ノ一種ニ外ナラスト雖モ通常流通證券トシテ經濟上重大ナル價值ヲ有シ普通ノ文書偽造又ハ變造ノ刑ヲ以テ之ニ臨ムコト能ハサルニ依リ特ニ獨立罪トシテ本章ニ於テ之ヲ規定セリ故ニ公務所又ハ公務員ノ作成スヘキモノナルト否トニ拘ハラズ本章ノ規定ヲ適用スヘキコト言フ俟タズ偽造及ヒ變造ノ意義ニ付テハ前章ニ於テ之ヲ詳説セリ(一五四)虚偽ノ記入トハ真正ニ作成セラレタル有價證券ノ一部ニ對シ其内容ヲ變更セサル不實ノ事項ヲ附加記入スルコトヲ謂フ例ヘハ眞實ニ反スル裏書引受保證ノ記入ヲ爲スカ

如シ又本罪モ行使ノ目的ニ出テタルコトヲ要スルコト前章ニ於ケル他ノ文書偽造變造罪ト同一ナリ

【參照判例】

- ① 虛無ノ名義ヲ以テ小切手ヲ振出シタル場合ト雖モ名宛人タル銀行ニ於テ現在スルトキハ小切手偽造行使罪ヲ構成ス(大審三三〇年判決 錄四卷五〇頁)
- ② 約束手形ノ要件ヲ具備セサルモ約束手形トシテ人ヲ欺クニ足ルヘキモノヲ偽造シタルトキハ手形偽造罪ナリ(大審三三〇年判決 錄九卷八頁)
- ③ 滿期日ノ記載ナキ手形ニ之ヲ記入シタル所爲ハ手形偽造ナリ(大審三三〇年判決 錄七卷一〇頁)
- ④ 有效ニ成立シタル約束手形ノ金額ヲ變更シタルハ手形變造ナリ(大審三三〇年判決 錄五卷二八頁、三八年一頁、九九頁)
- ⑤ 約束手形ニ虛無ノ人名ヲ署シ之ヲ行使シタル所爲ハ記錄者ノ資格ヲ作リタルコトナキヲ以テ手形偽造ニ非ス(大審三三〇年判決 錄五卷一頁)
- ⑥ 有價證券偽造ノ場合ニ於テモ偽造印章使用等ノ所爲ハ自ラ證券偽造ノ所爲中ニ包含處罰セララルモノトス(大審四二〇年判決 錄六一頁、八四一頁)

⑤ 小切手ハ有價證券ナリ(大審四二〇年判決 錄一一九六頁)

⑥ 有價證券トハ證券上表示セラレタル權利ノ行使ニ其證券ノ占有ヲ必要トスルモノヲ汎稱ス從テ約束手形モ之ニ包含ス(大審四二〇年判決 錄六一頁、二〇三二頁)

第六十三條 偽造變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス  
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス(舊刑二〇二乃至三〇五、二一一)

本條ハ前條ノ有價證券行使罪ヲ規定シタルモノナリ本條ノ意義ニ付テハ既ニ屢々説明シタル所ト同一ナルヲ以テ茲ニ反覆セス(一四八、一五八、一六二、一六三、一六四、一六五)

第十九章 印章偽造ノ罪

第六十四條 行使ノ目的ヲ以テ御璽國璽又ハ御名ヲ偽造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

御璽國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル御璽國璽又ハ御名ヲ使用シタル者亦同シ(舊刑一九四乃至一九七)



本條ハ御璽國璽及ヒ御名ノ偽造及ヒ不正使用罪ヲ規定シタルモノナリ御璽國璽及ヒ御名ノ意義ハ既ニ述ヘタル如シ(四)(五)只御璽及ヒ國璽ノ偽造トハ真正ナル御璽及ヒ國璽ニ摸擬シテ不法ニ其影蹟ヲ現出スル行爲ヲ謂ヒ必シモ印願ノ作製ヲ必要トセス又真正ナル御璽又ハ國璽ニ酷似スルコトヲ必要トセス使用罪ハ真正ナル御璽及ヒ國璽ノ影蹟又ハ御署名ヲ不正ニ使用シ又ハ自己又ハ他人ノ偽造ニ係ル御璽國璽又ハ御署名ヲ真正ナルモノトシテ使用スルニ因リ成立スルモノトス故ニ文書又ハ圖畫ノ行使ト同時ニ行ハルルヲ通常トスルコト明カナリト雖モ文書又ハ圖畫ヲ偽造スル目的ヲ以テ先ツ御璽國璽ヲ用紙ニ押捺シ又ハ御署名ヲ偽造シタルモ未タ文書又ハ圖畫ノ偽造ニ著手セサルトキハ單ニ本條ノ偽造罪ノミ成立スルコト勿論ナリ

本條ノ罪モ行使ノ目的ニ出テタル場合ニ非サレハ成立セサルコト前二章ノ罪ト同一ナリ

第百六十五條

行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ(舊刑一九四乃至一九七)

本條ハ公務所又ハ公務員ノ印章及ヒ署名ノ偽造及ヒ使用罪ヲ規定シタルモノナリ公務所及ヒ公務員ノ意義ニ付テハ既ニ述ヘタル如ク現ニ存在スルモノノミニ限り虛無ノモノヲ包含セサルコト勿論ナリ例ヘハ太政官又ハ美術院ト云フ如シ(七)茲ニ印章トハ特定ノ公務所又ハ公務員ヲ表示スヘキ印影ヲ謂ヒ印願其物ヲ指スニ非ス又署名トハ特定ノ公務所ハ公務員カ或事實ヲ證明スル爲メ記載シタル其意義ヲ謂フ元來署名ハ記名ト異リ或事實ヲ證明スル者ノ自署ヲ要スルモノナレトモ公務所ノ署名ヲ認メタル本條ノ解釋トシテハ之ヲ記名ト同視スルヲ穩當トス從テ筆其他ノ器械ヲ以テ之ヲ現ハスモ總テ署名ト認ムヘキナリ

印章及ヒ署名ノ偽造トハ真正ナル印影及ヒ署名ニ摸擬シテ不法ニ其影蹟及ヒ名義ヲ現出スルコトヲ謂フ印願其物ヲ作製シテ之ヲ押捺スルト他ノ方法ニ依リ之ヲ描寫スルトヲ問ハス又真正ナル印章又ハ署名ト酷似スルト否トヲ問ハ

ス普通誤信スヘキ程度ニ模擬シタルトキハ偽造ナリト雖モ公務所又ハ公務員ヲ表示セサルモノハ縦令公務所又ハ公務員ニ於テ之ヲ使用スルモノト雖モ本條ノ印章ニ非ス例ヘハ官廳ニ於テ使用スル契印、番號印又ハ官吏ノ認印ノ如シ但郵便局ノ日附印ハ官ノ印章ナリトノ判例アリ  
印章又ハ署名ニ變造罪ナキコトハ其性質土明カナリ又第二項ノ使用罪ハ前條ニ於テ説明シタルト全然同一ナルヲ以テ參照スヘシ

【參照判例】

- ◎ 村長ノ認印ハ公署ノ印ニ非ス(大審三二年判決 錄四卷八七頁)
- ◎ 官印偽造罪ハ偽造印カ眞印ニ模擬スルコトヲ必要トセス官署ノ印トシテ人ヲ欺クニ足ルヲ以テ十分ナリ(大審三三年判決 錄三卷五一頁)
- ◎ 郵便局ノ日附印ハ官印ナリ(大審三三年判決 錄一〇卷二九頁)
- ◎ 苟モ實在セル官署ノ印ナリトシテ人ヲ欺クニ足ルモノヲ偽造スルトキハ官印偽造罪ヲ構成シ眞印ノ存在スルト否トヲ問ハス(大審三八年判決 錄二一七頁)
- ◎ 官吏ノ用ユル印願カ私印ナルヤ職印ナルヤハ其印願ノ性質ニ依リ定ムヘキ

モノニシテ之ヲ押捺セル文書ノ性質ニヨリ定ムヘキモノニ非ス(大審三八年判決 錄一〇八一頁)

- ◎ 官署ノ用ニ供スル印願ハ官署又ハ官吏ノ官職氏名ヲ表示セサルモノト雖モ官印ナリ(大審三九年判決 錄九九頁)
- ◎ 或印章ノ官印ナルヤ公印ナルヤハ其印章ヲ使用スル事務ノ性質ニ依リ之ヲ定ムルモノトス(大審三九年判決 錄四五頁 五頁四〇年五一九頁)
- ◎ 犯人カ偽造ノ意思ヲ以テ情ヲ知ラサル者ヲシテ公印ヲ彫刻セシムルトキハ其彫刻ノ成ルト同時ニ公印偽造罪ヲ構成シ犯人カ其印願ヲ受取リタルト其彫刻ノ成リタルコトヲ知了セルト否トハ犯罪ノ成否ニ影響ナシ(大審三九年判決 錄一四八頁)

第百六十六條 行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所ノ記號ヲ使用シタル者亦同シ(懲刑一九四乃至一九七)

本條ハ公務所ノ記號偽造及ヒ使用罪ヲ規定シタルモノナリ記號トハ直接ニ公

務所ヲ代表スルモノニ非スシテ產物、商品、書籍又ハ什器等ニ押捺シ其物ノ精粗眞偽又ハ所屬ヲ明ニスルモノヲ謂ヒ發音シ得ヘキ文字ナルト發音シ得ヘカラサル符合ナルト公務所ノ名義ヲ附スルト否トヲ問ハサルナリ例ヘハ稅務署ノ使用スル織物検査證印、各官署ノ使用スル受附日附印又ハ林務署ノ使用スル符合印ノ如シ

本條ノ意義ニ付テハ右ノ外前條ノ説明ヲ參照スヘシ

【參照判例】

◎ 稅務監督局ノ織物查定濟ノ證ナル紙標ハ官ノ記號ナリ(大審四二年判 決錄八〇三頁)

◎ 稅關ノ日附印ト雖モ圓形ノ輪廓内ニ年月日ノ數字ヲ西洋數字ニテ現ハシタルノミニ止リ該官廳ヲ表示スル文字ナキモノハ印章ニ非スシテ記號ナリト

ス(大審四二年判 決錄一一五頁)

第六十七條

行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス  
他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル印章若クハ署名ヲ使用シタル

者亦同シ(舊刑二〇八)

本條ハ私人ノ印章及ヒ署名偽造使用罪ヲ規定シタルモノナリ即チ第一項ハ公務所又ハ公務員ノ印章又ハ署名ニ非サル他人ノ印章及ヒ署名ヲ偽造シタル場合ナリ他人トハ犯人以外ノ一私人ヲ總稱スルモノナレトモ現ニ生存スル者ニ限リ既ニ死亡シタル者未タ出生セサル者又ハ全然虛無ノ名義ヲ描出シタル印章及ヒ署名ヲ製作スルモ本條ノ適用ナキコト明カナリ本條ノ偽造モ眞正ナル他人ノ印章又ハ署名ニ酷似スルコトヲ必要トセス通常人カ誤信シ得ヘキ程度ニ達スルヲ以テ十分ナリ印章、署名、及ヒ偽造ノ意義ニ付テハ第六十四條第六十五條ノ説明ヲ參照スヘシ

本條第二項ハ眞正ナル他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ自己又ハ他人ノ偽造シタル他人ノ印章又ハ署名ヲ使用シタル場合ナリ斯ル使用ハ通常文書ノ使用ト同時ニ行ハルルコト多シト雖モ他人ノ印章又ハ署名ノ偽造カ文書偽造ノ手段トナリ其文書ヲ偽造シタルトキハ印章署名ノ使用ハ當然文書偽造罪中ニ包含セラレ別ニ本條ノ罪ヲ構成セサルナリ(九五)此使用罪ニ付テモ前數

條ノ説明ヲ參照スヘシ

【參照判例】

- ① 出來合印ヲ押捺シタル所爲ハ法律上罪トナラス(大審三〇年判決 錄六卷二七頁)
- ② 私印偽造行使罪ノ成立ニハ偽造ニ係ル印章カ人ヲシテ眞印ナルコトヲ信セシムヘキ程度ニ偽造セラレタルヲ以テ足り其偽印カ眞印ニ酷似スルト否トハ之ヲ問ハス(大審三五年判決 錄六卷二八頁)
- ③ 私印偽造罪ノ成立ニハ印章ノ使用權カ他人ニ屬スルコトヲ要スルモ其使用權者カ自然人ナルト法人ナルト將タ其他ノ人ノ集團體タルトハ之ヲ問ハス(大審四〇年判決 錄一三三三頁)
- ④ 藥品ヲ使用シテ廢紙ニ押捺シタル印影ヲ寫シ取リ之ヲ他ノ證書ニ轉寫シタルハ私印盜用ニシテ偽造ニ非ス(大審三〇年判決 錄一〇九頁)
- ⑤ 多額ノ證書ヲ作成シ之ヲ少額ノ證書ナリト欺キ記名調印セシメタル所爲ハ印影盜用ナリ(大審三二年判決 錄二卷三五頁)
- ⑥ 捺印シアル委任狀用紙ヲ承諾以外ノ事項ニ使用シタルハ印影盜用ナリ(大審三二年判決 錄二卷三五頁)

年判決錄  
八卷九頁

⑦ 人ノ死亡後ニ實印ヲ盜捺シタルトキト雖モ其生存中ノ日附ニ係ル文書ニ之盜用シタルトキハ、印影盜用罪ヲ構成ス(大審三六年判決 錄四八五頁)

第六十八條 第六十四條第二項第六十五條第二項第六十六條第二項及ヒ前條第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス(舊刑、二〇〇)

本條ハ印章及ヒ署名使用罪ノ未遂ヲ罰スルコトヲ定メタルモノナリ印章又ハ署名偽造カ未遂ニ終リタルトキハ未タ何等ノ危險ヲ生スルコトナキヲ以テ本條ニ於テハ之ヲ除外シ偽造既ニ成リ進ンテ其行使ヲ爲サントシテ遂ケサルモノハ未遂罪トシテ之ヲ罰スルモノトセリ未遂罪ノ意義及ヒ刑罰ニ付テハ總則ノ説明ヲ參照スヘシ(四三)

第二十章 偽證ノ罪

第六十九條 法律ニ依リ宣誓シタル證人虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス(舊刑、二一八乃至二二三、四二五ノ一四)

第二編 第二十章 偽證ノ罪

本條ハ證人ノ偽證罪ヲ規定シタルモノナリ證人トハ民事、刑事、行政、特許其他懲戒事件ニ付キ係争事實ヲ明カナラシムル爲メ裁判所ヨリ訊問セラルルモノヲ謂ヒ其證人カ供述ヲ爲スニ當リテハ一定ノ方式ニ依リ虚偽ノ陳述ヲ爲ササルコトヲ宣誓スルヲ通常トス(例、民訴、三〇七)スルモ宣誓ヲ爲サシムヘキ證人タルニハ一定ノ資格アルコトヲ要件トシ事件ノ當事者又ハ係争事件ニ密著ノ關係ヲ有スル者又ハ幼者其他精神ノ發達不十分ナル者ハ宣誓ヲ爲サシメスシテ之ヲ訊問スルモノトス(例、民訴、三二〇、刑、一、二、三、二、四)

本條ノ罪ハ法律ニ依リ宣誓シタル證人カ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル場合ニ成立スルモノナルヲ以テ一、民事、刑事其他ノ裁判所ニ對シ或事實ヲ陳述スル者ナルモ法律ニ依リ宣誓セサル者ハ本罪ノ主體トナラス例ヘハ非現行犯事件ニ付キ檢事ニ對シ或陳述ヲ爲スヘキ者ノ如シ然レトモ法律ニ依リ一旦宣誓ヲ爲シタル者ハ後日ニ至リ證人トシテ宣誓スルノ資格ナキコト明カナルトキト雖モ本罪ノ主體トナルコトヲ妨ケス例ヘハ訊問ノ當時被告人ト親族關係アルコト明カナラサリシ爲メ宣誓ノ上供述シタルモ後日ニ至リ親族關係アルコトヲ發見シ

タル場合ノ如シ只本罪ノ成立スルニハ一般ノ原則ニ依リ故意ヲ必要トスルコト勿論ナルヲ以テ十四歳未滿ノ者又ハ知覺精神ノ不十分ナル者カ宣誓ヲ爲シタルトキハ總則ノ規定ニ依リ本罪ノ不成立又ハ刑ノ減輕ノ原因トナルコト言フ俟タス(三、八、以下刑、一、二、四等)二、虚偽ノ陳述トハ眞意ニ反スル申立ヲ謂ヒ過去ニ於テ實驗シタル事實ヲ其儘申立ツルハ固ヨリ虚偽ノ陳述ニ非ス本罪ノ成立ニハ虚偽ノ申立ヲ爲スノ意思アルコトヲ必要トスルハ勿論ナルヲ以テ過失又ハ錯誤ニ因リ眞意ニ非サル申立ヲ爲シタル場合ハ勿論證人ノ眞意カ眞實ニ符合セサル場合例ヘハ或夜自分方ヘ忍入リタル賊カ甲者ナリト信シ其儘申立ヲ爲シタルニ實際ノ事實ハ甲者ニ非スシテ乙者ナルカ如キ場合ニ於テモ虚偽ノ陳述ニ非ス然レトモ本罪ヲ罰スル所以ハ虚偽ノ證據ヲ提供シ裁判ノ眞正ヲ危險ナラシムルコトヲ豫防スルノ法意ニ外ナラサルヲ以テ陳述シタル事實カ其事件ノ係争事實ニ關聯スルコトヲ要シ全ク事件ニ關係ナキ事實ニ付テハ虚偽ノ申立ヲ爲スモ本罪ノ成立セサルコト勿論ナレトモ苟モ係争事實ニ關聯スル事實ナル以上ハ虚偽ノ事實ヲ捏造シテ陳述スルト或事實ヲ知ルニ拘ハラヌ之ヲ默秘シ

テ知ラスト陳述スルトヲ問ハス孰レモ虚偽ノ陳述ナリ但全然沈黙ヲ守リテ何等ノ申立ヲ爲ササルハ虚偽ノ陳述ニ非ス證言ヲ肯セサルモノトシテ別ニ處罰規定アリ(民訴、三〇二)

【參照判例】

◎ 證人ノ資格ナキ者ト雖モ證人トシテ宣誓ノ上虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ偽證罪ヲ構成ス(大審三二年判決録九卷九三)

◎ 證人ノ訊問事項ニ付キ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル以上ハ縱令其證言カ裁判ノ結果ニ何等ノ影響ヲ有セサル場合ニ於テモ偽證罪ハ成立ス(大審四〇年判)

◎ 事實ヲ見聞セサル證人カ現ニ之ヲ見聞シタリト稱シ虚偽ノ陳述ヲ爲スニ於テハ偽證罪ハ完成シ其供述シタル事實カ偶々實際ノ事實ニ符合スルモ同罪ノ成立ニ影響ナシ(大審四二年判)

◎ 事實上證人タル資格ナキモノト雖モ證人トシテ宣誓ノ上虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ偽證罪ヲ構成ス(大審四二年判決録一)

第百七十條 前條ノ罪ヲ犯シタル者證言シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白

シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得(舊刑二二六)

本條ハ偽證罪ニ特別ナル刑ノ減輕又ハ免除ヲ規定シタルモノナリ即チ前條ニ述ヘタル如ク宣誓シタル證人カ虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ直ニ前條ノ罪ヲ構成シ其陳述カ實際事件ノ判斷ヲ誤ラシメタルト否トハ固ヨリ問フコトナシト雖モ其事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前ニ虚偽ノ陳述ヲ爲シタルコトヲ自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得ルモノトス而シテ本條ニ自白トハ自首ヲモ包含スルヲ以テ(四三)虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者カ事發覺前自ら進ンテ虚偽ノ申立ヲ爲シタルコトヲ自首シタル場合及ヒ其後再度證人トシテ訊問ヲ受ケ又ハ偽證事件ノ被告人トシテ訊問ヲ受クルニ當リ虚偽ノ陳述ヲ爲シタルコトヲ自白シ更ニ眞實ノ陳述ヲ爲シタルトキハ本條ノ適用アルモノトス斯ル場合ニ於テ刑ヲ免除スルヤ又ハ減輕スルヤハ偽證事件ヲ判決スル裁判官カ其犯情ニ鑑ミテ決定スルコト勿論ナリ但減輕ノ方法ニ付テハ第六十八條第三號ニ依リ其刑期ノ二分ノ一ヲ減スルナリ

【參照判例】

◎犯人カ自己ノ犯罪事實ヲ自首シ又ハ當該官ノ問ニ對シテ自認シタルトキハ本條ノ所謂自白ニ該當ス(大審、四二年判決 錄一七九五頁)

第七十一條 法律ニ依リ宣誓シタル鑑定人又ハ通事虛偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタルトキハ前二條ノ例ニ同シ(舊刑、二二四)

本條ハ虛偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタル場合ノ規定ナリ鑑定人トハ特別ノ技能又ハ知識ニ因リ係争事實ニ關シテ判斷ヲ爲シ其意見ヲ陳述スルモノヲ謂ヒ通事トハ事件ノ關係人即チ當事者、證人、鑑定人等カ日本語ヲ解セス又ハ聾啞者ニシテ文字ヲ知ラサル場合ニ於テ其者ト裁判官トノ間ニ於ケル對話ヲ通譯スルモノヲ謂ヒ共ニ裁判官ノ智識ヲ補充スルモノナルヲ以テ此等ノ者カ若シモ虛偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲ストキハ證人カ虛偽ノ證言ヲ爲シタル場合ト同シク裁判官ノ判斷ヲ誤ラシムルコト固ヨリナルヲ以テ本條ハ證人ニ關スル前二條ニ依リ之ヲ處斷スルモノトセリ

本罪モ亦法律ニ依リ宣誓シタル後虛偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタルコトヲ要件トス宣誓ノ方式ハ鑑定人ハ公平且誠實ニ鑑定ヲ爲スヘキコトヲ誓ヒ通事ハ正

實ニ通譯スルコトヲ誓フヲ通例トシ一定ノ資格ヲ必要トスルハ證人ト同一ナリ又虛偽ノ範圍ニ付テハ第六十九條ノ説明ヲ參照スヘシ(民訴、三二二以下、一〇以下、一九〇、一〇一、一九六)

### 第二十一章 誣告ノ罪

第七十二條 人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虛偽ノ申告ヲ爲シタル者ハ第六十九條ノ例ニ同シ(舊刑、三五五、三五七)

本條ハ誣告罪ヲ規定シタルモノナリ即チ本罪ノ成立スルニハ、一、人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムルノ目的アルコトヲ要ス人トハ自己以外ノ人一切ヲ總稱スレトモ特定人又ハ特定シ得ヘキ人ニ限ルコト勿論ナリ從テ東京市民ハ盜賊ナリト申告スモ本罪トナラス又刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル希望アルコトヲ要ス懲戒ノ處分トハ官吏公吏カ職務上ノ規律ニ背キタル場合ニ於ケル制裁ヲ總稱シ必シモ懲戒裁判所ノ裁判ノミニ限ラス上級官廳ノ處分ニ因ル懲罰ヲモ包含スルモノトス、二、虛偽ノ申告ヲ爲シタルコトヲ要ス虛偽トハ刑

事又ハ懲戒ノ處分ノ原因トナルヘキ事實ニ付キ不實ナルコトヲ謂ヒ申告トハ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ爲スヘキ當該官廳ニ對シ右ノ事實ヲ告白スルコトヲ謂フ申告ノ方式ニ付テハ何等ノ規定ナキヲ以テ告訴發狀ヲ提出シテ爲シタル場合ハ勿論其他ノ書面又ハ口頭ニ依リ若クハ匿名ヲ以テ之ヲ爲スモ妨ケナシ然レトモ此申告ハ當該官廳ニ對シテ爲スコトヲ要スルヲ以テ戶籍吏ニ對シ他人ノ犯罪ヲ申告シ裁判官ノ職務懈怠ヲ鐵道官吏ニ申告スルモ本罪ノ成立セサルコト言フ俟タス

本罪ノ處分ハ偽證罪ト同シク三月以上十年以下ノ懲役ニ處スヘキモノトス

【參照判例】

- ① 誣告罪ハ不實ヲ以テ人ヲ誣告スルニ於テ直ニ成立シ被誣告者カ被告人ノ推問ヲ受ケタルヤ否ヤハ犯罪ノ成立ニ影響ナシ(大審三〇年判 決錄二卷一頁)
- ② 重罪輕罪ニ陷ルル目的ヲ以テ不實ノ事項ヲ官ニ申告シタルトキハ誣告罪カ成立シ其告訴發狀カ匿名ヲ以テ爲サレタルト否トヲ論セス(大審三一年判 決錄五卷一頁)
- ③ 誣告罪ハ不實ノ告訴ヲ管轄官廳ニ爲スニ非サレハ成立セス(大審三二年判 決錄七卷一七頁)

④ 數人共謀シテ誣告ヲ爲ス場合ニ於テハ共謀者中一人ノ犯罪行爲ノ實行ハ共謀者全體ノ行爲ト看做ス(大審三五年判 決錄六卷六六頁)

⑤ 法人ハ犯罪ノ主體タルノ能力ヲ有セサルヲ原則トス從テ漁業組合ノ名ヲ以テ爲シタル告訴カ誣告ニ出テタル場合ト雖モ法人タル組合ハ誣告罪ノ刑罰ヲ受クヘキモノニ非ス(大審三六年判 決錄一〇二頁)

⑥ 誣告ハ告訴ノ形式ヲ以テスルト否ト又自己ノ名義ヲ以テスルト否トヲ問ハス(大審三八年判 決錄二九二頁)

⑦ 人ヲシテ處罰ヲ受ケシムル爲メ虛偽ノ事實ヲ當該官ニ申告シタルトキハ其口頭ニ依ルト否トヲ問ハス又書面ニ依ルトキハ署名アルト匿名ナルト將タ他人ノ名義ヲ用ヒタルトヲ論セス同シク誣告罪ヲ構成ス(大審四二年判 決錄五一八頁)

第七十三條 前條ノ罪ヲ犯シタル者申告シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得(舊刑三五六)

本條ハ誣告罪ニ關スル特別ノ刑ノ減輕又ハ免除ヲ規定シタルモノニシテ其法意ハ偽證罪ニ關スル第七十條ノ規定ト全然同一ナルヲ以テ同條ノ說明ヲ參



照スヘシ

【參照判例】

◎告訴狀ノ取下ハ自首ニ非ス(大審、二八年判決 錄一卷六二頁)

### 第二十二章 猥褻、姦淫及ヒ重婚ノ罪

第七十四條 公然猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス(舊刑、二五八)

本條ハ公然ノ猥褻罪ヲ規定シタルモノナリ猥褻ノ行爲トハ人ノ淫事ニ關シ人ヲシテ醜耻ヲ感セシムル一切ノ行爲ヲ指シ異性ノ交合、鷄姦又ハ手淫ハ勿論婦女ノ陰部ヲ露出スルカ如キモ皆猥褻行爲ナリ然レトモ此行爲ヲ公然行フコトヲ必要トスルヲ以テ秘密ニ猥褻行爲ヲ爲スモ本罪トナラス公然トハ不特定ナル多數人ノ覺知シ得ヘキ状態ヲ意味シ必シモ現ニ他人ノ覺知シタルコトヲ要セサルヲ以テ道路、汽車、電車内ハ勿論自己ノ居宅内ニ於テ之ヲ行フモ往來ヨリ他人カ望觀シ得ヘキ状態ナルトキハ公然ナリ從テ夫婦間ニ於ケル猥褻行爲モ本條ノ適用ヲ受クヘシ之ニ反シテ夜間門戸ヲ鎖シテ猥褻行爲ヲ爲シタル際偶々賊カ忍入り其行爲ヲ覺知セラルルモ本罪ヲ構成セサルコト勿論ナリ

本罪ノ處分ハ極メテ輕ク十錢以上二十圓未滿ノ科料ニ處スヘキモノトス

第七十五條 猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物ヲ頒布若クハ販賣シ又ハ公然之ヲ陳列シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者亦同シ(舊刑、二五九)

本條ハ猥褻物ニ關スル犯罪ヲ規定シタルモノナリ猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物トハ前條ニ於テ述ヘタル如ク淫事ニ關スル思想又ハ形狀ヲ表示シタルモノニシテ人ヲシテ醜耻ヲ感セシムルモノヲ謂フ例ヘハ或枕草紙、春畫、裸體畫其他陰莖ノ模形等ノ如シ頒布ハ多數人ニ分配シ販賣ハ多數人ニ賣却スルコトヲ謂フ故ニ一ニ友人ニ之ヲ贈與シ又ハ賣却スルモ本罪トナラス公然ノ意義ハ前條ニ於テ述ヘタル如シ陳列トハ或場所ニ置クノ意味ナルヲ以テ公然ノ陳列トハ多數人ノ認メ得ヘキ場所ニ差置クノ義ニシテ必シモ之ヲ展開配列スルコトヲ要セス故ニ例ヘハ春畫ヲ卷キ置クモ他人ヲシテ自由ニ開披シ得ヘキ状態ニ置クトキハ公然ノ陳列ナリ又單ニ之ヲ所持スルモ罪トナラサルコト勿論ナレトモ

多數ノ人ニ販賣スル希望ヲ以テ之ヲ所持スルトキハ本條後段ノ罪トナル  
本罪ノ處分ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金又ハ十錢以上二十圓未滿ノ科料中  
適當ナルモノヲ選擇科刑スルモノトス

第七十六條 十三歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者  
ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル男女ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタ  
ル者亦同シ(舊刑三四六)

本條ハ特定ノ人ニ對スル猥褻罪ヲ規定シタルモノナリ而シテ其被害者カ十三  
歳以上ナルト否トニ因リ其構成條件ヲ區別セリ

一 十三歳以上ノ男女ニ對スル猥褻ノ行爲ハ暴行又ハ脅迫ノ結果行ハレタル  
コトヲ要ス即チ暴行脅迫ノ意義ニ付テハ既ニ述ヘタル如ク身體又ハ精神ニ  
對スル不法ノ迫害ヲ意味シ之ヲ手段トシテ被害者ノ自由又ハ反抗ヲ抑壓シ  
テ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル場合ナリ猥褻行爲ノ意義ニ付テハ既ニ第七十四  
條ニ於テ述ヘタル如ク淫事ニ關スル行爲ヲ總稱シ男女ノ交合ヲモ包含スル  
コト明カナルトモ男子カ女子ニ對シテ自然ノ交合ヲ爲スコトハ次條ノ強姦

罪トナルヲ以テ本條ノ猥褻行爲中ニ包含セサルモノト解セサルヘカラス

二 十三歳未滿ノ男女ニ對スル猥褻行爲ハ暴行又ハ脅迫ヲ手段ト爲シタルト  
否トヲ問ハス本條ノ罪ヲ構成ス猥褻行爲ノ意義及ヒ女子ニ對スル姦淫ニ付  
テハ前述ノ場合ト同様ナリ只本罪ニ付テモ普通ノ故意ヲ必要トスルヲ以テ  
若シ被害者ノ十三歳未滿ナルコトヲ知ラス即チ十三歳以上ナリト信シ暴行  
又ハ脅迫ヲ加ヘスシテ猥褻行爲ヲ爲シタルトキハ本罪ヲ構成セス  
以上ニ掲クル猥褻行爲ハ公然之ヲ行ヒタル場合ニ限ラサルヲ以テ如何ナル時  
場所ニ於テ之ヲ行フモ本罪ヲ構成スルコト勿論ナリ

第七十七條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ十三歳以上ノ婦女ヲ姦淫シタル者ハ強姦ノ罪ト爲  
シ二年以上ノ有期懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル婦女ヲ姦淫シタル者亦同シ(舊刑三四  
七乃至三九四)

本罪ハ強姦罪ヲ規定シタルモノナリ前條ニ於テ規定スル猥褻罪ハ男女共ニ之  
ヲ犯スコトヲ得ヘキ犯罪ナルモ本條ノ罪ハ男子ニ限り女子ニハ其適用ナキモ  
ノトス姦淫トハ男女間ニ於ケル自然ノ情交ニシテ不正ナルモノヲ謂ヒ本罪ハ

其姦淫カ暴行又ハ脅迫ノ結果行ハレタル場合ニ成立スルモ夫カ妻ニ對シ暴行脅迫ヲ加ヘテ姦淫シタルトキハ暴行又ハ脅迫ノ制裁ヲ受クルニ止リ本罪ヲ構成セス然レトモ十三歳未満ノ婦女ヲ姦淫シタルトキハ暴行又ハ脅迫ニ出テタル場合ナルト否トニ拘ハラヌ本罪ノ成立スルコト前條ノ場合ト全然同一ナリ而シテ本罪ノ既遂トナル時期ニ付テハ學說一致セサルモ陰莖ヲ陰膺内ニ侵入シタルノミヲ以テ既遂トシ未タ情慾ヲ遂ケサリシ場合ニ於テモ未遂罪ヲ以テ論スヘキモノニ非ストスルヲ妥當トス

本罪ノ刑罰ハ頗ル重ク二年以上十五年以下ノ懲役ニ處スヘキモノナリ

【參照判例】

◎數人順次ニ一ノ婦女ヲ強姦セント企テ最初ノ姦淫者カ姦淫ノ際加ヘタル暴力ノ結果ヲ利用シ他ノ者ニ於テ更ニ暴力ヲ加フルコトナク順次姦淫シタル場合ニハ後者ノ所爲モ亦強姦罪ヲ構成ス(大審四〇年判決錄五一三頁)

第七十八條 人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ之ヲシテ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメテ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタル者ハ前二條ノ例ニ同シ(舊)

刑三四八三四九)

本條ハ前二條ノ罪ノ暴行脅迫ニ準スヘキ場合ヲ規定シタルモノナリ即チ十三歳以上ノ男女ニ對スル猥褻罪及ヒ十三歳以上ノ婦女ニ對スル姦淫罪ハ其手段トシテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルコトヲ構成條件トスルコトハ前二條ノ規定スル所ナリ本條ニ於テハ被害者ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘサルモ心神喪失又ハ抗拒不能ノ者ニ對シ猥褻又ハ姦淫ヲ爲シタルトキハ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル場合ニ準シ前二條ニ依リ處斷スルモノトセリ

人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シトハ既ニ犯人以外ノ原因ニ因リ心神喪失セル者即チ意識ナキ者又ハ抗拒不能ノ者即チ意識ニ間缺ナキモ事實上抵抗スルコト能ハサル状態ニ在ル者ニ對シ其状態ヲ利用シテ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタル場合ヲ謂フナリ例ヘハ精神病者ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ手足ニ負傷シ身體ノ行動ヲ爲シ得サル婦女ヲ姦淫スルカ如シ又人ヲシテ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメトハ犯人自ラ被害者ニ對シ此等ノ原因ヲ與ヘタル上猥褻行爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタル場合ヲ謂フ例ヘハ藥酒ヲ使用シ又ハ

催眠術ヲ行ヒ以テ被害者ノ心神ヲ喪失セシメ又ハ抵抗不能ニ至ラシメタル場合ノ如シ

前二條ニ於テ十三歳以上ノ被害者ニ對スル犯罪ノ成立スルニハ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルコトヲ要件トシタル理由ハ人カ此年齢ニ達スルトキハ事理ヲ辨別スルノ能力ヲ有シ又相當ナル腕力ヲモ保有スルニ至ルヲ以テ若シ何等ノ暴行又ハ脅迫ヲ受クルコトナクシテ猥褻行為又ハ姦淫ヲ要求セラレタルトキハ容易ニ之ヲ排斥スルコトヲ得ヘク又之ヲ排斥セスシテ其要求ニ應シタル場合ハ全ク任意ノ承諾ニ基クモノト認ムヘキニ因リ本法ニ於テハ單純ナル猥褻及ヒ私通ハ全ク之ヲ處罰セサルモノトスレトモ苟モ暴行脅迫ヲ受ケ已ムヲ得スシテ不任意ニ此等ノ行為ヲ遂ケシメタル場合ニ於テハ固ヨリ之ヲ不問ニ附スルコト能ハサルヲ以テ前條ニ於テ特ニ此要件ヲ規定シタルモノトス而シテ本條ハ右ノ暴行脅迫ニ非スシテ之ニ準スヘキ場合ヲ規定シタルモノナルヲ以テ被害者カ十三歳以上ノ場合ニ限り適用アルモノニシテ若シ此年齢ニ達セサル者ニ對シ本條所定ノ手段ヲ施シタルトキハ前二條後段ノ規定ノミニ依リ處分ス

ヘキコト勿論ナリ

第七十九條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ前三條即チ第七十六條乃至第七十八條ニ掲クル罪ノ未遂ニ關スル規定ナリ未遂罪ノ意義及ヒ刑罰ニ付テハ既ニ屢々述ヘタルヲ以テ之ヲ參照スヘシ(四三)

第八十條 前四條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス(舊刑三五〇)

本條ハ前四條ノ罪ニ特別ナル訴追條件ヲ定メタルモノナリ即チ前四條ノ罪ヲ犯シタル者ニ對シ檢事カ告訴ヲ提起スルニハ被害者又ハ法律上ノ代理人ヨリ告訴アルコトヲ必要條件トセリ蓋前四條ニ掲クル罪ハ主トシテ人ノ淫事ニ關スルモノナルヲ以テ犯罪アレハ即チ公訴權生ストノ原則ヲ適用スルトキハ却テ被害者ノ名譽ヲ害スルニ至ルコトアルハ明白ニ付キ特ニ本條ノ規定ヲ設ケ被害者ノ意ニ反シテ之ヲ處罰スルコト能ハサルモノトセリ本條ノ意義ニ付テハ第三十五條ノ說明ヲ參照スヘシ

第八十一條 第七十六條乃至第七十九條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者

第二編 第二十二章 猥褻姦淫及ヒ重婚ノ罪

ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス(審判三五)

本條ハ猥褻又ハ姦淫罪ヲ犯シ被害者ヲ死傷ニ致シタル場合ヲ規定ス即チ第七十六條乃至第七十九條ノ罪ヲ犯ストハ同條ノ罪ヲ犯スニ當リト同意義ナルヲ以テ猥褻行爲又ハ姦淫ヲ爲ス以前ニ暴行ヲ加ヘタル爲メ人ヲ死傷ニ致シタルト猥褻行爲又ハ姦淫ヲ爲シタル爲メ人ヲ死傷ニ致シタルトヲ問ハス同條ノ罪ノ實行ニ著手シタル後ニ於テ人ヲ死傷セシメタル場合一切ヲ包含スレトモ所謂人トハ被害者ニ限ルヲ以テ猥褻行爲又ハ姦淫ヲ爲ス爲メ被害者以外ノ人ヲ死傷ニ致スモ本罪ヲ構成スルコトナシ例ヘハ人ノ妻ヲ強姦セントスルニ當リ夫カ之ヲ妨害シタル爲メ其夫ヲ死傷ニ致シタル場合ノ如シ又本罪ハ所謂結果犯ニ屬シ被害者カ死亡又ハ負傷スヘシトノ結果ヲ認識スルコトヲ要セサルモノトス此點ハ既ニ述ヘタル第一百八條第二項第二百二十四條第二項第四百四十六條後段ノ規定ト其性質ヲ同フス從テ本罪ノ故意ニ付テハ同條項ノ說明ヲ參照スヘシ

本條ニ所謂傷ニ致シトハ他人ノ身體ノ現狀ヲ不良ニ變更スルノ謂ナルヲ以テ

單ニ被害者ノ身體ノ外部ニ損傷ヲ與ヘタル場合ノミニ限ラス猥褻行爲又ハ姦淫ヲ爲シタル爲メ被害者ニ病毒ヲ傳染セシメタル場合ニ於テモ又本條ノ適用アルモノトス

【參照判例】

- ◎強姦スルノ意思ヲ以テ人ヲ毆打創傷シタル上其目的ヲ達シタル所爲ハ強姦負傷罪ヲ構成ス(大審三二三年判決 錄二卷三三頁)
- ◎強姦負傷罪ハ親告罪ニ非ス(大審三二四年判決 錄二卷八四頁)
- ◎強姦ヲ爲スニ因テ人ニ創傷ヲ負ハシメタル場合ニハ其創傷ト強姦ト相合シテ一罪ヲ構成シ強姦ト創傷トノ二罪併合スルモノニ非サレハ強姦罪ニ付キ告訴ナク又告訴ノ取下アルモ單純ナル毆打創傷罪トシテ處斷スヘキモノニ非ス(大審四〇年判決 錄五—三頁)
- ◎打擊強壓摩擦等ニ因ル充血ハ人體ニ於ケル組織分子ノ毀裂ヨリ生スルモノニシテ一ノ創傷ナリトス(大審四〇年判決 錄五—三頁)

第八十二條 營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セシメタル者ハ

第二編 第二十二章 猥褻姦淫及ヒ重婚ノ罪

三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス(舊刑三三二)

本條ハ姦淫勸誘罪ヲ規定シタルモノナリ即チ本罪ノ成立スルニハ營利ノ目的アルコトヲ要ス營利ノ目的トハ財産上ノ利益ヲ得ルノ希望ヲ謂フモノナルヲ以テ此目的ナクシテ單ニ他人ノ情慾ヲ満足セシムル爲メ本條ノ行爲ヲ爲スモ本罪ヲ構成セス然レトモ營利ノ目的アルヲ以テ足り既ニ財産上ノ利益ヲ獲得シタルコトヲ必要トセサルハ勿論ナリ本罪ノ被害者ハ淫行ノ常習ナキ婦女ニ限ル淫行ノ常習トハ平素多數人ト淫行ヲ爲スノ常習アル者ヲ謂フ例ハハ藝娼妓又ハ密賣淫婦ノ如シ然レトモ本罪ノ被害者ハ必シモ處女ナルコトヲ要セサルヲ以テ既ニ淫行ノ經驗アルト否トヲ問ハス次ニ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セシムルコトヲ要ス勸誘トハ婦女ヲシテ淫行ヲ爲スノ決心ヲ爲サシムヘキ一切ノ行爲ヲ謂フモ若シ婦女ニ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘテ淫行ノ決意ヲ爲サシメ他人ヲシテ姦淫セシメタルトキハ強姦罪トナルコト既ニ述ヘタルヲ以テ(七)本罪ヲ構成セサルコト勿論ナリ又既ニ姦淫ヲ爲スノ決意アル者ニ對シ房屋ヲ給與スルカ如キハ勸誘ニ非ス姦淫トハ男女間ニ於ケル不正ノ情交ヲ意味スルヲ以テ營

利ノ目的ヲ以テ結婚ノ媒介ヲ爲スモ本罪ヲ構成セス

本罪ハ姦淫ノ勸誘ヲ受ケタル婦女カ姦淫ヲ爲シタル場合ニ於テ成立スルモノニシテ本罪ノ未遂ハ之ヲ罰セサルニ因リ勸誘ヲ受ケタル婦女カ遂ニ姦淫ヲ爲スニ至ラサルトキハ罪トナラサルコト言フ俟タス

第百八十三條 有夫ノ婦姦通シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相姦シタル者亦同

前項ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但本夫姦通ヲ縱容シタルトキハ告訴ノ效ナシ(舊刑三五三)

本條ハ姦通罪ヲ規定シタルモノナリ即チ本罪ノ成立ニハ現ニ生存セル夫ヲ有スル婦女カ合意上他ノ男子ト姦淫シタルコトヲ要ス夫トハ民法上正式ノ婚姻ヲ爲シタル配偶者ノ一方ヲ謂フ民法ニ依レハ婚姻ハ戶籍吏ニ對シ其届出ヲ爲スニ因リ成立スルモノナルヲ以テ(七)其届出ヲ爲ササル以前ニ於テハ縱令婚姻ノ儀式ヲ舉グルモ未タ法律上夫婦ト稱スルコト能ハサルヲ以テ内縁ノ妻又ハ妾カ他ノ男子ト姦淫スルモ本罪ヲ構成セス假リニ婚姻ノ届出ヲ爲スモ其届

出カ錯誤ニシテ人違其他事由ニ因リ當事者カ婚姻ヲ爲スノ意思ナキトキハ固ヨリ婚姻ノ效力ヲ生セサルヲ以テ之亦本罪ノ成立スルコトナキハ勿論ナリ(七)然レトモ婚姻カ民法ノ要件ヲ缺ク爲メ取消サルヘキモノナルモ(九以下)其取消ノ裁判確定ニ至ルマテハ婚姻ノ效力ヲ失フコトナキヲ以テ(七)其裁判確定前ニ妻カ他ノ男子ト姦淫シタルトキハ本罪ヲ構成スルモノトス

相姦シタル者トハ他人ノ妻ナルコトヲ知リナカラ合意上之ト姦淫シタル男子ヲ指スモノトス他人ノ妻ナルコトヲ知ラスシテ之ト姦淫シタルトキハ其妻ノミニ對シ本罪カ成立シ相姦シタル者ハ無罪ナリ亦同シトハ同一ノ刑即チ二年以下ノ懲役ニ處ストノ謂ヒニシテ姦夫姦婦ニ對シ共ニ同一ノ刑期ヲ量定スヘシトノ謂ニ非ス

本罪モ亦親告罪ノ一種ニシテ本夫ノ告訴アルニ非サレハ之ヲ訴追スルコト能ハサルモノトス告訴ハ本夫ノ外其法律上代理人(親權者又ハ後見人)ニ於テモ之ヲ爲シ得レトモ(五)本夫カ姦通ヲ縱容シタルトキハ告訴ノ效ナキヲ以テ本夫ハ勿論法律上代理人ニ於テ告訴ヲ爲スコト能ハサルモノトス縱容トハ承諾ト同意義ニ

シテ本夫カ明ニ妻ノ姦通ヲ承認シタル場合ハ勿論姦通ヲ默許シタル場合ニ於テモ縱容ナリト雖モ姦通後ノ承諾ヲ包含セス又夫カ妻ノ姦通ヲ理由トシテ離婚シタル後ニ於テモ姦通ノ告訴ヲ爲スコトヲ得ヘシ

親告罪即チ告訴ヲ俟テ論スヘキ罪ノ意義及ヒ告訴ノ性質等ニ付テハ第百八十條ニ於テ説明シタルヲ以テ茲ニ再言セス

【參照判例】

③姦通者ノ一方死亡スルモ残りノ一人ハ之カ爲メニ其罪體及ヒ公訴權消滅セス(大審二五年判決 録一卷八〇頁)

④民法施行以前ニ在テハ届出ヲ以テ婚姻ノ要件ト爲サス從テ表面上離婚ノ届出ヲ爲スモ事實上婚姻ヲ繼續シタル以上ハ姦通罪ノ成立ヲ妨ケス(大審三二〇頁四)

⑤民法施行前ノ婚姻ハ婦女カ送籍ノ手續ヲ行ハサルモ夫婦タル關係アル以上ハ夫妻タルノ身分ヲ有スルモノトス從テ送籍ノ有無ハ有夫姦罪ノ成立ニ影響ナシ(大審三九年判決 録一〇六四頁)

◎姦通罪ノ成立ニハ有夫ノ婦ト第三者トノ交接ヲ必要トスルモ其犯意ハ一方ニ存スルノミヲ以テ足り對手人ノ犯意ノ有無ハ一方ノ犯罪成立ニ關係ナシ  
(大審四〇年判決 錄一、二、三、八頁)

第八十四條 配偶者アル者重ネテ婚姻ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相婚シタル者亦同シ(懲刑、三五四)

本條ハ重婚罪ヲ規定シタルモノナリ即チ配偶者アル者カ重ネテ婚姻ヲ爲シタル場合ニ關ス配偶者トハ法律上正式ノ婚姻ヲ爲シタル男女ノ一方ヨリ他ノ一方ヲ指ス語ナリ夫ヨリ見レハ妻ハ配偶者ニシテ妻ヨリ見レハ夫ハ配偶者ナリ(前條)法律上ノ夫婦關係アルコトヲ要スルヲ以テ内縁ノ夫婦又ハ妾ノ如キハ配偶者ニ非ス本罪ハ配偶者カ他ノ者ト更ニ婚姻ヲ爲シタル場合ニ成立ス即チ婚姻ノ届出ヲ爲スニ因リテ成立スルモノニシテ他ノ者ト婚姻ノ儀式ヲ舉クルモノノミニ因リ本罪ヲ構成セサルヲ以テ本罪ハ戶籍吏カ故意又ハ過失ニ因リ重婚ノ届出ヲ受理スルニ非サレハ成立セサルコト勿論ナリ(民、七六六、七七、六、七八〇ノ二)相婚シタル者トハ重婚ノ相手方トナリタル男又ハ女ヲ謂ヒ重婚者ト同一ノ刑

ニ處スルコト前條相姦者ト同一ナリ但重婚タルコトヲ知ラスシテ既ニ配偶者アル者ト婚姻ヲ爲スモ本條ノ適用ナキコト言フ俟タス又重婚者ト相婚者ト姦淫シタルコトハ本罪ノ成立ニ何等ノ影響ナク只前條ニ依リ姦通罪ヲ構成スルコトアルヘシ

【參照判例】

◎戶籍ノ登記ナキモ慣習ニ依テ夫婦ノ關係ヲ認ムルコトヲ得ヘシ從テ其離婚前重ネテ他ノ者ト結婚シタルトキハ當然重婚罪ヲ成立ス(大審三〇年判決 錄二卷八七頁)

第二十三章 賭博及ヒ富籤ニ關スル罪

第八十五條 偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル者ハ此限ニ在ラス(懲刑、二六二)

本條ハ賭博罪ヲ規定シタルモノナリ即チ本罪ノ成立スルニハ先ツ偶然ノ輸贏ニ關スルコトヲ要ス輸ハ負、贏ハ勝ノ義ナルヲ以テ輸贏トハ勝負ト同意義ニシ



テ其勝負カ偶然ナル事實ニ因リテ決定スルコトヲ要ス換言スレハ數人ノ者カ或勝負ヲ爭フニ當リ其何レノ者カ勝者トナリ又ハ敗者トナルヤ豫見シ得サル偶然ノ事實ニ因リテ決定スルコトヲ必要トス又偶然ノ事實トハ當事者カ行爲ノ當時ニ於テ豫メ其發生又ハ内容ヲ知ラス又ハ之ヲ知ルコト能ハサル事實ヲ謂フナリ故ニ例ヘハ來ル何日ニ降雨アリヤ否他人間ノ競技(圍碁、玉突、競馬)カ何レノ勝ニ歸スルヤ又自ラ骨牌、骨子等ヲ使用シテ其枚數又ハ目數ニ因リ勝負ヲ決定スルカ如キハ孰レモ偶然ノ輸贏ナリ然レトモ右ニ述ヘタル偶然ノ事實トハ必シモ未來ノモノナルコトヲ要セス當事者カ既ニ發生セルヤ否ヤヲ知ラス又ハ之ヲ知ルモ其内容ノ如何ヲ知ラサル事實ト雖モ偶然ノ事實ナリ故ニ例ヘハ航海中ノ或船舶カ昨日沈沒セリヤ否又昨日難破シタル船舶ニ死傷者アリヤ否ヤノ如キモ之ヲ勝負ノ標準ト爲ストキハ偶然ノ輸贏タルコトヲ得ヘシ以上述ヘタル如ク本罪ハ偶然ノ輸贏ヲ以テ一ノ要素ト爲スニ因リ當事者双方カ偶然ノ事實ヲ以テ勝負ヲ決スルノ標準ト爲スコトヲ必要トシ當事者ノ一方ニ偶然ナル事實ナルモ他ノ一方ニハ既ニ確定セル事實ナルトキハ之ヲ勝負ノ標

準ト爲スモ固ヨリ本罪ノ成立スルコトナシ例ヘハ當事者ノ一方カ骨子ニ或裝置ヲ爲シ必ス一定ノ目數カ現出スルコトヲ知リナカラ之ヲ祕シテ偶然ナル事實ノ如ク相手方ヲ欺キテ勝利ヲ得ルカ如シ此等ノ行爲ハ所謂詐欺賭博ト稱シ詐欺罪ヲ構成スルコトアルモ本罪ヲ構成セサルコト勿論ナリ  
次ニ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲スコトヲ要ス財物ヲ以テトハ財物ヲ賭シ互ニ其得喪ヲ目的トスルノ謂ヒナリ即チ偶然ノ事實ニ因リ決定シタル勝者ハ敗者ノ賭シタル財物ヲ取得シ敗者ハ之ヲ失フコトヲ謂フナリ然レトモ財物ハ其勝負ト同時ニ授受スルコトヲ必要トセサルヲ以テ後日ニ至リ其授受ヲ爲スコトヲ約スルモ亦本罪ヲ成立ス又財物トハ金錢ノミニ限ラス經濟上ノ利益ヲ有スル有體物一切ヲ包含ス故ニ動産ハ勿論土地家屋ノ如キ不動産モ亦財物ナリト雖モ有體物ニ非サルモノハ如何ナル價值アルモ財物ト謂フコト能ハス例ヘハ債權又ハ電氣ノ如シ博戲トハ當事者ノ行爲ニ因リ生スル偶然ノ事實ヲ標準トシ賭事トハ此以外ノ原因ニ因リ生スル偶然ノ事實ヲ標準トシテ勝負ヲ決スルノ差異アルニ過キスシテ二者共ニ財物ノ得喪ヲ爭フノ方法タルコトハ言フ

俟タス例へハ自ラ骨牌又ハ骨子ヲ弄シ其結果ニ因リ財物ノ得喪ヲ争フカ如キハ博戯ニシテ他人間ノ競技ヲ傍觀シ其結果ニ因リ財物ノ得喪ヲ争フカ如キハ賭事ナリ

以上述ヘタル要素ヲ完備スルトキハ本罪ヲ構成シ二十圓以上千圓以下ノ罰金又ハ十錢以上二十圓未滿ノ科料ニ處スヘキモノトス然レトモ單ニ一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル場合例へハ其場ニ於テ飲食スヘキ物ヲ醸出スル爲メ偶然ナル事實ニ關シ博戯又ハ賭事ヲ爲スカ如キ場合ニ於テハ本條ハ之ヲ罰セサルモノトセリ尙本罪ノ刑罰ニ付テハ次條ノ規定ヲ參照スヘシ

【參照判例】

◎金錢ヲ賭シ米穀取引所ノ相場ノ昂低ヲ標準トシテ勝負ヲ決シタル所爲ハ賭博開張罪ヲ構成ス(大審三二年判決録一〇卷四九頁、三五年八卷四七頁)

第百八十六條

常習トシテ博戯又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス賭博場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス(舊刑二六一、二六〇)

本條ハ常習賭博賭場開張及ヒ博徒結合罪ヲ規定シタルモノナリ即チ第一項ハ常習賭博罪ニ關シ賭博常習ノ身分アル者カ更ニ前條規定ノ賭博罪ヲ犯シタル場合ニ於テハ罰金又ハ科料ニ處セスシテ重キ一月以上三年以下ノ懲役刑ヲ科スヘキモノトセリ故ニ本條ニ於テハ單ニ博戯又ハ賭事ヲ爲シタル者云々トアレトモ前條ノ規定スル賭博罪ノ要件ヲ具備スル場合ニ非サレハ本條ヲ適用スルコト能ハサルハ勿論ナリ常習トハ從來屢々賭博ヲ爲シタル經歷アル者ヲ謂ヒ賭博罪ニ因リ數回處刑セラレタルト否トニ拘ハラズ裁判官ハ其者平素ノ素行ニ照シテ之ヲ判定スヘキモノトス常習者ト非常習者トカ共ニ賭博ヲ爲シタル場合ニ於テハ常習者ニハ本條ノ刑ヲ科シ非常習者ニハ前條ノ刑ヲ科スヘキコト勿論ナリ(六五)

第二項ハ賭博場ヲ開張シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者ニ適用スヘキ規定ナリ賭博場ヲ開張シトハ賭博ヲ爲スヘキ場所ヲ開キ他人ヲ集メテ賭博ヲ爲サシムルコトヲ謂フナリ他人カ賭博ヲ爲スノ情ヲ知リナカラ單ニ房屋ヲ使用セシムルハ賭博ノ從犯ニシテ(六二)本罪ニ非ス自ラ賭博場ヲ開張シ

其場所ニ於テ他人ト共ニ賭博ヲ爲シタルトキハ前二條ノ罪ト本罪トノ併合罪ナルヲ以テ重キ本罪ノ刑ヲ加重シテ處分スヘキモノトス(四七)又博徒ヲ結合シトハ賭博ノ常習アル者ヲ集合シテ自己ノ配下ニ屬セシムルコトヲ謂フ舊刑法時代ニ於テハ斯ル犯罪ヲ認メサリシヲ以テ所謂博徒ノ親分ナル者ヲ處罰スルコト能ハス從テ此等ノ者ハ多數ノ乾兒ト廣大ナル地域繩張ヲ有シ其管轄内ニ於ケル賭博者ヨリ一定ノ金錢ヲ貪リ又良民ヲ自己ノ配下ニ誘致シテ賭博ノ常習者タラシムル等其社會ヲ荼毒スルコト甚シキヲ以テ本條ニ於テハ特ニ之ヲ罪トシ重キ刑ヲ科スルモノトセリ賭場開張及ヒ博徒結合罪ノ成立スルニハ之ニ因リ利ヲ圖リタルコトヲ必要トス利ヲ圖リトハ財産上ノ利益ヲ得ルノ目的ニ出テタルコトヲ意味ス其名稱ノ寺錢ナルト手數料、入場料ナルト其他何等ノ名稱ナルトヲ問ハス又單ニ利益ヲ得ルノ目的アルヲ以テ足り必シモ現ニ利益ヲ得タルコトヲ必要トセス

【參照判例】

●多數人ヲ集メ祕密ニ作り書キタル價格附ノ高底ニ依リ偶然ノ利益ヲ僥倖ス

ヘキ一種ノ賭錢博奕ヲ爲サシメタル所爲ハ賭博開張罪ヲ構成ス(大審三四年判決 錄四卷六九頁)

●賭博開張者カ自ラ賭博ヲ爲スニ於テハ別ニ賭博罪ヲ構成ス(大審三五年判決 錄四卷一五五頁)

●利ヲ圖リトハ利益ヲ取得スルノ企圖アルコトヲ要スルノミニシテ既ニ利益ヲ取得シタルコトヲ要セス(大審三五年判決 錄五卷一二六頁)

●賭博開張ノ犯人カ常習ナルヤ否ヤハ本罪ニ關係ナシ(大審三八年判決 錄一三三三頁)

●賭博開張罪ハ一定ノ場所ニ賭場ヲ設ケ人ヲシテ博奕ヲ爲サシメ利益ヲ得ルニ因リテ完成ス開張者カ自ラ博奕ニ干與シタルト否トハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ボサス(大審四二年判決 錄六六五頁)

第百八十七條 富籤ヲ發賣シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

富籤發賣ノ取次ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ外富籤ヲ授受シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス(舊刑、二六二)

本條ハ富籤ニ關スル罪ヲ規定シタルモノナリ蓋富籤ト稱スルハ數人ノ財物ヲ醜集シタル上更ニ抽籤ノ方法ニ依リ其醜集シタル財物ノ全部又ハ一部ヲ醜出者中ノ一部ノ者ニ不平等ニ分配スルモノ即チ抽籤ナル偶然ノ結果ニ因リ或者

ハ利益シ或者ハ損失スルノ點ニ於テ賭博ト其性質ヲ異ニセサルヲ以テ本條ニ於テハ賭博ト同シク之ヲ處罰スルモノトセリ而シテ富籤ハ通常發賣者胴元ト取次人(運送人)及ヒ購買者ノ三者ニ因リ行ハルルモノナルヲ以テ刑罰モ亦此三者ニ因リ之ヲ區別セリ

富籤發賣者トハ富籤即チ前記ノ方法ニ因リ多數人ヨリ財物ヲ醸出セシムル爲メ一定ノ符票ヲ作り其證據トシテ自己又ハ取次人ノ手ヲ經テ多數人ニ之ヲ交付シタル者ヲ指ス換言スレハ此符票ヲ買受ケ代金ヲ發賣者又ハ取次人ニ支拂ヒタル者ハ後日ノ抽籤ニ加ハルノ資格ヲ取得スルモノニシテ發賣者ハ一定ノ數量ニ達スルマテ該符票ヲ發賣シ其代金トシテ受取リタル財物ヲ前記ノ如ク抽籤ニ因リ不平等ニ購買者ニ分配スルモノトス發賣ノ取次者トハ發賣人ヨリ右ノ符票ヲ受取リ多數人ニ對シ其賣却ノ周旋及ヒ代金ノ取立ヲ爲スモノニシテ富籤ハ元來多數人ヲ目的トスルモノナルヲ以テ其取次ヲ爲ス者ハ極メテ重要ナル地位ヲ有スルモノトス第三項ニ富籤ヲ授受シタル者トハ主トシテ富籤ノ購買者又ハ購買者ヨリ之ヲ轉得シタル者等ヲ指稱ス

本條ノ罪ハ富籤ノ發賣取次及ヒ授受ヲ處罰スルモノニシテ之ニ因リ財物ノ授受及ヒ利益ノ有無ハ全ク之ヲ問ハサルモノトス從テ未タ發賣者カ其代金ヲ受領セス取次人カ報酬ヲ取得セス又購買者カ當籤金ヲ受取ラサルモ本罪ヲ構成スルモノトス

【參照判例】

◎富籤トハ財物ヲ醸集シ抽籤ニ依リ當籤者ニ利益ヲ與フヘキ犯罪ヲ謂フ(大審  
年判決錄一)  
卷一六頁)

第二十四章 禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪

第百八十八條 神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲アリタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

說教、禮拜又ハ葬式ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス(懲刑、二六三)

本條ハ禮拜所ニ對スル不敬罪及ヒ說教、禮拜葬式ノ妨害罪ヲ規定シタルモノナリ

第一項ノ禮拜所トハ神祠佛堂墓所其他教會堂ノ如キ人カ信教上禮拜スヘキ場所ヲ謂ヒ公衆ノ禮拜スヘキモノナルト一家族又ハ或親族ノミノ禮拜スヘキモノナルト又特ニ殿堂其他ノ建造物ノ設ケラルルモノナルト否トヲ問ハス苟モ信教上ノ觀念ニ於テ人ノ禮拜スヘキ場所ヲ總稱ス不敬ノ行爲トハ神祠佛堂墓所其他ノ禮拜所ニ對シ其尊嚴又ハ功德ヲ汚瀆スヘキ行爲ヲ謂ヒ言語又ハ舉動ヲ以テスルト其他ノ行爲ヲ以テスルトヲ問ハスト雖モ其行爲ハ禮拜所ニ對シ公然行ハレタルコトヲ必要トスルヲ以テ禮拜所ニ於テ之ヲ行フモ公然ナラサルトキ又公然之ヲ行フモ禮拜所ニ於テ之ヲ爲ササルトキハ本罪ヲ構成セサルモノト謂フヘシ但禮拜所ニ對シ隱密ニ不敬ナル行爲ヲ爲シタルトキハ警察犯處罰令第二條第三十三號ノ罪ヲ構成スルコトアルヘシ尙公然ノ意義ニ付テハ第七十四條ニ於テ説明シタリ

第二項ノ罪ハ本法ニ於テ初メテ之ヲ規定シタルモノニシテ吾人ノ信教ノ自由ヲ保護セントスルノ法意ニ出テタルコトハ前項ノ罪ト同一ナリ故ニ茲ニ說教及ヒ禮拜ハ信教ニ關スル說法教道及ヒ其禮拜ヲ意味シ葬式ハ人ノ亡骸ヲ葬フ

ノ行爲ヲ指稱スルコト明カナリ妨害トハ說教禮拜又ハ葬式ノ安全ナル執行ヲ妨クヘキ一切ノ行爲ヲ謂ヒ其手段方法ノ如何ハ固ヨリ之ヲ問ハサルナリ尙祭事祝儀又ハ其行列ニ對スル妨害罪ハ警察犯處罰令第二條第九號ニ於テ之ヲ規定セリ

第八十九條 墳墓ヲ發掘シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス(舊刑二六五)

本條ハ墳墓發掘罪ヲ規定シタルモノナリ墳墓トハ人ノ遺骸ヲ葬リタル場所ノ謂ヒナルヲ以テ牛馬其他ノ家畜ヲ埋葬シタル場所ヲ包含セサルコト勿論ナリ但皇陵即チ歷代天皇ノ御墳墓ヲ發掘スルハ一ノ不敬行爲ナルヲ以テ第七十四條第二項ノ罪ヲ構成シ本條ニ依リ處罰スルコト能ハサルナリ尙墓墳ヲ發掘シテ死體遺骨遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞遺棄又ハ領得シタルトキハ第九十一條ノ重キ罪ヲ構成スルモノトス本罪モ亦其行爲ノ不法ナルコトヲ要ストノ一般ノ犯罪ニ共通ノ原則カ適用セラルルヲ以テ行政官廳ノ許可ヲ得テ改葬スル爲メ墓墳ヲ發掘スルカ如キハ固ヨリ適法ノ行爲ニシテ本罪ヲ構成スルコトナキハ勿論ナリ

第九十條 死體遺骨遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞遺棄又ハ領得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス(舊刑、二六四)

本條ハ死體遺骨遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ニ對スル犯罪ヲ規定シタルモノニシテ主トシテ其埋葬前又ハ一旦埋葬シタルモ他人カ之ヲ發掘シ或ハ自然ニ露出シタル場合ニ於テノミ適用アルモノトス埋葬シタル後ニ於テ墓墳ノ發掘ヲ爲シ因テ本條ト同一ノ行爲ヲ爲シタルトキハ次條ノ規定ニ依リ處罰スヘキナリ

死體トハ人類ノ遺骸ニ限リ其他ノ動物ノ遺骸ヲ包含セス又人類ノ體軀ヲ具備セサル死胎(即チ妊娠四ヶ月以前ノ胎兒ハ通常人類ノ體軀ヲ具備セス)又ハ生存者ノ手足ノ斷片ノ如キハ死體ニ非サルコト勿論ナリ遺骨及ヒ遺髮ニ付テハ特ニ説明ノ要ナシ棺内ニ藏置シタル物トハ死體遺骨又ハ遺髮等ト共ニ棺内ニ差入レタル一切ノ物ヲ總稱ス例ヘハ衣類玩具ノ如シ棺其物ヲ包含セス故ニ棺ヲ損壞スルモ本條ノ適用ナキコト明カナリ損壞トハ右ニ掲ケタル死體其他ノ物ヲ物質的ニ損傷スルコトヲ謂フ例ヘハ死體ヲ切斷スルカ如シ遺棄トハ死體其

他ノ者ヲ適法ニ埋葬セスシテ之ヲ他ノ場所ニ放擲スルコトヲ謂フ例ヘハ死體ヲ道路又ハ原野ニ曝露シ又ハ海中ニ投棄スルカ如シ領得トハ横領取得スルコトナリ例ヘハ火葬場ノ人夫カ棺内ノ衣類ヲ擅ニ取出シ取得スルカ如シ以上ノ行爲アリタルトキハ本罪ヲ構成スルモノナレトモ豫審判事カ職權ニ因リ死體ヲ解剖シ又法令ニ因リ死體ヲ火葬スルカ如キハ何レモ適法ノ行爲ナルヲ以テ本罪ヲ構成セサルコト言フ俟タス但人ノ死屍又ハ死胎ヲ隱匿擬裝シ許可ナクシテ之ヲ解剖保存シタルトキハ警察犯處罰令第二條第三十四號第三條第一號ニ依リ處罰セラレ又死體ヲ一定ノ墓地以外ニ埋葬シタルトキハ埋葬規則ニ依リ處罰セララルモノトス

殺人罪ヲ犯シタル者カ其犯跡ヲ蔽ハンカ爲メ其死體ヲ損壞又ハ遺棄シタルトキハ殺人罪ト本罪トノ二罪カ成立スルモノトス從テ併合罪ニ關スル規定ニ依リ之ヲ處罰セサルヘカラス(四五七)

第九十一條 第八十九條ノ罪ヲ犯シ死體遺骨遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞遺棄又ハ領得シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス(舊刑、二六五)

本條ハ墓墳ヲ發掘シテ死體遺骨遺髮又ハ棺内藏置物ヲ損壞遺棄又ハ領得シタル場合ヲ規定シタルモノナリ本條ノ意義ニ付テハ前二條ニ於テ説明シタルヲ以テ之ヲ再說セス

第九十二條 檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬リタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス(舊刑四二六ノ九)

本條ハ檢視ヲ經スヘシ變死者ヲ葬リタル場合ヲ規定シタルモノナリ變死者トハ急病過失天災ニ因リ死亡シ又ハ自殺シタルモノニシテ其死亡前醫師ノ診斷ヲ受ケサリシモノヲ謂フ斯ル變死ハ其原因ノ如何ニ因リ他ノ犯罪ヲ構成スルコト多キヲ以テ其死因其他ノ狀況ヲ明カナラシムル爲メ當該公務員ノ檢視ヲ經タル後ニ非サレハ之ヲ葬ルコト能ハサルモノトス(明治十年布告二二號明治十三年太政官達第一四號)而シテ本條ニハ單ニ葬リタル者トアルヲ以テ火葬タルト土葬タルトヲ問ハス變死者タルコトヲ知リ檢視ヲ經スシテ之ヲ葬リタルトキハ本罪ヲ構成スルモノトス

### 第二十五章 瀆職ノ罪

第九十三條 公務員其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス(舊刑二七六)

本條ハ一般公務員ノ職權濫用罪ヲ規定シタルモノナリ即チ如何ナル公務員ト雖モ其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ權利ノ行使ヲ妨害シタルトキハ本罪ヲ構成スルモノトス  
公務員ノ意義ニ付テハ第七條ニ於テ之ヲ説明シタリ其職權ヲ濫用シトハ即チ公務員カ自己ノ職權限ヲ超越シテ其威權ヲ用ヒタル場合ヲ謂フ如何ナル範圍ヲ職權ト稱スヘキヤハ公務員ノ種類ニ依リ之ヲ攻究スルノ外ナシ義務ナキ事ヲ行ハシメトハ濫ニ人ヲシテ勢力又ハ財物ヲ提供セシムル等法律上爲スヘキ義務ナキ行爲ヲ行ハシメタル場合ヲ謂ヒ之ニ因リ其公務員カ或利得ヲ爲シタルト否トハ之ヲ問ハス例ヘハ府縣知事カ他人ヲシテ強テ自己ヲ送迎セシメ又ハ強テ或種ノ寄付ヲ爲サシメタル如シ但公務員カ暴行又ハ脅迫ヲ用ヒ人ヲ

シテ義務ナキ行爲ヲ爲サシメタルトキハ強盜罪又ハ其他ノ罪ヲ構成シ又公務員カ其職權ヲ濫用シ人ヲシテ或罪ヲ犯サシメタルトキハ其罪ノ教唆罪ヲ構成スルコト言フ俟タス行フ可キ權利ヲ妨害シタル者トハ權利ノ行使ヲ妨ケタル場合ヲ謂フ例ヘハ擅ニ道路ニ繩張ヲ爲シ人ノ往來自由ヲ妨害シ又ハ擅ニ人ノ田畑ヲ包圍シテ耕作ヲ禁シ以テ所有權ノ行使ヲ妨害スルカ如シ然レトモ權利ノ行使ニ非スシテ權利其物ヲ侵害シタルトキハ他ノ罪ヲ構成スルコトアルモ本罪タルコトナシ例ヘハ濫ニ他人ノ所有物ヲ毀滅シ又ハ他人ニ對スル權利ヲ拋棄セシムルカ如シ

本罪ハ公務員タル身分ヲ要素トスル犯罪ナルコト上述ノ如シ故ニ此身分ナキ者ハ單獨ニテ此罪ヲ犯スコト能サルモ公務員ト共ニ犯シタルトキハ其身分ナキ者ト雖モ仍ホ共犯トシ本條ノ刑ヲ科スヘキコトハ既ニ述ヘタリ(六五)

第九十四條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕又ハ監禁シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス(舊刑二七八、二八〇、

二八二)

本條ハ特種ノ公務員ノ職權濫用罪ヲ規定シタルモノナリ即チ裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル公務員カ其名稱ノ如何ヲ問ハス其職權ヲ濫用シテ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル場合ニ關スルモノトス裁判ノ職務ヲ行フ者トハ判事、判官又ハ領事ヲ謂ヒ檢察ノ職務ヲ行フ者トハ檢事又ハ檢事代理ノ試補、郡市町村長、檢事事務取扱ノ警察官、憲兵將校下士、林務官ノ如キ(裁機一八)犯罪檢舉ノ職務ヲ取扱フ者ヲ謂フ警察ノ職務ヲ行フ者トハ警察官及ヒ憲兵ヲ謂フ以上ノ各職務ヲ補助スル者トハ書記、領事館員又ハ島司、郡長、林務官、市町村長、(刑訴四七七)若クハ巡查等ノ公務員ヲ指稱スルモノトス

以上ニ述ヘタル公務員カ其職權ヲ濫用シ擅ニ人ヲ逮捕シ又ハ監禁シタルトキハ本罪ヲ構成シ犯罪ノ有無又ハ令狀ノ有無ハ之ヲ問ハサルモノトス例ヘハ非現行犯罪事件ニ付キ警察官カ或者ヲ殺人犯人ト認ムルモ裁判官ノ令狀ナキトキハ之ヲ逮捕スルコト能ハサルニ拘ハラス之ヲ逮捕シタルカ如キ又檢事ハ非現行犯罪事件ニ付キ令狀ヲ發スル職權ナキニ拘ハラス拘留狀ヲ發シテ或者ヲ逮捕セシメ之ヲ監獄内ニ監禁スル如キ孰レモ本條ノ罪ヲ構成スルモノトス



本罪ノ刑カ通常ノ逮捕監禁罪ノ刑ニ比シ稍重キハ本條ニ掲クル職務ヲ有スル者ハ人ヲ逮捕又ハ監禁スルコト極メテ容易ナル地位ニ在リ其危險重大ナルヲ以テナリ(二二)尙本條ノ掲クル身分ヲ有スル者ト否ラサル者トカ共ニ本罪ヲ犯シタル場合ニ於テハ此身分ナキ者ニ對シテモ仍ホ本條ノ適用アルコト前條ノ場合ト同一ナリ(六五)

第九十五條 裁判檢察警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職務ヲ行フニ當リ刑

事被告人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキ亦同シ(舊刑二七八、二八〇、二八二)

本條モ亦特種ノ公務員ノ職權濫用罪ヲ規定シタルモノナリ即チ裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者及ヒ看守又ハ護送者カ刑事被告人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタル場合ニ關スルモノトス  
本罪ノ主體ハ裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者若クハ被拘禁者ヲ看守又ハ護送スル者ナルコトヲ要ス從テ此等ヲ身分ヲ有スル者ニ非サレハ

本罪ヲ犯スコト能ハサルハ勿論ナリ(六五)此等ノ意義ニ付テハ前條及ヒ第一百條ノ説明ヲ參照スヘシ

刑事被告人其他ノ者トハ證人、參考人、鑑定人、通事等刑事被告人以外ノ事件關係者ヲ總稱ス法令ニ因リ拘禁セラレタル者ノ意義ハ第九十七條以下ニ於テ説明シタル如シ暴行トハ身體ニ對スル不法ノ腕力ノ加フルコトヲ謂フ死傷ノ結果ヲ生シタルトキハ次條ノ罪ヲ構成ス陵虐トハ陵辱苛虐ノ謂ニシテ重大ナル侮辱ト虐待トヲ意味ス例ヘハ婦女ヲ赤裸々ノ儘屋外ニ立タシメ或ハ飲食物ヲ與ヘス又ハ衣服ヲ給セサルカ如シ以上ニ述ヘタル暴行又ハ陵虐ハ裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者カ其職務ヲ行フニ當リテ爲シタルコトヲ必要トス故ニ此等ノ職ニ在ル者カ偶々暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲スモ自己ノ職務執行ノ際ニ非サレハ本罪ノ適用ナキコト勿論ナリ例ヘハ事件ニ關係ナキ警察官カ裁判所ニ於テ偶々刑事被告人ヲ毆打スルカ如シ但現ニ職務執行中ノ者ト共ニ暴行ヲ爲シタルトキハ本條ノ適用アルコト前二條ニ於テ之ヲ説明シタル如シ(六五)

【参照判例】

◎看守カ獄則ニ違反シタル囚人ニ對シ突然背後ヨリ衣服ヲ掴ミ強力ヲ用ヒテ之ヲ引倒シタルハ苛酷ノ所爲ナリ(大審四〇年判決 九二八頁)

◎警察官吏カ犯罪捜査上犯人ト思料スヘキ者ニ對シ糺問ヲ爲ス以上ハ縱令現行犯ニ非ス又告訴告發ノ手續ヲ履踐セサルトキト雖モ其嫌疑者ハ所謂被告人ナリ(大審三二年判決 七三三頁)

第九十六條 前二條ノ罪ヲ犯シ囚人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス(懲刑二七八、二八〇、二八二)

本條ハ前二條ノ罪ヲ犯シ人ヲ死傷ニ致シタル場合ヲ規定シタルモノナリ即チ職權濫用ニ因リ人ヲ逮捕又ハ監禁シ刑事被告人其他ノ者若クハ被拘禁者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シ其被害者ヲ死ニ致シタルトキハ重キ第二百五條傷害シタルトキハ重キ第二百四條ニ依リ處罰スルモノトス故ニ一、逮捕、監禁、暴行、陵虐ノ行爲ニ因リ其被害者ニ死傷ノ結果ヲ生シタル場合ニ非サレハ本條ノ適用ナシ例ヘハ甲ヲ逮捕スル爲メ過テ其傍ニ在リタル乙ニ負傷セシメタル場

合又ハ被拘禁者ニ對シ暴行ヲ加フルニ當リ過テ其傍ニ在リタル被拘禁者ニ非サル者ニ負傷セシメタル場合ノ如キ過失傷害罪(九二〇)ト前二條ノ罪トヲ構成スルコト勿論ナレトモ本條ノ罪トナルコトナシ二、死傷ノ結果ヲ行爲者ニ於テ豫見セサル場合ニ非サレハ本條ノ適用ナシ即チ逮捕、監禁、暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲スノ認識ヲ以テ其行爲ヲ爲シタルニ意外ニモ被害者カ死ニ至リ又ハ負傷シタル場合ニ非サレハ本條ノ適用ナキナリ若シ前二條ニ掲クル公務員カ人ヲ殺害スルノ意思ヲ有シ其手段トシテ逮捕、監禁、暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキハ本條ノ適用ナク殺人罪ノ既遂又ハ未遂ニ關スル規定ニ依リ(一九九)處罰スヘキモノトス(五四)

本條ノ刑罰ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ストアレトモ前二條ノ罪ハ傷害罪ノ刑ヨリ輕キヲ以テ(二〇四、二〇五)本條ノ罪ハ常ニ傷害罪ノ刑ニ依リ處罰スルコトナルナリ

第九十七條 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザ

ルトキハ一年以上十年以下懲役ニ處ス  
 前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其全部又ハ一部ヲ沒收スルコト  
 能ハサルトキハ其價額ヲ追徴ス(舊刑二八五、二八六、二八八)

本條ハ賄賂罪ヲ規定シタルモノナリ即チ公務員又ハ仲裁人カ賄賂ヲ收受シ、要  
 求シ又ハ約束シタル場合ニ關スルモノトス  
 公務員ノ意義ハ既ニ述ヘタリ(七)仲裁人トハ係争事件ノ當事者カ契約ニ因リ其  
 係争物ニ付キ和解ノ爲スノ權利ヲ有シ以テ争ノ判斷ヲ爲ス者ヲ謂フ(八六、七)換  
 言スレハ或權利義務ノ問題ニ付キ争ヲ生シタル場合ニ於テ其當事者カ裁判所  
 へ出訴シテ判決ヲ求ムルハ通常ナレトモ若シ當事者双方ノ信賴スル一名又ハ  
 數人ノ仲裁人ヲシテ其争ヲ判斷セシメ其判斷ニ服從スルコトヲ契約シタルト  
 キハ其仲裁人ハ詳細ニ其事實ヲ調査シ争ノ判斷ヲ爲スモノトス此契約ニ因リ  
 當事者ノ指定シタル者ヲ仲裁人ト稱スルナリ而シテ此仲裁人ハ官吏、公吏ナル  
 ト一私人ナルヲ問ハス當事者ハ自由ニ之ヲ指定スルコトヲ得レトモ官吏又ハ  
 公吏カ仲裁人タルトキト雖モ全ク一私人トシテノ資格ニ於ケル職務ニシテ官  
 吏又ハ公吏トシテノ職務ニ非サルヲ以テ公務員トシテ本條ヲ適用スヘキモノ

ニ非ス本罪ノ主體ハ公務員又ハ仲裁人ニ限ルヲ以テ其他ノ者カ其業務上他人  
 ヨリ報酬其他ノ利益ヲ受クルモ本罪トナラサルコト勿論ナリ例ヘハ會社ノ重  
 役カ其業務ニ關シ他人ヨリ不當ノ利益ヲ得タル場合ノ如シ其職務ニ關シトハ  
 公務員又ハ仲裁人ノ一定ノ職務行爲ニ關係スル場合ヲ謂ヒ其職務行爲ノ執行  
 カ賄賂ノ收受、要求又ハ約束前ナルト否トヲ問ハサルナリ故ニ職務行爲ヲ執行  
 シタル後收受、要求又ハ約束スルモ其職務ニ關スルモノトス又職務ノ執行カ正  
 當ナルト否トニ拘ハラスト雖モ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササル  
 トキハ第一項後段ノ重キ罪ヲ構成スルコト下ニ述フル如シ一定ノ職務ニ關セ  
 サルトキハ本罪ヲ成立セサルヲ以テ一私人タル資格ニ於ケル贈答品ノ授受ノ  
 如キハ固ヨリ本條ノ關スル處ニ非ス例ヘハ官吏カ家族ノ死亡ニ因リテ他人ヨ  
 リ香奠ヲ貰受クルカ如シ賄賂トハ金錢上ノ價值アル財物ヲ總稱シ總テノ動産  
 不動産ハ勿論一時ノ變應ノ如キ孰レモ賄賂タリ無形ノ勞力又ハ淫行ノ提供ノ  
 如キモ亦賄賂ノ目的タルコトヲ得ルヤ否ヤハ學說一致セサルモ斯ル無形ノ提  
 供ハ賄賂タルコトヲ得サルモノト解スルヲ相當トス收受トハ交付ヲ受クルコ

ト要求トハ交付ヲ請求スルコト約束トハ交付ヲ受クヘキコトヲ承諾スルコトナリ公務員又ハ仲裁人カ其職務ニ關シ賄賂ヲ要求シテ之ヲ收受シ又ハ約束シテ之ヲ收受スルモ收受罪ノミヲ構成スルモノトス不正ノ行為ヲ爲シ又ハ相當ノ行為ヲ爲ササルトキトハ公務員又ハ仲裁人カ賄賂ヲ收受シ要求シ又ハ約束シタル爲メ特ニ相當ナラサル行為ヲ爲シ又ハ當然爲スヘキ行為ヲ爲ササル場合即チ其職務ヲ任ケタル場合ヲ謂フナリ例ヘハ司法警察官カ賄賂ヲ收受シタル爲メ犯人ヲ釋放シ又ハ犯罪ヲ默許シタル場合ノ如シ斯ル枉法ノ行為カ伴ヒタルトキハ重キ刑ヲ以テ處罰スルモノトス

第二項ハ收受シタル賄賂ノ沒收ニ關スル規定ナリ即チ公務員又ハ仲裁人ノ既ニ收受シタル賄賂カ尙犯人ノ手中ニ存スルトキハ前項ノ懲役刑ヲ言渡スト同時ニ之カ沒收ノ言渡ヲ爲スヘキモノニシテ若シ既ニ其收受シタル賄賂ヲ消費シ又他人ニ讓渡シテ沒收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徴スルノ言渡ヲ爲スヘキモノトス賄賂トシテ收受シタル物カ其性質ヲ變更シタルトキハ縱令收賄者ノ手中ニ存スルモ之ヲ沒收スルコト能ハス例ヘハ收受シタル現金ヲ以

テ買受ケタル時計其他ノ物ノ如シ又追徴ノ言渡ハ收賄者死亡後ニ於テハ其相續人ニ對シテ之ヲ執行スルコト能ハサルモノトス(刑施五〇、刑訴三二〇ノ二)

【參照判例】

⑤官吏カ職務ニ關スル囑託ニ應シ會テ自己ノ差入レタル債務證書ノ返付ヲ受ケタル所爲ハ賄賂收受罪ヲ構成セス而シテ證書面ノ金額ハ之ヲ追徴スヘキモノトス(大審三〇年判決 錄一―卷八二頁)

⑥收賄罪ニ於ケル請託關係ハ贈賄ノ請託ト收賄者ノ受諾トニ依テ發生スルモノニシテ受諾ノ通知ヲ待テ後ニ發生スルモノニ非ス(大審三五年判決 錄三卷八九頁)

⑦官吏收賄罪ハ官吏カ其職務ニ關シ内囑ノ申込ヲ受ケタル日ニ成立スルモノニ非スシテ内囑ノ申込ニ應シタル日ニ於テ成立ス從テ申込ヲ受ケタル日ハ未タ其職ニ在ラストスルモ申込ニ應シタル日ニ於テ其職ニ在リタル時ハ同罪ヲ構成ス(大審三六年判決 錄一―七六頁)

⑧或課長カ其課僚ヨリ財物ヲ贈與セシメ其報酬トシテ不正行為ヲ不問ニ付シ該課僚ノ爲メニ將來ニ於ケル便宜ノ處置ヲ取リタル所爲ハ官吏收賄罪ヲ構

成ス(大審三七年判決  
録一六九二頁)

◎官吏ノ管掌ニ係ル職務トハ現ニ其職權ヲ以テ處理シ得ヘキ状態ニ在ル事務ノ執行ヲ指稱スルモノトス(大審三九年判決  
録一三五三頁)

◎數人共同シテ一團トナリ賄賂ヲ收受セル場合ニ於テハ其分配ヲ受ケタル金額如何ニ拘ハラズ各自賄賂ノ全部ニ付キ追徴ヲ受クルノ責任アリ(大審三七年  
判決録五九  
七頁三五  
三卷八九頁)

第九十八條 公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以上ノ懲

役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

本條ハ賄賂罪ヲ規定シタルモノナリ即チ公務員又ハ仲裁人ニ對シ賄賂ヲ交付シ提供シ又ハ約束シタル場合ニ關スルモノニシテ前條ノ罪ノ反面ヲ規定シタルモノナリ故ニ本條ノ規定ハ前條ト相俟テ之ヲ研究スルコトヲ必要トス交付トハ公務員又ハ仲裁人ニ引渡スコトヲ謂ヒ提供トハ公務員又ハ仲裁人カ自由ニ收受シ得ヘキ状態ニ置クコトナリ例ハ其目前ニ提出スルカ如シ約束トハ

將來贈賄スヘキコトノ承諾ナリ

自首ニ付テハ第二項ニ於テ特別規定ヲ設ケタリ茲ニ所謂自首モ亦總則ノ規定スル要件ヲ具備スルコトヲ要スルハ勿論ナリ(四三)只其刑ヲ免除スルコトヲ得ル點ニ於テ差異アルニ過キス

## 第二十六章 殺人ノ罪

第九十九條 人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス(舊刑二九  
二乃至二九七)

本條ハ通常ノ殺人罪ヲ規定シタルモノナリ即チ人ヲ殺スノ意思ヲ以テ人ノ生命ヲ絶チ得ヘキ行爲ヲ爲シ其結果人ノ死亡シタル場合ニ於テハ本條ノ適用ヲ受クルモノニシテ舊刑法ニ於ケル如ク種々ノ區別ヲ設ケサルヲ以テ豫メ謀テ人ヲ殺シタルト偶然ノ決意ニ因リ人ヲ殺シタルトヲ問ハサルハ勿論其殺害行爲カ毒物ノ施用ナルト支解折割其他慘刻ノ方法ニ因レルトニ論ナク苟モ人ノ生命ヲ絶チ得ヘキ手段ナルトキハ銃殺斬殺燒殺絞殺等皆本條ノ罪ヲ構成スル

ルモノトス  
 人トハ肉體ト生命トヲ有スル自然人ヲ指スコト勿論ニシテ法人ヲ包含セサル  
 コト明カナリト雖モ自然人トシテ存在スル時期即チ出生ノ時期ニ付テハ學說  
 一致セス或ハ胎兒カ其身體ノ一部ヲ露出シタルトキヲ以テ出生ナリトシ或ハ  
 全部ヲ露出シタルトキヲ以テ出生ナリトスル說アリト雖モ胎兒カ胎盤生活ヲ  
 離レテ獨立シテ肺呼吸ヲ爲スニ至リタルトキヲ以テ出生ナリトスルヲ通說ト  
 ス從テ胎兒カ産門ヨリ頭部ヲ露ハシ將ニ出產セントスルニ當リ之ヲ壓殺シ遂  
 ニ獨立呼吸ヲ營ムニ至ラサラシメタルトキハ殺人罪ヲ構成スルコトナシ之ニ  
 反シテ一旦出產シテ獨立ノ呼吸ヲ營ミタルトキハ其瞬間ヨリ人トシテ存在ス  
 ルモノナルヲ以テ之ヲ殺シタルトキハ本罪トナルコト勿論ナリ次ニ人トシテ  
 存在ノ終期ハ死亡ニシテ死亡トハ呼吸ノ閉止ナルヲ以テ未タ呼吸ノ全然閉止  
 セサル者ハ縱令氣息奄々トシテ將ニ絶止セントスルモノト雖モ尙人ナリ從テ  
 故意ニ其呼吸ヲ閉止セシメタルトキハ殺人罪タルコト言ヲ俟タス  
 本罪ノ處分ハ舊刑法ノ刑ニ比シ其範圍極メテ廣ク死刑ヨリ三年マテノ懲役中

犯情ニ適應スル刑ヲ選擇スルコトヲ得ルモノトス尙此刑ヲ減輕スヘキトキハ  
 短期ハ一年六月ノ懲役ニ下スコトヲ得ヘシ(六八七)

【參照判例】

◎犯人カ墮胎行爲ヲ終リタル後尙産兒ノ生息スルヲ見テ更ニ殺意ヲ決シ之ヲ  
 殺害シタル所爲ハ墮胎及ヒ殺人ノ二罪ナリ(大審三九年判  
 決錄八四九頁)

第二百條 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス(舊刑三  
 六二)

本條ハ直系尊屬ニ對スル殺人罪ヲ規定シタルモノトス即チ自己又ハ配偶者ノ  
 直系尊屬ヲ殺シタルモノハ通常ノ殺人罪ニ比シ重ク處罰スルノ法意ニ出テタ  
 ルモノトス配○偶○者○トハ夫婦ノ一方ヨリ他ノ一方ヲ指スノ語ナリ故ニ夫ヨリ見  
 レハ妻、妻ヨリ見レハ夫ハ配偶者ナレトモ此關係ハ法律上ノ夫婦間ニノミ存ス  
 ルモノナルヲ以テ戶籍吏ニ對シ婚姻ノ届出ヲ爲ササル男女ハ縱令婚姻ノ儀式  
 ヲ舉ケ事實上夫婦ト同一ノ關係ヲ有スルモ之ヲ互ニ配偶者ト稱スルコトヲ得  
 サルナリ(七五七)直系尊屬トハ直接ニ自己ノ祖先ニ遡リ血統ノ關係アルモノヲ謂

フ父母、祖父母、曾父母、等ノ如シ伯叔父母、兄弟ノ如キハ通俗目上ト稱スルモノナ  
 レトモ此等ハ傍系親族ニシテ固ヨリ直系尊屬ニ非ス然レトモ自然ノ血統關係  
 ナクシテ法律上其關係アルモノト同視セラレルモノアリ即チ養子ト養親及ヒ  
 其血族トノ間ニ於テハ養子縁組ノ日ヨリ血族間ニ於ケルト同一ノ親族關係ヲ  
 生シ繼父母ト繼子又嫡母ト庶子トノ間ニ於テハ親子間ニ於ケルト同一ノ親族  
 關係ヲ生スルモノナルヲ以テ(七二八)養子ヨリ見レハ養家ノ父母、祖父母、曾父  
 母等モ亦直系尊屬ナリ又繼子ヨリ見レハ繼父母モ亦直系尊屬ニシテ庶子ヨリ  
 見レハ嫡母モ亦直系尊屬ナリトス

本罪ノ構成ニ付テハ前條ニ述ヘタルト全ク同一ナリ只通常ノ殺人罪ハ三年以  
 上ノ有期徒刑ヲ認ムルニ拘ハラズ本條ニ於テハ死刑又ハ無期懲役ニ處スヘキモ  
 ノトシ其刑頗ル重キノ差異ナルコトヲ注意スヘシ然レトモ自己又ハ配偶者ノ  
 直系尊屬タルコトヲ知ラスシテ之ヲ殺害シタルトキハ前條ノ刑ヲ科スヘク(八三)  
三又數人カ共同シテ其中一人又ハ其配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタルトキハ其中  
 被害者ノ直系尊屬ニ非サル犯人ニハ前條ノ刑ヲ科スヘク(六五)又舊刑法第三百

六十五條ノ如キ例外規定ナキヲ以テ自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺害シタル  
 場合ニ於テモ緊急防衛ニ出テタルトキハ無罪又ハ刑ノ減輕ヲ爲シ得ルコト勿  
 論ナリ(三三六)

第二百一條 前二條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處  
 ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

本條ハ殺人豫備罪ヲ規定シタルモノナリ豫備トハ犯罪ノ實行ニ著手スル以前  
 ノ状態ニシテ之ヲ處罰セサルヲ原則トシ特種ノ犯罪ニ關シテノミ特ニ之ヲ罰  
 スルコトハ屢々述ヘタル所ナリ(四三、七八、八八、九三)而シテ本條モ亦其一例ニ外ナ  
 ラス即チ殺人豫備罪トハ人ヲ殺スノ目的ヲ以テ其準備ヲ爲スニ因リテ成立ス  
 ルモノトス例ヘハ毒殺セントシテ毒藥ヲ購入シ斬殺セントシテ及器ヲ研クカ  
 如シ之ヨリ進ンテ毒藥ヲ被害者ノ食膳ニ供シ又ハ及器ヲ被害者ニ對シテ振リ  
 上ケタルトキハ既ニ其實行ニ著手シタルモノナルヲ以テ犯人カ其目的ヲ達シ  
 タルト否トニ依リ既遂又ハ未遂罪トナリ本條ヲ適用スヘキモノニ非ス  
 右ニ述ヘタル如ク豫備ハ犯人カ其犯意ヲ外部ニ現シタル一ノ舉動ニ過キスシ

テ未タ何等ノ危害ヲ生セサルヲ以テ本條ハ極メテ輕キ刑ヲ規定シタルノミナ  
ラス其犯情ノ如何ニ依リ刑罰ヲ加フルノ必要ナシト認メタルトキハ其刑ヲ免  
除スルコトヲ得ルモノトセリ

【參照判例】

◎殺意ヲ以テ毒藥ヲ調合シ之ヲ服用セシメントスル人ニ渡シタルノミノ所爲  
ハ未タ毒殺ノ實行ニ著手シタルモノニ非ス從テ現ニ毒藥ヲ服用セシメ又ハ  
目的ノ人カ服用スヘキ狀況ニ毒藥ヲ供シタルトキニ於テ初メテ實行ノ著手  
アリタルモノトス(大審三三六六判決 錄一四九頁)

◎苟モ殺害ノ意思ヲ確定シテ之カ豫備ヲ爲シタル以上ハ其殺意ノ條件附ナル  
ト否トニ論ナク本罪ヲ構成ス(大審四二二年判 決錄七六九頁)

第二百二條 人ヲ教唆若クハ幫助シテ自殺セシメ又ハ被殺者ノ囑託ヲ受ケ若クハ其承  
諾ヲ得テ之ヲ殺シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス(舊刑三二〇、三二一)

本條ハ自殺ニ關スル罪ヲ規定シタルモノナリ法律上自殺ヲ禁スヘキヤ否ヤハ  
學者ノ論争スル所ナレトモ本法ニ於テハ自殺セントシテ遂ケサル場合ニ於テ

モ之ニ刑罰ヲ加フルコトナク只自殺者以外ノ者カ其自殺ニ關與シタル場合ニ  
於テノミ本罪ヲ構成スルモノトセリ

本條ハ左ノ場合ニ其適用アルモノトス

一 人ヲ教唆又ハ幫助シテ自殺セシメタルトキ

教唆トハ總則ノ教唆ト其意義ヲ同フシ(六一)自殺スルノ意思ナキ者ニ對シ自  
殺ノ決意ヲ爲サシムルコトヲ謂ヒ其手段方法ノ如何ハ固ヨリ之ヲ問ハサル  
ナリ故ニ例ヘハ詐欺、強迫、勸告等自殺教唆ノ手段タルコトヲ得ヘシ次ニ幫助  
トハ從犯ニ於ケル幫助ト其意義ヲ同フシ(六二)既ニ自殺スルノ決意アル者ニ  
對シ其自殺ヲ容易ナラシムルコトヲ謂ヒ其手段方法ハ固ヨリ之ヲ問ハサル  
ナリ故ニ例ヘハ自殺者ノ依頼ニ因リ毒藥ヲ買求メテ交付スルカ如キ切腹ノ  
場所ニ於テ介抱ヲ爲スカ如キ孰レモ幫助行爲タルモノトス  
人ノ自殺ヲ教唆又ハ幫助シタル場合ニ於テハ其目的カ自己ノ利益ヲ圖ルニ  
在ルト自殺者ノ利益ヲ圖ルニ在ルトヲ問ハス自殺ノ決意ヲ爲シタル者カ自  
殺ヲ爲スト同時ニ本罪ノ既遂トナルモノトス(未遂罪ニ付テハ 次條ニ規定アリ)然レトモ自殺者



ハ意思能力ヲ有シ其意思ニ依リ自殺ヲ決シタルコトヲ要スルヲ以テ五六歳ノ幼者ニ對シ自殺ヲ勸メテ自殺セシメタルトキハ通常ノ殺人罪ヲ成立シ本罪ヲ構成スルモノニ非サルナリ

二

人ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺シタルトキ  
囑託トハ自殺セントスル者カ其實行ヲ他人ニ依頼スルコトヲ謂ヒ承諾トハ自己ヲ殺サントスル他人ノ申込ニ對シ承諾ヲ與フルコトヲ謂ヒ共ニ他人ノ生命ヲ奪フモノニシテ此點ニ於テハ通常ノ殺人罪ト毫モ異ナラサルナリ即チ意ニ反シテ他人ヲ殺シタルトキハ通常ノ殺人罪トナリ意ニ反セサルトキハ本條ノ罪トナルモノトス

囑託又ハ承諾モ亦被殺者カ意思能力ヲ有スル場合ニ於テ任意ニ其囑託又ハ承諾ヲ爲シタルコトヲ必要トス故ニ全ク自殺ノ何物タルヤヲ解セサル幼者又ハ精神病者ノ囑託又ハ承諾ヲ得テ其者ヲ殺シタルトキハ通常ノ殺人罪ヲ構成シ本罪トナラサルモノトス本罪ノ未遂ニ付テハ次條ニ規定アリ

右二個ノ場合ニ於テハ共ニ本罪ヲ構成シ本條ノ刑ヲ科スヘキモノトス而シテ

自殺者又ハ被殺者カ自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ナルト否トハ其刑罰ニ何等ノ差異ナキナリ

第二百三三條 第九十九條、第二百條及ヒ前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ殺人罪及ヒ自殺ニ關スル罪ノ未遂罪ヲ定メタルモノナリ即チ殺人罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其實行ニ著手シ又ハ前條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ自殺ノ教唆若クハ幫助ヲ爲シ若クハ囑託又ハ承諾ヲ得テ他人ヲ殺害スルノ實行ニ著手シタルモ其目的ヲ達セサル場合ニ於テモ未遂罪トシテ之ヲ處罰スルモノトス而シテ未遂罪ノ刑罰ハ犯人ノ意外ノ原因ニ因リ其目的ヲ達セサル場合ナルト犯人カ任意ニ其犯行ヲ中止シタル爲メ其目的ヲ達セサル場合ナルトニ依リ同一ナラス此點ニ付テハ既ニ屢々述ヘタル所ナリ只前條前段ノ場合ニ於テ教唆又ハ幫助ニ因リ自殺ニ著手シタル後其者モ自殺ヲ中止シタルトキハ所謂中止犯トナラスシテ犯人以外ノ事由ニ因リ未遂ニ終リタルモノトシテ處罰スルコトヲ注意スヘシ(四三)

【參照判例】

- ◎ 人ヲ殺ス意思ヲ以テ毒藥ヲ施用シタル以上ハ縱令少量ノ爲メ人ヲ殺スニ足ラサルモ犯人意外ノ升錯ニ外ナサルヲ以テ未遂罪ナリ(大審三七年判決一四〇三頁三〇年六卷五七頁)
- ◎ 人ヲ殺ス意思ヲ以テ石炭酸ヲ他人ノ口中ニ注入シタルモ大部分ハ口外ニ流下シタル爲メ死ニ至ラサル場合ニ於テハ未遂罪ナリ(大審三七年判決四八八頁)
- ◎ 自殺ヲ教唆シ之ニ因リ被教唆者カ自殺セントシテ遂ケサリントキハ前條ノ罪ノ未遂罪ヲ構成ス(大審三七年判決二六九頁)

### 第二十七章 傷害ノ罪

第二百四條 人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス(懲刑三〇一三〇二)

本條ハ通常ノ傷害罪ヲ規定シタルモノナリ即チ本罪ハ人ノ身體ニ暴行ヲ加ヘテ傷害シタル場合ニ成立スルモノニシテ本罪ノ客體ハ生存スル人ニ限ルヲ以テ未タ出生セサル胎兒及ヒ既ニ呼吸ノ閉止シタル屍體ヲ傷害又ハ他ノ動物ヲ傷害シタルトキハ他ノ罪ヲ構成スルコトアルモ本條ヲ構成スルモノニ非ス(九一)

六〇(二) 尙人ノ出生ノ時期ニ付テハ第九十九條ニ於テ説明シタリ又人トハ自己以外ノ人類ヲ總稱スルモノナルヲ以テ自己ノ身體ヲ傷害スルモ本罪トナラス只徵兵ヲ免ルル爲メ自己ノ身體ヲ傷害シタル場合ニハ特別ノ罪トナル(徵兵令三一) 次ニ傷害トハ人ノ身體ニ於ケル生理狀態ニ不良ノ變化ヲ加フルコトヲ意味シ其不良ノ狀態カ皮膚ノ外部ニ發生シタル場合ハ勿論身體ノ内部ニ發生シタル場合ヲモ包含スルモノトス例ヘハ單純ナル充血又ハ腫張ノ如シ而シテ斯ル傷害ヲ加フルノ手段ハ一切ノ暴行即チ身體ニ對スル直接ノ攻撃方法ヲ意味スルモノトス例ヘハ手拳又ハ他ノ物ヲ以テ他人ノ身體ヲ毆打シ其他熱湯又ハ毒物ヲ注クカ如キ孰レモ暴行ナリ

本罪ハ單ニ其暴行ヲ爲スノ意思アルヲ以テ足り其結果ノ發生ヲ認識シタルト否トヲ問ハサルヲ以テ人ヲ傷害セシムルノ意思ヲ以テ暴行ヲ加ヘタルト否トニ拘ハラス現ニ傷害ナル結果ヲ生シタルト否トニ依リ本條又ハ第二百八條ノ適用ヲ受クヘキモノトス本罪ノ處分ハ懲役罰金又ハ科料ノ刑中其一ヲ選擇シテ科刑スルモノトス蓋人ニ對シ暴行ヲ加ヘ傷害ヲ生セシメタル場合ニ於テモ

其傷害ノ程度ハ實ニ千差萬別ニシテ其犯情ニモ亦數多ノ輕重アルヲ以テ本條ハ十錢以上五百圓以下ノ財産刑及ヒ一月以上十年以下ノ懲役刑ヲ定メ犯情ニ適應スル科刑ヲ爲シ得ルモノトセリ自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對スル本罪ノ刑ニ付テハ特別ノ規定ナキヲ以テ以上ノ刑ヲ科スヘキモノトス

【參照判例】

③ 人ヲ突キ倒シ其身體ヲ他物ニ觸レシメ創傷ヲ負ハシメタルトキハ毆打創傷罪ヲ構成ス(大審三七年判例 決録九二頁)

④ 人ヲ毆打シテ數個ノ創傷ヲ負ハシムルモ數罪ニ非ス(大審三七年判例 錄一二九〇頁)

⑤ 苟モ故意ヲ以テ人ニ暴行ヲ加ヘタル以上ハ傷害ノ結果ヲ豫見シタルト否トニ拘ハラズ本罪ヲ構成ス(大審四二年判例 決録二三七頁、四三八頁)

⑥ 正當ノ理由ナクシテ他人ノ身體ニ不良ノ變更ヲ生セシメタルトキハ器具ヲ用ヒタルト否ト又器具カ甲ナルト乙トニ拘ハラズ傷害罪ヲ構成ス(大審四二年判例 決録一七四頁)

⑦ 血腫張ハ一種ノ創傷ナリ(大審四二年判例 決録一七四頁、四三三年四月四日判例)

二百五條 身體傷害ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス(舊刑、二九九)

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス(舊刑、三六三)

本條ハ傷害致死罪ヲ規定シタルモノナリ即チ本罪ハ他人ノ身體ニ對シ暴行ヲ加ヘテ傷害シ其結果他人ヲ死ニ至ラシメタル場合ニ成立スルモノトス而シテ本罪カ他ノ殺人罪ト異ナル點ハ一ニ致死ノ結果ヲ認識セサル點ニ存スルモノニシテ他人ニ對シ暴行ヲ加フル當時其結果被害者カ死ニ至ルコトヲ認識シタルトキハ通常ノ殺人罪トナリ全ク暴行ヲ爲スノ認識ナキトキハ過失殺人罪トナリ暴行ヲ加フルノ意思アルモ死ナル結果ヲ認識セサルトキハ本條ノ罪ヲ構成スルモノトス尙本罪ノ成立ニ付テハ殺人罪(九、九)及ヒ前條ノ說明ヲ參照スヘシ

本罪ノ處分ハ被害者カ犯人又ハ其配偶者ノ直系尊屬ナルト否トニ因リ同一ナラス此點ハ殺人罪ノ場合ト異ラサルヲ以テ其說明ヲ參照スヘシ(二〇)

【參照判例】

◎雇人ヲ懲戒スル目的ヲ以テ裸體ト爲シ屋外ニ立タシメタル上凍死セシメタル所爲ハ毆打致死罪ヲ構成ス(大審三〇年判決 録一〇卷四〇頁)

◎毆打致死罪ハ毆打創傷ノ當時直ニ成立スレトモ必シモ之ニ因テ直ニ人ヲ死ニ致スコトヲ要スルモノニ非ス從テ創傷ト死亡トノ間若干日ヲ經過スルコトアルモ罪ノ成否ニ影響ナシ(大審三三年判決 録一〇卷八一頁)

◎或病因ヲ有スル者ヲ毆打シ爲メニ疾病ヲ誘發セシメ因テ之ヲ死ニ致シタル所爲ハ毆打致死罪ヲ構成ス(大審三七年判決 録一〇卷一六頁)

第二百六條 前二條ノ犯罪アルニ當リ現場ニ於テ勢ヲ助ケタル者ハ自ら人ヲ傷害セスト雖モ一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス(舊刑三〇六)

本條ハ傷害助勢罪ヲ規定シタルモノナリ即チ本罪ハ前二條ノ場合ニ於テ他人ノ身體ニ對シ暴行ヲ加フル者アルニ當リ其犯人ニ聲援ヲ與フルニ因リ成立スルモノトス本罪ノ行爲ハ單ニ他人ノ犯罪ニ聲援ヲ與フルコトニ止マルヲ以テ若シ聲援ヲ爲スト同時ニ自ら手ヲ下シタルトキハ前二條ノ罪ノ共犯(六〇)又ハ次條ノ罪トナリ本條ノ適用アルモノニ非ス

聲援モ亦一種ノ補助行爲ナルヲ以テ若シ本條ノ存セサルトキハ前二條ノ罪ノ從犯トナリ自ら暴行ヲ爲シタル第二百八條ノ場合ト其刑ノ權衡ヲ失スルヲ以テ特ニ本條ヲ設ケタルモノトス(六三六八)故ニ聲援以外ノ行爲ヲ以テ補助シタルトキハ傷害罪ノ從犯トシテ處分スヘキコト勿論ナリ

第二百七條 二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハス又其傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサルトキハ共同者ニ非スト雖モ共犯ノ例ニ依ル(舊刑三〇五)

本條ハ傷害罪ニ關スル特別ノ共犯例ヲ規定シタルモノナリ蓋數人ノ者カ同時ニ暴行ヲ加ヘ他人ヲ傷害シタル場合ニ於テ其數人間ニ意思ノ共通アルトキ即チ共同ノ意思ヲ以テ他人ニ暴行ヲ加ヘタルトキハ一般共犯ノ例(六〇)依リ各正犯トシテ處分スヘク又其數人間ニ意思ノ共通ナキ場合ニ於テモ各自ノ暴行ニ因リ生シタル傷害ノ輕重明カナルトキ又ハ傷害ノ有無カ明カナルトキハ各自其結果ノ輕重有無ニ因リ處分スヘキコト勿論ナリ例ヘハ甲ハ短刀ヲ用ヒ乙ハ手拳ヲ以テ同時ニ丙ニ暴行ヲ加ヘタル場合ニ於テ被害者タル丙ニ刀創一個

ノミヲ生シタルトキハ甲ニ對シテハ第二百四條ヲ乙ニ對シテハ第二百八條ヲ適用スヘキカ如シ然ルニ意思ノ共通ナキ人カ同時ニ他人ニ暴行ヲ加ヘテ傷害セシメタル場合ニ於テ其傷害ナル結果ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハス又傷害カ數個アルモ其傷害ニ輕重アル場合ニ於テ何人ノ暴行ニ因リ重キ傷害ノ結果ヲ生シ何人ノ暴行ニ因リ輕キ傷害ノ結果ヲ生シタルヤヲ知ルコト能ハサルトキハ全ク各犯人ニ對シ本章ノ規定ヲ適用スルコト能ハサルニ至ルヲ以テ本條ハ斯ル場合ニ於テハ其數人ニ意思ノ共通ナキモ仍ホ共犯ノ例ニ依リ處斷スルモノトセリ故ニ例ヘハ甲乙兩人ニテ丙ヲ毆打シ創傷一個ヲ負ハシメタルモ其創傷カ申乙孰レノ行爲ニ因リ生シタルヤヲ知ルコト能ハサルトキハ第六十條ニ依リ甲乙兩人ニ對シ第二百四條ヲ適用スヘキカ如シ本條ニ共同者ニ非スト雖モトアルハ如上ノ義ニシテ即チ意思ノ共通ナク從テ總則ノ一般共犯例ニ依ルコト能ハサル場合ト雖モト云フニ同シ

【參照判例】

共毆シテ傷ヲ成スノ輕重ヲ知ルコト能ハストハ二人以上共毆シテ其負ハシ

メタル創傷ノ分明ナラサル場合ヲ總稱ス故ニ必シモ共毆人ノ員數ニ相當スル創傷ノアル場合ノミヲ意味スルニ非ス(大審三九年判決錄一〇卷二頁三三三—三三五)

◎共犯者ノ傷害ニ輕重ナク孰レモ被害者ヲ死ニ致スノ原因ヲ爲スモノト認めラレタル場合ニハ本條ハ適用ナシ(大審四〇年判決錄一—三五頁)

第二百八條 暴行ヲ加ヘタル者人ヲ傷害スルニ至ラサルトキハ一年以下ノ懲役若クハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若クハ科ニ處ス(舊 四二五ノ九)  
前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

本條ハ暴行罪ヲ規定シタルモノナリ即チ他人ノ身體ニ對シ不法ノ暴力ヲ加ヘタル場合ニ關スルモノニシテ若シ其暴行ノ結果他人ヲ傷害シタルトキハ前數條ノ適用ヲ受クヘキモ暴行ノ結果傷害ナル結果ヲ生セサルトキハ本條ニ依リ處罰スルモノトス然レトモ本罪ノ成立ニハ暴行ヲ加フルノ意思アルコトヲ要スルヲ以テ過失ニ因リテ他人ニ暴行ヲ加ヘ傷害スルニ至ラサルトキハ全然無罪ナリ(九〇)例ヘハ過テ通行人ノ足ニ水ヲ注キタルカ如シ

暴行ハ他ノ犯罪ノ構成條件タル場合頗ル多シ例ヘハ公務執行妨害罪、逃走罪、騷

擾罪、猥褻強姦罪、強盜罪等（九五、九八、一〇〇ノ三、一〇六）殆ント收擧ニ違アラヌ斯ル  
犯罪ニ付テハ暴行ハ其必然ノ手段ニシテ構成條件ノ一部ニ外ナラサルヲ以テ  
其暴行ヲ加フルト同時ニ實行ノ著手トナリ縱令目的タル犯罪ノ完成セサル場  
合ニ於テモ其罪ノ未遂トナリ單ニ其暴行ノミヲ以テ本條ニ間擬スルコト能ハ  
サルモノトス例ヘハ強盜ヲ爲ス目的ヲ以テ人ニ暴行ヲ加ヘタルトキハ強盜罪  
ニ著手シタルモノナルヲ以テ財物ヲ得スシテ終リタルトキト雖モ強盜未遂罪  
ヲ構成シ本條ノ暴行罪トナラサルカ如シ故ニ本罪ハ他ノ犯罪ノ構成條件タラ  
サル暴行ニ限ルモノト謂フヘシ  
本罪ハ被害者又ハ法律上代理人ノ告訴ヲ待テ之ヲ論スルモノトス蓋傷害ニ至  
ラサル暴行ハ其被害極メテ輕微ナルヲ以テ被害者カ處罰ヲ要求セサル場合ニ  
於テ進ンテ之ヲ論スルノ要ナシト認メタルニ因ル親告罪ノ性質、告訴ノ方式等  
ニ付テハ第三百三十五條ノ説明ヲ參照スヘシ

## 第二十八章 過失傷害ノ罪

第二百九條 過失ニ因リ人ヲ傷害シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス  
前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス（舊刑三二八、三一九）

本條ハ過失傷害罪ヲ規定シタルモノナリ過失トハ相當ノ注意ヲ加フレハ其結  
果ヲ豫見スルコト得ル爲メ其結果ノ發生スルコトヲ豫防シ得ルニ拘ハラヌ不  
注意ノ爲メ其結果ノ發生ヲ豫見セスシテ其結果ヲ發生セシメタルコトヲ謂フ  
ナリ而シテ其結果ノ豫見ヲ缺ク場合ニニアリ即チ一ハ全ク結果ノ發生ヲ豫見  
セサル場合一ハ多少結果ノ發生ヲ豫見シタルモ他ノ事情ニ因リ其結果ノ發生  
ヲ避ケ得ヘシト誤信シタル場合はナリ舊刑法ニ於テハ法文上斯ル區別ヲ認メ  
前者ヲ懈怠ト謂ヒ後者ヲ疎虞ト稱シタルモ（舊刑三二七）孰レモ結果ノ發生ヲ豫見セ  
サル點ニ於テ過失タルコト同一ナルヲ以テ本法ニ於テハ斯ル區別ヲ認メス故  
ニ例ヘハ彈丸ノ裝填シアルコトヲ知ラスシテ銃器ノ引金ヲ引キ爲メ其彈丸カ  
傍ニ在リタル人ニ當リテ負傷セシメタル如キ（懈怠）馬ニ乘リテ走ル者カ其前途  
ニ人アルコトヲ認メタルモ自己ノ乘馬ノ接近スルマテニハ其人ハ路傍ニ避ク  
ヘシト信シ從テ何等ノ危險ナカルヘシト誤信シタルヨリ毫モ注意ヲ加ヘザリ

シ處其人カ聲者ニシテ乘馬ノ接近シタルコトヲ知ラス之ヲ避ケサル爲メ遂ニ其人ニ負傷セシメタル如キ(疎虞)孰レモ過失ニ因リ人ヲ傷害シタルモノナリ右ニ述ヘタル如ク過失傷害罪ハ不注意ニ因リテ傷害ナル結果ヲ生シタル場合ニ成立シ單純ノ傷害罪ハ故意ニ他人ニ暴行ヲ加ヘタル結果人ヲ傷害スルニ因リ成立スルモノニシテ兩者ノ間ニ劃然區別ノ存スルコト明カナルヘシ尙傷害ノ意義ニ付テハ第二百四條ノ説明ヲ看ルヘシ

本條ノ罪モ亦親告罪ナリ即チ被害者又ハ法律上代理人ノ告訴アルニ非サレハ之ヲ處罰スルコト能ハサルナリ親告罪ノ性質及ヒ告訴ノ方式ニ付テハ第三百三十五條ノ説明ヲ參照スヘシ

第二百十條 過失ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス(舊刑三一七)

本條ハ過失致死罪ヲ規定シタルモノナリ過失ノ意義ハ前條ニ於テ述ヘタル如クニシテ本罪ハ相當ノ注意ヲ施セハ死ナル結果ノ發生ヲ避ケ得タルニ拘ハラズ其注意ヲ缺キタル爲メ人ヲ死ニ致シタルニ因リ成立スルモノトス例ヘハ母カ哺乳中熟睡セル爲メ乳房ニテ子ノ鼻腔ヲ壓迫シ遂ニ窒息死ニ致シタル如キ

ハ屢々實現スル過失致死ノ事例ナリ

右ニ述ヘタル如ク過失致死罪ハ犯人カ死ナル結果ノ發生ヲ豫見セル點ニ於テ普通ノ傷害致死罪ト同一ナルモ傷害致死罪ノ成立ニハ暴行ヲ加フルノ故意アルコトヲ要スルニ拘ハラズ本罪ハ此故意ヲ缺ク點ニ於テ差異アリ又本罪ハ死ナル結果ノ發生ヲ豫見セサル點ニ於テ殺人罪ト異ナルコト明白ナリ

前條ノ過失傷害罪ハ親告罪ナルモ本條ノ罪ハ其危險重大ナルヲ以テ之ヲ親告罪ト爲サズ從テ告訴ノ有無ニ拘ハラズ之ヲ處罰シ得ルモノトス

【參照判例】

- ◎ 過失ト死亡トノ間ノ因果關係ハ直接ナルコトヲ要セス (大審四三年一月十八日判決)
- ◎ 迷信ノ結果狐憑者ヲ打撃シテ死ニ致シタル所爲ハ過失殺ヲ以テ論スヘキモノトス (大審三二年判決 餘六卷二八頁)

◎ 甲者ニ狸ノ憑ルモノト妄信シ之ヲ退治スルノ意思ヲ以テ多量ノ硫黃ト線香トヲ燻シ甲者ノ顔ヲ火上ニ差付ケタル爲メ心臟麻痺ヲ起シ遂ニ死ニ致シタル所爲ハ過失致死罪ナリ (大審三二年判決 餘一―卷二二頁)

第二百一十一條 業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス(舊刑、三一七、三一九)

本條ハ業務上ノ過失死傷罪ヲ規定シタルモノナリ蓋通常ノ過失傷害及ヒ致死ニ付テハ前二條ニ於テ之ヲ規定シ其刑罰ハ罰金以下ノ刑ニ止ルモノトセルモ業務ノ性質上通常人ヨリ一層重大ナル注意ヲ爲スヘキ職責ニ在ル者カ其職責ヲ無視シテ必要ナル注意ヲ怠リ之カ爲メ死傷ニ致シタルトキハ通常人ノ過失傷害又ハ致死罪ノ刑ヲ以テ律スルコトヲ得ス之ニ一層重キ刑罰ヲ科シ以テ其業務ニ在ル者ヲシテ十分ニ注意ヲ促スノ必要アルコト明カナリ是レ特ニ本條ノ存スル所以ナリトス而シテ業務上必要ナル注意ヲ怠リトハ業務ノ性質上相當ノ注意ヲ加フヘキ職責ニ在ル者カ其注意ヲ怠リタルコトヲ味意シ如何ナル程度ノ注意ヲ必要トスルヤハ各業務ノ性質ニ從ヒ判斷スヘキ事實問題ナレトモ重ナル事例ヲ舉クレハ醫師又ハ看護婦カ患者ニ藥餌ヲ與フルニ當リ過テ毒藥ヲ服用セシメテ之ヲ死ニ致シタル如キ汽車又ハ電車ノ運轉手カ不注意ノ結果通行人ヲ死傷ニ致シタルカ如キ是ナリ但業務上必要ナル注意ヲ加フルモ尙

此結果ヲ生スヘカリシ場合ニ於テハ一ノ天災ニシテ固ヨリ過失ニ因リ生シタル結果ニ非サルヲ以テ本條ノ適用ナキコト勿論ナリ死傷ニ致シタルトハ前二條ト同シク全く認識セサル結果トシテ人ノ死亡又ハ傷害ナル事實ヲ生セシメタルコトヲ謂フ豫メ人ヲ殺シ又ハ傷タルノ故意アルトキハ過失罪ノ觀念ト相容レズ通常ノ殺人罪又ハ傷害罪ヲ構成スヘキナリ又本條ハ死傷ニ致シタル場合ニ限ルヲ以テ過失ニ因リ他人ニ暴行ヲ加ヘタルモ死傷ノ結果ヲ生セサルトキハ固ヨリ本罪トナルモノニ非ス例ヘハ電車ノ運轉手カ不注意ノ結果電車ヲ脱線セシメ單ニ乗客ヲ轉倒セシタルカ如シ

## 第二十九章 墮胎ノ罪

第二百一十二條 懷胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス(舊刑、三三〇)

本條ハ懷胎ノ婦女カ自ラ墮胎シタル場合ヲ規定シタルモノナリ抑モ墮胎トハ自然ノ分娩ヲ待タスシテ胎兒ヲ母體外ニ排出スルコトヲ謂ヒ必シモ胎内ニ於



テ生活機能ヲ失ハシメタル上排出スルコトヲ要セス苟モ自然ノ分娩期ニ先立チ人爲的ニ排出シタル以上ハ活キタル儘ニ排出シテ其後ニ至リ自然ニ死亡シタル場合ナルト又排出後引續キ生存スル場合ナルトヲ問ハス本罪ヲ構成スルモノトス但墮胎シタル胎兒カ尙生存スル場合ニ於テ更ニ之ヲ殺害シタルトキハ本罪ノ外通常ノ殺人罪カ成立スルヲ以テ併合罪トシテ處罰スヘキコト勿論ナリ

本條ハ墮胎ノ方法ヲ制限セサルヲ以テ藥物ヲ施用シタル場合ハ勿論苟モ墮胎ノ目的ヲ達シ得ヘキ手段ヲ以テ胎兒ヲ排出シタルトキハ常ニ本罪ヲ構成スルモノトス實際ニ行ハルル墮胎ノ方法トシテハ藥物ヲ施用スルコト多カルヘシト雖モ固形體ノ物ヲ以テ子宮ヲ刺撃シ以テ胎兒ヲ排出スルコトハ日常耳ニスル所ナリ

【參照判例】

◎墮胎トハ藥物其他ノ方法ヲ以テ胎内ニ在ル胎兒ヲ殺シ之ヲ胎外ニ排出セシムルノ謂ニシテ其分娩期ニ至リ居リシト否トハ之ヲ問ハサルモノトス從テ

胎兒カ産門ヨリ其顛頂部ヲ露ハシ將ニ出産セントスル際兩手ヲ産門ニ挿入シ胎兒ノ鼻口ヲ壓迫シ之レヲ死ニ致シ其頭部ヲ攫ミ出シタル所爲ハ墮胎罪ナリ(大審三六〇年判決 録一三九頁)

◎墮胎罪ハ自然ノ分娩期ニ先チ人爲ヲ以テ母體ヨリ胎兒ヲ分離セシムルニ因テ成立ス而シテ其胎兒カ死亡スルト否トハ犯罪ノ成立ニ關係ナシ(大審四二〇頁二)

第二百十三條 婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス(舊刑三三一)

本條ハ他人カ懷胎ノ婦女ヲ墮胎セシメタル場合ヲ規定シタルモノナリ即チ懷胎ノ婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタルトキハ其婦女ハ前條ニ依リ處罰スルコトヲ得ヘキモ現ニ手ヲ下シテ墮胎セシメタルモノハ一層重キ刑ヲ科スヘキモノトシテ本條ヲ設ケタルナリ囑託及ヒ承諾ノ意義ニ付テハ第二百二條ニ於テ説明シタリ又墮胎ノ意義及ヒ其方法ニ付テハ前條ト全ク同一ナリ

本條ノ後段ハ婦女ヲ墮胎セシメタル結果其婦女ヲ死傷ニ致シタルトキハ一層重キ刑ニ處スヘキコトヲ規定シタルモノナリ傷害ノ結果ニ付テハ豫メ認識アリタルト否トヲ問ハサルモ若シ其婦女ノ死亡スルコトヲ認識シタルトキハ通常ノ殺人罪ヲ構成スルニ至ルヘシ

第二百十四條 醫師、産婆、藥劑師又ハ藥種商婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス(舊刑、三三二)

本條ハ特別ノ身分ヲ有スル者カ懷胎ノ婦女ヲ墮胎セシメタル場合ヲ規定シタルモノナリ即チ醫師、産婆、藥劑師又ハ藥種商ハ墮胎セシムルニ極メテ容易ナル技能又ハ業務ニ在ルモノナルヲ以テ此等ノ身分ヲ有スル者カ婦女ノ囑託又ハ承諾ヲ得テ墮胎セシメタルトキハ通常人カ此行爲ヲ爲シタル場合ニ比シ一層重キ刑ヲ科スルノ必要アリ是前條ノ外特ニ本條ノ設ケラレタル所以ナリ而シテ本條ノ意義ハ前條ニ於テ説明シタル所ト全ク同一ナルヲ以テ再說セス只本條ノ罪ハ身分ニ因リ構成スヘキ犯罪ナルヲ以テ第六十五條ノ適用ヲ受クヘキ

コトヲ注意スヘシ

【参照判例】

◎墮胎罪ハ自然ノ分娩期ニ先チ人爲ヲ以テ母體ヨリ胎兒ヲ分離スルニ因リテ成立ス從テ胎兒カ其結果トシテ死亡スルト否トハ犯罪ノ成否ニ影響ナシ  
(大審三九年判決録八四九頁)

第二百十五條 婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス  
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス(舊刑、三三三、三三四)

本條モ亦他人カ懷胎ノ婦女ヲ墮胎セシメタル場合ヲ規定シタルモノナレトモ前二條ト異ナル所ハ婦女ノ囑託又ハ承諾ナキ點ニ在リ婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾アリタルトキハ其犯情稍輕カルヘシト雖モ婦女ノ囑託又ハ承諾ナキニ拘ハラス他人カ進ンテ其胎兒ヲ墮胎スルコトハ其犯情極メテ重シト謂ハサル可カラス之レ本條ニ於テ前數條ノ罪ニ比シ重刑ヲ規定シタル所以ナリ  
本條ハ婦女自身ノ囑託又ハ承諾ナキ場合ノ規定ナルヲ以テ其婦女ノ父母又ハ

配偶者ノ囑託又ハ承諾アルモ本條ノ適用ヲ妨ケス又婦女自身カ墮胎ヲ希望シ居リタルト否トハ之ヲ問ハサルモノトス  
本條ノ罪ハ未遂ヲモ尙之ヲ罰スルモノトス此點ニ付テハ既ニ屢々之ヲ述ヘタリ(四三)

第二百十六條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處断ス(舊刑三三五)

本條ハ前條ノ罪ヲ犯シタル結果婦女ヲ死傷ニ致シタル場合ヲ規定シタルモノニシテ第二百十三條第二百十四條後段ノ規定ト其趣旨ヲ同フス只其刑罰ニ付テハ傷害ノ罪即チ第二百四條第二百五條ノ刑ト比較シ重キ傷害ノ刑ヲ以テ處断スヘキコトヲ明ニシタルモノトス而シテ本條ハ墮胎カ未遂ナルト既遂ナルトヲ問ハス其適用アルモノトス

【參照判例】

◎因テ婦女ヲ死ニ致シトハ墮胎ノ既遂未遂ヲ問ハス墮胎ノ手段ニ著手シ爲メニ婦女ヲ死ニ致シタルモノヲ謂フ(大審三〇年判決 錄九卷九八頁)

第三十章 遺棄ノ罪

第二百十七條 老幼不具又ハ疾病ノ爲メ扶助ヲ要ス可キ者ヲ遺棄シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス(舊刑三三六三三七)

本條ハ保護ノ責任ナキ者カ扶助ヲ要ス可キ者ヲ遺棄シタル場合ヲ規定シタルモノナリ遺棄トハ自己カ被遺棄者ト隔離シテ被遺棄者ノ生命身體ニ危險ヲ生スヘキ状態ニ置クコトヲ謂フ換言スレハ現在ノ狀況ヨリ生命身體ニ危險ノ生スヘキ状態ニ變更スルノ謂ニシテ被遺棄者ヲ他ノ場所ニ移スト被遺棄者ヲ其場所ニ留メテ自ラ他ノ場所ニ逃走スルトヲ問ハス直接ニ生活上ノ危險ヲ生シ得ヘキ狀況ニ置キタルトキハ共ニ遺棄ナリ故ニ例ヘハ被遺棄者ヲ其父兄ノ居住スル場所ニ移スカ如キハ遺棄ト謂フコト能ハサルモ之ヲ衆人ノ往來スル道路ニ移スカ如キハ後ニ第三者カ之ヲ保護シタルト否トニ拘ハラズ遺棄トナルモノトス何トナレハ第三者ハ進ンテ之ヲ保護スルノ責ナキヲ以テ豫メ其保護ヲ確保スルコト能ハサレハナリ

而シテ本條ハ保護ノ責任ナキ者カ扶助ヲ要スヘキ者ヲ遺棄シタル場合ノ規定ナレトモ遺棄ハ從來ノ場所ヲ變更シテ危險ノ状態ニ置クコトヲ要スルモノナルヲ以テ例ヘハ通行人カ路傍ニ病者ノ呻吟スルヲ知リナカラ之ヲ扶助セサルカ如キ單ニ保護ヲ與ヘサルノ一事ヲ以テ直ニ本條ノ罪ヲ構成スルモノニ非ス同居又同行等被遺棄者トノ間ニ從來場所的關係ノ存シタル者カ其關係ヲ離脱シタル場合ナルコトヲ要スルモノトス例ヘハ友人ト共ニ散步中其友人カ病氣ニ罹リ扶助ヲ要スルニ拘ハラス其儘其場所ヲ立去ルカ如キ本條ノ罪ヲ構成スヘキ適例ナルヘシ

本條ハ扶助ヲ要スヘキ者ヲ老幼不具又ハ疾病者ニ限レルヲ以テ此以外ノ者ハ遺棄ノ客體トナラス例ヘハ飢餓ニ迫レル者ノ如シ然レトモ如何ナル年齢ヲ以テ老幼トシ如何ナル程度ヲ標準トシテ不具又ハ疾病者ナリト認ムヘキヤニ付テハ固ヨリ豫メ之ヲ確定スルコト能ハス扶助ヲ要スルヤ否ヤノ事實ト對照シテ各場合ニ決スヘキ事實問題ナリ

【參照判例】

◎木賃宿ノ營業ニ關シ一切ノ監督ヲ委託セラレタル者カ宿泊人ナル老病人ヲ

遺棄シタルトキハ本罪ヲ構成ス(大審三九年判 決録二八九頁)

第二百十八條 老幼者不具者又ハ病者ヲ保護ス可キ責任アル者之ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲ササルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス(舊刑三三六乃至三三八)

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス(舊刑三六三、三六四)

本條ハ保護ノ責任アル者カ扶助ヲ要スヘキ者ヲ遺棄シタル場合ヲ規定シタルモノナリ保護ノ責任アル者トハ法律ノ規定又ハ契約ニ因リ扶養ヲ爲スヘキ義務アル者ヲ謂フナリ例ヘハ直系血族兄弟姉妹夫婦間又ハ戸主ト家族トノ關係アル者(民九五四、七)其他契約上ノ養育者ノ如シ此等ノ保護責任者カ被保護者ノ生存ニ必要ナル保護ヲ爲ササルトキトハ前條ニ述ヘタル遺棄ト異リ保護者カ場所的脫離ヲ爲サスシテ被保護者ノ生活上危險ヲ及ホスヘキ状態ニ置クコトヲ謂フナリ例ヘハ必要ナル衣服又ハ食物ヲ給セサルカ如シ自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ノ意義ニ付テハ第二百條ノ說明ヲ看ルヘク又其他ノ點ニ付テハ前條

ノ説明ヲ参照スヘシ

【參照判例】

◎ 缺奉養罪(本條第二項)ハ祖父母父母ノ飢餓ニ迫リタル事實ヲ必要トセス(大審三  
年判  
決録七  
卷一頁)

第二百十九條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キ  
ニ從テ處断ス(舊刑三三九、三一九)

本條ハ前二條ノ規定スル遺棄又ハ保護ヲ缺キタル結果被遺棄者又ハ被保護者  
ヲ死傷ニ致シタル場合ヲ規定シタルモノナリ此場合ニ付テハ第二百十六條ヲ  
看ルヘシ

第三十一章 逮捕及ヒ監禁ノ罪

第二百二十條 不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス(舊  
刑三二二、三二三)

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス  
(舊刑三六三)

本條ハ逮捕及ヒ監禁罪ヲ規定シタルモノナリ逮捕及ヒ監禁ハ人ノ自由行動ヲ  
妨クル行爲ヲ總稱スルモノニシテ兩者ノ區別ハ其方法ノ如何ニ在リテ存ス即  
チ逮捕トハ人ノ身體ニ對シ直接ナル暴力ヲ加ヘテ其自由ヲ失ハシムルヲ謂ヒ  
監禁トハ閉鎖セラレタル一定ノ場所ヨリ外部ニ出ツルコトヲ能ハサラシメ以  
テ其自由ヲ剝奪スルコトヲ謂フナリ換言スレハ逮捕ハ身體ニ對スル直接ノ暴  
力ヲ以テ其手段ト爲スコトヲ要スルヲ以テ詐欺又ハ脅迫ニヨリ其自由行動ヲ  
妨止スルモ逮捕ニ非ス例ヘハ歩行スレハ殺害スヘシト脅迫シテ佇立セシムル  
カ如シ然レトモ苟モ其手段カ身體ニ對スル暴力ナル以上ハ繩其他ノ物ヲ以テ  
人ヲ制縛シタル場合ハ勿論手ヲ以テ他人ノ身體ヲ抑壓スルカ如キ之カ爲メ自  
由ヲ妨クルニ至リタルトキハ逮捕ナリ又監禁ハ一定ノ場所ヨリ他ノ場所ニ移  
ルコトヲ不能ナラシムル行爲ヲ謂ヒ其手段ニ制限ナキヲ以テ例ヘハ窓ヲ閉鎖  
シ鐵柵ヲ設ケテ人ヲ一室ニ幽屏スルカ如キハ勿論人ヲ或室ニ入レ其入口ヲ閉  
鎖セサルモ若シ其室ヨリ出ツルトキハ殺害スヘシト脅迫スルカ如キ或ハ入浴  
中ナル婦女ノ着衣ヲ奪ヒテ其浴室ヨリ出ツルコト能ハサラシムル等孰レモ監

禁タルモノニシテ其手段ハ有形ノ行爲ナルト無形ノ行爲ナルトヲ問ハサルナ  
 リ  
 以上述ヘタル如ク逮捕及ヒ監禁ハ共ニ人ノ自由ヲ妨害スルモノナレトモ其自  
 由妨害ハ一定ノ時期繼續的ノ性質ヲ具有スルコトヲ必要トス換言スレハ人ノ  
 自由ヲ妨クルモ其妨害カ一時的ニシテ毫モ繼續的ノ性質ヲ有セサルトキハ單  
 純ナル暴行罪タルコトアルヘキモ固ヨリ本罪トナラス例ヘハ突然人ノ手ヲ扼  
 シタルモ直ニ之ヲ放シ又ハ人ヲ一室ニ押入レタルモ直ニ之レヲ釋放シタルカ  
 如キ是ナリ又本條ノ罪ハ逮捕監禁カ不法ナルコトヲ必要トス適法ナル行動ト  
 シテ人ヲ逮捕又ハ監禁スルモ本罪ヲ構成セサルナリ例ヘハ巡查憲兵カ令狀ノ  
 執行ニ因リ人ヲ逮捕シ又ハ監獄官カ之ヲ監倉内ニ抑留スルカ如シ其他一私人  
 ト雖モ現行犯事件ノ犯人ヲ逮捕スルカ如キ(刑訴六〇)ハ孰レモ不法ニ非サルナリ  
 本罪ノ刑罰ハ自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルト否トニヨリ同シ  
 カラス此等ノ直系尊屬ヲ逮捕又ハ監禁シタルトキハ其他ノ者ニ對シテ犯シタ  
 ル場合ニ比シ重刑ヲ科スルノ必要アルヲ以テナリ自己又ハ配偶者ノ直系尊屬

ノ意義ニ付テハ第二百條ニ於テ説明シタルカ如シ

【參照判例】

◎親權者カ其子ヲ懲戒スル爲メ制縛監禁シハ毆打シタル場合ニ其行爲ニシ  
 テ苟モ法律ニ定ムル必要ノ範圍外ニ逸出スルトキハ本罪ヲ構成ス(大審三  
 七一  
 二頁)

第二百二十一條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キ  
 ニ從テ處断ス(舊刑三二四)

本條ハ逮捕又ハ監禁ノ結果人ヲ死傷ニ致シタル場合ヲ規定シタルモノニシテ  
 此場合ニ於テハ重キ傷害罪(二〇五)ノ刑ニ依リ處断スルモノトス尙此規定ノ意  
 義ニ付テハ屢々類似ノ規定ニ付キ説明シタルヲ以テ參照スヘシ

【參照判例】

◎傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處断ストハ傷害ノ刑トヲ比較シ重キ刑ヲ定メ  
 タル罰條ヲ適用處断スヘシトノ謂ヒニシテ必シモ重キ刑ヲ科スヘシトノ旨  
 趣ニ非ス(大審四二二頁  
 録一七二二頁)



掲クル如ク他人ニ脅迫ヲ加ヘ又ハ不正ノ暴力ヲ加ヘテ義務ナキコトヲ行ハシメ又ハ正當ニ行フヘキ權利ヲ妨害シタル場合ナリ本罪ノ成立條件トシテハ義務ナキコトヲ行ハシムルコトヲ要スルヲ以テ相手方カ其義務行爲ヲ爲ササル爲メ之ニ脅迫又ハ暴行ヲ加フル如キハ前條又ハ暴行罪ヲ成立スルモ本罪トナラス(八三〇)例ヘハ奴婢カ主人ノ命スル勞務ニ服セサル爲メ脅迫又ハ暴行ヲ加フルカ如シ次ニ正當ニ行フヘキ權利ヲ妨害シタル場合ニモ亦本條ノ罪トナル例ヘハ建築又ハ耕作ヲ妨害スルカ如シ

脅迫又ハ暴行ヲ加ヘテ財物ヲ提供セシメ又ハ財産上ノ權利行使ヲ妨ケ不法ノ利益ヲ得タルトキハ恐喝又ハ強盜罪トナルヲ以テ斯ル場合ニハ本條ノ適用ナキコト明カナリ

右ニ述ヘタル本條ノ罪ハ未遂ノ場合ニ於テモ處罰ス未遂罪ニ付テハ屢々説明シタル所ナレハ再說セス(四三)

### 第三十三章 略取及ヒ誘拐ノ罪

第二百二十四條 未成年者ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス(舊刑三四一三四二)

本條ハ一般ノ略取誘拐罪ヲ規定シタルモノナリ略取トハ他人ノ意思ニ反シテ之ヲ自己ノ監督内ニ移ス行爲ヲ謂フ即チ從來獨立生活ヲ爲ス者又ハ他人ノ監督ノ下ニ生活シ居ル者ヲ其者又ハ監督者ノ承諾ヲ得スシテ擅ニ自己ノ監督支配ノ下ニ之ヲ移スコトヲ謂フナリ誘拐トハ他人ヲ欺キテ之ヲ自己ノ監督内ニ移スコトヲ謂フ換言スレハ他人ヲ欺キ自己ノ監督内ニ入ルコトヲ承諾セシメタル場合ヲ謂フナリ例ヘハ良キ奉公口アリト詐リテ他人ヲ自己ノ家ニ連れ來ルカ如シ或學者ハ兩者ノ區別ヲ強盜罪ト詐欺恐喝罪トニ比喩シ略取ハ強盜盜罪ノ如ク誘拐ハ詐欺恐喝罪ノ如シト云ヘリ(大審四三三九頁)

本條ノ罪ハ未成年者ヲ略取誘拐シタル場合ニ限り成年者ニ對スル場合ハ次條以下ニ於テ之ヲ規定セリ

第二百二十五條 營利猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第二編 第三十三章 略取及ヒ誘拐ノ罪



本條ハ特別ナル略取又ハ誘拐罪ヲ規定セリ即チ略取又ハ誘拐カ營利猥褻又ハ結婚ノ目的ニ出テタル場合ニ關スルモノトス營利トハ之ニ因リテ財産上ノ利益ヲ營ムコトヲ謂フ例ヘハ他人ニ雇入レシメテ手数料ヲ徴スルカ如シ猥褻トハ賣淫ヲ爲サシムルカ如シ結婚トハ自己又ハ他人ト婚姻セシムルコトヲ謂フナリ此等ノ目的ヲ有スル場合ニ於テ其被害者カ未成年者ナルト否ト又男子ナルト女子ナルトニ拘ハラズ本罪ヲ構成スルモノトス

略取又ハ誘拐ノ意義ニ付テハ前條ノ説明ヲ參照スヘシ

第二百二十六條 帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シ及ハ被拐取者若クハ被賣者ヲ帝國外ニ移送シタル者亦同シ(舊刑三四五)

本條モ亦特別ノ略取又ハ誘拐罪ヲ規定シタルモノナリ即チ被拐取者ヲ帝國外ニ移送スル目的アル場合ニ關スルモノトス此目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタルトキハ醜業ニ從事セシムル爲メナルト其他ノ勞務ニ服セシムル爲メナルトヲ問ハス第一項ノ罪ヲ構成スルモノトス第二項ニ所謂帝國外ニ移送スル目

的ヲ以テ人ヲ賣買シトハ單ニ金錢ノ代價ヲ受理スル場合ノミナラス其他一切ノ有償行爲ヲ以テ人ヲ他人ニ引渡ス場合ヲ總稱スルナリ

本罪モ亦被害者カ未成年者ナルト否ト男子ナルト女子ナルトヲ問ハス成立スルモノトス詳細ハ前二條ノ規定ニ對照シテ研究スヘキナリ

第二百二十七條 前三條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幫助スル目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受若クハ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス  
營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス(舊刑三四三)

本條ハ略取又ハ誘拐ノ幫助罪ヲ規定シタルモノナリ即チ收受藏匿又ハ隱避ナル行爲ニ因リ拐取罪ノ成立ヲ容易ナラシメタル場合ニ成立スルモノニシテ其性質ハ一ノ從犯ニ外ナラサルモ其制裁ヲ異ニスルノ必要アリト認メ本條ヲ設ケタルナリ收受トハ被拐取者又ハ被賣者ヲ預ルコトヲ謂ヒ其ノ如何ナル名義ヲ以テスルト利益ノ有無ハ之ヲ問ハサルモ只營利又ハ猥褻ノ目的ニ出テタルトキハ重キ刑ヲ科スヘキモノトス藏匿又ハ隱避ノ意義ニ付テハ第三百三條ノ説明ヲ參照スヘシ

第二百二十八條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ未遂罪ニ關スル規定ナリ即チ前四條ノ罪ノ實行ニ著手シタル以上ハ其目的ヲ遂ケタル場合ニ於テモ之ヲ罰スルモノトセリ未遂罪ノ意義及ヒ刑罰ニ付テハ第四十三條及ヒ類似ノ各規定ヲ參照スヘシ

第二百二十九條 第二百二十六條ノ罪同條ノ罪ヲ幫助スル目的ヲ以テ犯シタル第二百二十七條第一項ノ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪ヲ除ク外本章ノ罪ハ營利ノ目的ニ出テサル場合ニ限り告訴ヲ待テ之ヲ論ス但被拐取者又ハ被賣者ト婚姻ヲ爲シタルトキハ婚姻ノ無效又ハ取消ノ裁判確定後ニ非サレハ告訴ノ效ナシ(舊刑三四四)

本條ハ前五條ノ罪ノ特別訴追條件ヲ規定シタルモノナリ即チ前五條ノ犯罪中或場合ヲ除ク外被害者又ハ其法律上代理人ノ告訴アルニ非サレハ之ヲ起訴シ且處罰スルコト能ハサルモノトス只帝國外ニ移送スル目的ニ出テタル場合ト營利ノ目的ニ出テタル場合ニ於テハ告訴ナキモ之ヲ處罰シ得ルモノトセリ又此以外ノ場合ニ於テモ被拐取者被賣者ト犯人トカ婚姻ヲ爲シ其婚姻カ無效又ハ取消ノ裁判ニ因リ消滅セサル間ハ告訴ヲ爲スコト能ハサルモノトス親告罪ノ意義ニ付テハ第三百三十五條ヲ看ルヘシ

### 第三十四章 名譽ニ對スル罪

第二百三十條 公然事實ヲ揭示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ其事實ノ有無ヲ問ハス一

年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

死者ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ誣罔ニ出ツルニ非サレハ之ヲ罰セス(舊刑三五八三五九)

本條ハ名譽毀損罪ヲ規定シタルモノナリ名譽トハ人ノ社會上ニ於ケル一ノ榮譽ニシテ如何ナル地位如何ナル階級ニ在ル者ト雖モ社會ヨリ擯斥セラレヘキ行為ヲ受クルコトナク完全ニ其名譽ヲ維持スルノ權利ヲ有スルモノトス本條ノ罪ハ其名譽權ヲ侵害スルニ因リテ成立スルモノニシテ其構成條件ハ公然事實ヲ揭示スルコトヲ要ス公然トハ不特定ナル多數人ニ認知セラレヘキ状態ヲ謂ヒ事實ノ揭示トハ過去ニ於ケル具體的ノ事柄ヲ舉示スルコトヲ謂フナリ故ニ自己ノ家族ニ對シ宅内ニ於テ他人ノ惡事醜行ヲ揭示スルカ如キ又公衆ニ對シ何某ハ惡黨ナリト演說スルカ如キハ孰レモ本罪トナラス然レトモ公然或事實ヲ揭示シタル以上ハ其事實ノ有無ニ拘ハラヌ又揭示ノ方法カ演說ニ依リタルト刊行物ニ依リタルト其他如何ナル方法ニ依リタルトヲ問ハサルモノトス

又如何ナル事實ヲ摘示スレハ名譽ノ毀損トナルヤ否ヤハ個々場合ニ於テ研究スヘキコトニ屬シ之ヲ概説スルコト能ハス苟モ人ノ名譽ヲ毀損スヘキ事實ヲ公然摘示シタルトキハ本罪ヲ構成シ之ニ因リテ被害者カ社會上ニ於テ不利益ヲ受ケタルト否トハ固ヨリ之ヲ問ハサルナリ

第二項ハ死者ノ名譽毀損罪ヲ規定シタルモノナリ此犯罪モ亦公然事實ヲ摘示スルニヨリテ成立スルコト前項ノ場合ト同一ナレトモ其事實ハ誣罔ニ出テタルコトヲ必要トス誣罔トハ虛構ノ事實ヲ摘示シテ名譽ヲ毀損スルコトヲ謂フナリ

【參照判例】

◎ 誹毀ノ目的タル人トハ唯有形ノ人ノミナラス無形人ヲモ包含ス故ニ各人ノ集合ヨリ成ルニ會社等ヲ誹毀スルニ於テハ本罪ヲ構成ス(大審二五年一卷九九頁)

◎ 新聞紙上ニ掲載セシ記事カ常人トシテハ醜行トナラサルモ被害者ニ特殊ノ身分アル爲メ其名譽ヲ毀損スヘキトキハ其記事ハ其人ノ醜行トナルヲ以テ誹毀罪ヲ構成ス(大審三四年判決録一一卷一〇五頁)

◎ 惡事醜行ノ摘發トハ惡事醜行ヲ指摘シテ之ヲ公布スルノ意ニシテ公衆ノ認知セサル人ノ惡事醜行ヲ暴露シ公衆ヲシテ之ヲ知ラシムルコトヲ謂フ(大審三〇〇〇頁)

第二百三十一條 事實ヲ摘示セスト雖モ公然人ヲ侮辱シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス(懲刑、二四一、四二六ノ一二)

本條ハ侮辱罪ヲ規定シタルモノナリ侮辱モ亦一ノ名譽毀損ニシテ人ヲ輕蔑スルコトヲ總稱ス例ヘハ罵詈譏嘲弄等通常侮辱タルコト明カナリ公然ノ意義ハ前條ニ於テ之ヲ述ヘタルカ如シ侮辱ノ方法ハ舉動又ハ形容ヲ以テ之ヲ爲スト言語文章ヲ以テ之ヲ爲ストヲ問ハサルモノトス本法ニ於テハ官吏ニ對スル特別ノ侮辱罪ヲ規定セサルヲ以テ官吏ニ對スル侮辱ニ付テモ本條ノ適用アルコト勿論ナリ

【參照判例】

◎ 侮辱トハ誹毀ト罵詈トヲ意味スル法語ナリ(大審三五年判決録四卷八七頁)

第二百三十二條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス(懲刑、三六一、四二六ノ一二)

本條ハ前二條ニ揭ケタル名譽毀損及ヒ侮辱罪ハ親告罪ニシテ被害者又ハ法律上代理人ノ告訴アルニ非サレハ之ヲ訴追スルコト能ハサルモノトセリ親告罪ノ意義及ヒ告訴ノ方式等ニ付テハ第三百三十五條ノ説明ヲ看ヘルシ

### 第三十五章 信用及ヒ業務ニ關スル罪

第二百三十三條 虚偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒ人ノ信用ヲ毀損シ若クハ其業務ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス(舊刑二六七乃至二七二、四二七ノ一)

本條ハ信用毀損罪及ヒ業務妨害罪ヲ規定シタルモノナリ虚偽ノ風説ヲ流布シトハ虚構ノ事實ヲ捏造シテ世人ニ傳播セシムルコトヲ謂ヒ刊行物ニ掲載シ又ハ引札ヲ配布スルカ如キハ勿論自ラ世人ニ告知スルカ如キ孰レモ流布ナリ偽計ヲ用ヒトハ詐術ヲ用フルノ謂ヒナリ單ニ詐言スルハ虚偽ノ風説流布タルコトアルヘキモ偽計トナラス人ノ信用ヲ毀損シトハ他人ノ財産上ニ於ケル確實ノ保證ヲ侵害スルコトヲ謂ヒ業務ヲ妨害シトハ業務ノ執行又ハ發達ヲ妨害スルコトヲ謂フナリ然レトモ現實ニ財産上ノ信用ヲ失墜シタルコト及ヒ業務上

損失ヲ醸シタルコトノ有無ハ本罪ノ成立ニ關係ナキナリ

#### 【參照判例】

- ◎ 偽計ヲ用ヒテ執行裁判所ニ於ケル競賣ヲ妨害シタル所爲ハ警察犯處罪令第二條第四號ノ入札妨害ニ非スシテ本條ノ罪ヲ構成ス(大審四二年判決一頁)
- ◎ 虚偽ノ風説ヲ流布シトハ虚偽ノ風説ヲ公衆ニ傳播スルノ謂ナリ從テ世人ヲシテ虚偽ノ風説ヲ傳唱セシムルコトヲ要セス(大審四二年判決一頁)

第二百三十四條 威力ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタル者亦前條ノ例ニ同シ(舊刑二六七乃至二七二)

本條モ亦業務妨害罪ヲ規定シタルモノナリ威力トハ尙勢力ト言フカ如ク他人ノ意思ヲ抑制スル一ノ力ニシテ之ニ因リ被害者カ其業務ノ執行又ハ發達ヲ妨ケラルヘキ状態ニ達シタルトキハ本罪カ成立スルモノトス例ヘハ暴行脅迫ヲ加ヘ又ハ職權ヲ利用スルカ如キ威力ヲ用ヒテ他人ノ業務ノ妨害トナルヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ現實ニ損害ヲ生シタルト否トニ拘ハラヌ本罪ヲ構成スルナリ(大審四三年二月三日判決)

### 第三十六章 竊盜及ヒ強盜ノ罪

第二百三十五條 他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス  
(舊刑三六六乃至三七〇、三七二乃至三七四)

本條ハ竊盜罪ヲ規定シタルモノナリ即チ本罪ノ目的物ハ他人ノ財物ナルコトヲ要ス財物トハ所有權ノ目的タル有形物一切ヲ包含スレトモ不動産ハ本罪ノ目的物タラサルコト明カナリ苟モ動カシ得ヘキ物ナル以上ハ經濟上全ク價値ナキ物ト雖モ本罪ノ目的物タルヘシ竊取トハ他人ノ所持内ニ在ル物ヲ自己ノ所持内ニ移轉スルコトヲ謂フナリ故ニ他人ノ所有物ト雖モ自己ノ所持スル物及ヒ何人モ所持セサル物ハ之ヲ不正ニ領得スルモ國ヨリ竊盜ニ非ス此等ノ場合ニ於テハ横領罪ヲ構成スルニ過キス(二五二)又竊取ハ所持者ノ意ニ反シテ自己ノ所持ニ移スコトヲ必要トシ所持者ニ對シ何等ノ手段ヲ加ヘサル以上ハ假リニ所持者カ盜取セラルルコトヲ知り居ルトキト雖モ尙竊取ナリ之ニ反シテ所持者ヲ詐欺又ハ恐喝シテ承諾上其所持物ヲ交付セシメタルトキハ詐欺又

ハ恐喝罪トナリ所持者ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘテ所持物ヲ奪取シタルトキハ強盜罪トナリ固ヨリ竊取ニ非ス  
自己ノ所有物ト雖モ竊取ノ目的物タル場合アリ後ニ述フヘシ(二四)

#### 【參照判例】

- ⑤ 郵便局ニ差出スコトヲ委托セラレタル書狀ヲ開披シ其封入ニ係ル送金手形ヲ竊取シタル行爲ハ竊盜罪ナリ(大審二八年判決(錄四卷一〇四頁))
- ⑥ 容器ニ鎖鑰又ハ封印ヲ施シタル物件ヲ寄託セラレ之ヲ破棄シテ物件ヲ取出シタル行爲ハ竊盜罪ヲ構成ス(大審三一年判決(錄一卷四頁、四一頁、四二頁、四三頁、四四頁、四五頁、四六頁、四七頁、四八頁、四九頁))
- ⑦ 權利關係ヲ證明スル約定書ハ竊盜罪ノ目的タルコトヲ得(大審三一年判決(錄八卷一五頁))
- ⑧ 債務ヲ辨濟スルト詐稱シ債權者ヲシテ債權證書ヲ出サシメタル上直ニ之ヲ自己ノ口中ニ差入レ遂ニ其形跡ヲ留メサルニ至ラシメタル所爲ハ竊盜罪ヲ構成ス(大審三二年判決(錄一卷八三頁))
- ⑨ 立木ヲ盜伐セント企テ之ヲ切り倒シタルトキハ事實上其立木ヲ占領シ任意ニ處分シ得ヘキ實力ヲ取得シタルモノトス從テ此瞬間ニ於テ竊盜ノ既遂罪

ヲ構成ス(大審三五年判決録 一一卷一四頁)

⑤ 瓦斯ハ一種ノ物體ナルヲ以テ他人ノ製造ニ係ルトキハ他人ノ所有物ニ該當シ之ヲ竊取シタルトキハ竊盜罪ヲ構成ス(大審三七年判決録九一〇頁)

⑥ 竊盜ノ目的物ハ他人ノ所持ニ係ルモノナルコトヲ要ス而シテ所持ノ有無ハ物ニ對シ事實上ノ支配力ヲ及ホスコトヲ得ルヤ否ヤニ依リ之ヲ決スルモノトス(大審三七年判決録一四一八頁)

⑦ 人ノ所有物トハ一般ニ金錢的價值ヲ有スルト否トヲ問ハス苟モ所有權ノ目的タルコトヲ得ヘキモノハ總テ之ヲ包含ス(大審三七年判決録二四一五頁反)

第二百三十六條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ他人ノ財物ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ五  
年以上ノ有期懲役ニ處ス(舊刑三七八、三七九)  
前項ノ方法ニ依リ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

本條ハ強盜罪ヲ規定シタルモノナリ暴行又ハ脅迫トハ屢々述ヘタル如ク被害者ノ自由意思ヲ抑制スル方法ニシテ前者ハ被害者ノ身體ニ對スル有形ノ暴力ニシテ後者ハ其精神ニ對スル無形ノ迫害ナリ此等有形無形ノ勢力ニ因リ被害

者ノ自由意思ヲ抑制シ其反抗力ヲ剝奪シテ財物ヲ所持ヲ得又ハ不法利得ヲ爲シタルトキハ強盜罪ヲ構成スルモノトス

右ノ手段ニ因リ財物ノ所持ヲ自己ニ移シタルトキハ第一項ノ罪トナリ之ニ因リ財産上不法ノ利得ヲ爲シ又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタルトキハ第二項ノ罪ヲ構成スルモノトス財産上不法ノ利益ヲ得トハ財物ヲ強取シタル利益ヲ除ク外一切ノ利益ヲ總稱ス例ヘハ債務ノ免除ヲ爲サシムル如キ車夫ヲシテ一定ノ場所マテ自己ヲ無賃ニテ乗車セシムルカ如キ無料ニテ或家屋ヲ占據居住セシムルカ如キ其重ナルモノナリ犯人自ラ此等ノ利得ヲ爲ササルモ他人ヲシテ斯ル利得ヲ爲サシメタルトキニ於テモ同様ナリ

【參照判例】

⑧ 暴行脅迫ヲ用ヒテ他人ノ占有スル財物ヲ奪取シタル者カ強盜罪ノ責任ヲ免ルルニハ財物其モノノ交付ヲ要求スル正當ノ權利ヲ有シ其權利ノ實行トシテ財物ヲ交付セシメタル事實アルヲ要ス從テ財物ノ奪取カ正當ナル權利ノ實行ニ非サル以上ハ其事由ノ如何ニ拘ハラス常ニ強盜罪ヲ構成ス(大審三五年判決録)

一一一(卷)

◎強盜罪ニ於テハ犯人ノ用ヒタル手段カ其性質上被害者ノ自由ヲ全然剝奪スル如キ極メテ重大ノモノナルコトヲ要スルモ恐喝罪ニ在リテハ其手段ハ性質上人ヲ畏怖セシムヘキモノタルコトヲ要スルト同時ニ被害者ニ尙意思ノ自由ヲ存シ全然之ヲ剝奪スルニ至ラサルコトヲ必要トス(大審三七年判決 錄一八六五頁)

◎所謂財物ニハ民法上ノ權利義務ヲ證明ヘキ證書ハ勿論其證明ニ何等關係ナキモノト雖モ苟モ人ノ所有ニ屬スル以上ハ總テ之ヲ包含スルモノトス(大審四〇〇年判決 錄六八九頁)

第二百三十七條 強盜ノ目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ強盜豫備罪ヲ規定シタルモノナリ凡ソ豫備トハ犯罪ノ實行ニ著手セサル以前ニ於ケル準備行為ニシテ一般ノ原則トシテハ之ヲ處罰セサルコトハ既ニ屢々述ヘタル所ナリ(四三七八八、八一三三三)而シテ本條ハ其特例トシテ之ヲ處罰スルノ必要アリトシ特別ノ罪トシテ之ヲ規定セリ即チ強盜ノ目的ヲ以テ其準備ヲ爲シタル場合ニシテ例ヘハ兇器ヲ買入ルルカ如キ之ヲ研磨スルカ如キ強盜ヲ爲ス

ニ適當ナル場所ヲ搜索スルカ如キハ孰レモ本罪ヲ構成スルモノトス  
尙右ニ掲ケタル前ノ説明ヲ參照スヘシ

第二百三十八條 竊盜財物ヲ得テ其取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ強盜ヲ以テ論ス(懲刑三八二)

本條ハ準強盜ヲ規定シタルモノナリ即チ竊盜ノ目的ヲ以テ財物ヲ竊取シタル後ニ於テ被害者ヨリノ取還ヲ拒キ逮捕ヲ免レントシ又ハ其罪跡ヲ湮滅センカ爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ強盜ニ準シテ處罰ストノ意ナリ竊盜未タ財物ヲ得サル前ニ於テ被害者ヨリ逮捕セラレントシタル爲メ之ヲ拒キ又ハ罪跡ヲ湮滅センカ爲メニ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルトキハ本條ノ罪ノ未遂罪ヲ構成スルモノトス(三三四)又竊盜ノ目的ニテ竊取ニ著手シタル後被害者ニ發覺セラレタル爲メ俄ニ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル上財物ヲ奪取シタルトキハ第二百三十六條ノ強盜罪ヲ構成スルコト勿論ナリ  
強盜ヲ以テ論ストハ強盜ニ準シ強盜ノ刑(六二三)ヲ科ストノ意ナリ

【參照判例】

●竊盜犯人カ財物ノ取還ヲ拒キ若クハ逮捕ヲ免ルル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ強盜トシテ處分スルモ犯人カ財ヲ得タルト否トニ拘ハラス常ニ強盜既遂ノ刑ヲ科スルモノニ非ス(大審四二年判決録一三三八) (刑四三年一六卷一六頁)

第二百三十九條 人ヲ昏醉セシメ其財物ヲ盜取シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス(舊刑三八三) 本條モ亦準強盜罪ヲ規定シタルモノナリ人ヲ昏醉セシメトハ藥物其他催眠術等ノ方法ニ依リ人ノ意識ヲ失ハシムルコトヲ謂フ斯ル方法ヲ財物盜取ノ手段ト爲シタル場合ニ於テ本罪カ成立スルモノトス故ニ人カ偶々昏醉セルニ乘シ其物ノ所有物ヲ盜取スルハ單純ナル竊盜ニシテ固ヨリ本條ノ適用ナキナリ本條ノ刑罰ニ付テハ前條ノ場合ト同一ナリ

第二百四十條 強盜人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス(舊刑三八〇)

本條ハ強盜殺人及ヒ強盜傷人罪ヲ規定シタルモノナリ即チ強盜ニ著手シタル者カ其目的ヲ達スル爲メ人ヲ殺傷シタル場合ニ於テハ本條ノ特別罪ヲ構成シ重キ刑罰ヲ科スヘキモノトス故ニ茲ニ強盜トハ財物奪取ノ目的ヲ達シタルト

否トヲ問ハス換言スレハ強盜犯人ト云ヘル義ニシテ一旦強盜ノ實行ニ著手シタル後ニ於テ財物奪取ノ目的ヲ遂行スル爲メ人ヲ殺傷シタルトキハ偶々財物ヲ奪取スルニ至ラサル場合ニ於テモ本條ノ適用ヲ受ケ又財物ヲ奪取シタル後ニ於テモ其取還ヲ拒キ逃走ヲ免レ又ハ證據ヲ湮滅スル爲メ人ヲ殺傷シタル場合モ亦本條ノ罪ヲ構成スルコト勿論ナリ尙前二條ノ準強盜モ亦本條ノ強盜中ニ包含スルヲ以テ若シ人ヲ殺傷シタルトキハ本罪ヲ構成スルモノトス人ヲ殺傷スルトハ故意ノアリタル場合ハ勿論過失ニ出テタル場合ヲモ包含ス故ニ強盜カ故意ニ人ヲ殺害シタルトキハ即チ一個ノ行爲ニシテ一面ハ殺人罪ヲ構成シ一面ハ強盜殺人罪ヲ構成スルノ結果ヲ生スヘシ從テ第五十四條ニ依リ之ヲ處分セサル可カラス又強盜カ同時ニ二人以上ノ者ヲ殺傷シタルトキハ被害者ノ數ニ應シテ數個ノ罪ヲ構成スルコト既ニ述ヘタル如シ(四五)

【參照判例】

◎強盜ノ目的ヲ以テ他人ノ家ニ侵入シ暴行ヲ加ヘタル以上ハ財物奪取ノ事實アルト否トニ拘ハラス強盜ナリ故ニ此場合ニ於ケル負傷ノ所爲ハ當然強盜



傷人罪ヲ成立ス(大審二九年判決三卷八九頁)

⑤ 強盜人ヲ傷ケタルトキハ其毆傷ハ強奪ヲ遂クル爲メナルト逮捕ヲ免ルル爲メナルトヲ問ハス強盜傷人罪ヲ構成ス(大審三〇年判決六卷二四頁)

⑥ 人ノ所有物ヲ竊取スルニ當リ其取還ヲ拒ク爲メ臨時暴行ヲ爲シタルモノハ強盜ヲ以テ論スルモノトス(本法二三八條ニ當ル)從テ其暴行ノ結果人ヲ傷シタルトキハ強盜傷人罪ヲ構成ス(大審三四年判決五卷三四頁四三年四月十五日判決)

⑦ 強盜死傷罪ハ強盜カ他人ノ生命身體上ニ生セシメタル創傷致死ノ結果ニ因リ成立スルモノトス從テ致死ノ結果ヲ生セシメタルトキハ其殺害ノ意思ニ出テタルト歐打ノ結果ニ生テタルトヲ分タス強盜殺人トシテ論スヘク創傷ノ結果ヲ生セシメタルトキハ毆打ノ意思ニ出テタルト殺害ノ意思ニ出テタルトヲ問ハス又強盜傷人トシテ論スヘキモノトス(大審三七年判決三卷三四頁)

第二百四十一條 強盜婦女ヲ強姦シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス(舊刑三八一)

本條ハ強盜強姦ヲ規定シタルモノナリ即チ強盜ニ著手シタル者カ其現場ニ於

テ婦女ヲ強姦シタル場合ニ於テハ本條ノ特別罪ヲ構成シ強盜ト強姦ト二罪トナルニ非ス尙普通ノ強姦ニ付テハ第七十七條ヲ看ルヘシ

又強盜カ強姦ヲ爲シタル結果其婦女ヲ死ニ致シタルトキハ更ニ後段ノ重キ罪ヲ構成スルモノニシテ若シ婦女ヲ殺害スル目的ヲ以テ強姦ヲ爲シタルトキハ本罪ト通常ノ殺人罪トニ該當スルヲ以テ第五十四條ニ依リ處斷スヘク強盜カ強姦ヲ爲シタル後婦女ヲ殺害シタルトキハ本條前段ノ強姦罪ト通常ノ殺人罪(一九)又ハ強盜殺人罪(二四)トノ併合罪トナルモノトス(四五)

【參照判例】

⑧ 強盜強姦罪ハ親告罪ニ非ス(大審三四年判決一〇九四頁)

第二百四十二條 自己ノ財物ト雖モ他人ノ占有ニ屬シ又ハ公務所ノ命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ本章ノ罪ニ付テハ他人ノ財物ト看做ス(舊刑三七二)

本條ハ自己ノ所有物ニ對スル竊盜及ヒ強盜罪ヲ規定シタルモノナリ既ニ述ヘタル如ク竊盜及ヒ強盜罪ハ他人ノ所持内ニ在ル他人ノ所有物ヲ自己ノ所持内ニ移轉スルニ因リテ成立スルモノトス然レトモ自己ノ所有物ト雖モ他人ノ占

有ニ在ルトキハ之ヲ盜罪ノ目的物ト爲シ擅ニ之ヲ自己ノ占有ニ移シタルトキハ竊盜又ハ強盜罪トシテ處罰スルノ要アリトシ本條ノ規定ヲ設ケタルモノトス

自己ノ財物ト雖モトハ自己カ所有權ヲ有スル財物ト云フノ義ニシテ他人ノ占有ニ屬シトハ現ニ他人ノ所持内ニ在ルト云フノ義ナリ他人ノ占有カ如何ナル權限ニ基クヤハ之ヲ問ハサルヲ以テ所有者カ他人ニ質入シ賃貸シタル場合ハ勿論所有者ノ代理人トシテ占有スル場合其他不法行爲ニ因リ占有スル場合ヲ包含ス公務所ノ命ニ因リ他人ノ看守シタルモノトハ公務所ニ於テ所有者ノ所持ヲ奪ヒテ之ヲ他人ノ保管ニ移シタル一切ノ場合ヲ總稱ス例ヘハ差押物又ハ犯罪ノ證據物件ノ如シ公務所ノ意義ニ付テハ第七條ヲ看ルヘシ

以上ニ掲ケタル財物ハ縱令自己ノ所有物ト雖モ之ヲ竊取シタルトキハ竊盜罪トナリ強取シタルトキハ強盜罪トナルモノトス

第二百四十三條 第三百二十五條 第二百三十六條 第二百三十八條 乃至 第二百四十一條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス(舊刑三三五)

本條ハ前數條ニ掲ケタル罪ノ未遂罪ニ關スル規定ナリ各舉示ノ法條及ヒ未遂罪ニ關スル前ノ說明ヲ參照スレハ本條ノ意義ハ自ラ明瞭ナルヘシ

第二百四十四條 直系血族、配偶者及ヒ同居ノ親族又ハ家族ノ間ニ於テハ第二百三十五條ノ罪及ヒ其未遂罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除シ其他ノ親族又ハ家族ニ係ルトキハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス(舊刑三三七)

本條ハ近親間ノ竊盜罪ニ付キ特例ヲ定メタルモノナリ即チ直系血族、配偶者及ヒ同居ノ親族又ハ家族相互間ニ於ケル竊盜罪ニ付テハ其刑ヲ免除シ其他ノ親族又ハ家族ニ係ルトキハ之ヲ親告罪ト爲シタリ

直系血族トハ傍系血族ニ對スル語ニシテ祖先ヨリ直下スル血統者ヲ謂フナリ例ヘハ父母、祖父母、曾父母ノ如シ之ニ反シテ兄弟、姉妹、伯叔父母、甥姪、從兄弟、姉妹ノ如キハ血統ノ分岐スルモノニシテ直系血族ニ非ス配偶者トハ夫婦ノ一方ヨリ他方ヲ指稱スル語ナルコト既ニ述ヘタリ(三〇)同居ノ親族トハ同一ノ場所ニ居住スル親族ヲ謂フ廣ク親族ト稱スルトキハ六親等内ノ血族(直系ト傍系ト包含)配偶者及ヒ三親等内ノ姻族ヲ包含スレトモ直系血族及ヒ配偶者ハ同居ノ有無ニ拘ハ

ラス本條ノ適用アルヲ以テ茲ニ親族トハ六親等内ノ傍系血族及ヒ三親等内ノ姻族ノミヲ指稱スルモノト謂フヘシ故ニ兄弟姉妹、伯叔父母、甥姪、從兄弟姉妹ノ如キモ互ニ同居スルトキハ本條ノ適用アリ同居ノ家族トハ同一ノ場所ニ居住スル家族ヲ謂ヒ家族ナル語ハ戸主ニ對スル語ニシテ即チ戸主ノ親族ニシテ戸主ノ家籍内ニ在ル者ヲ指スヲ以テ之ヲ廣ク解スルトキハ以上ニ述ヘタル直系血族又ハ配偶者ヲモ包含スルコト明カナレトモ右親族ト同シク之ヲ狹義ニ解セサルヘカラス此等ノ親族關係ヲ有スル者カ他ノ一方ノ財物ヲ竊取シ又ハ竊取セントシテ遂ケサリシ場合ニ於テハ其刑ヲ免除スヘキモノトス(刑訴一六五ノ第六二二四)然レトモ其他ノ親族又ハ家族ニ係ルトキハ被害者ノ告訴アルニ非サレハ之ヲ訴追スルコト能ハサルモノトセリ親告罪ノ意義及ヒ告訴ノ方式ニ付テハ既ニ述ヘタリ(一三三)

以上ニ述ヘタル近親竊盜ノ特例ハ全ク第三者ノ介在セサル場合ニ適用スルモノナルヲ以テ右ニ掲クル親族又ハ家族ノ所有物ナリト雖モ第三者ノ占有中ニ於テ竊盜シタルトキ又親族家族ノ所持スル他人ノ所有物ヲ竊盜シタル場合ニ於

テハ固ヨリ本條ノ適用ナキモノト謂フヘシ右ニ述ヘタル親族又ハ家族ト共ニ他人カ竊盜ヲ犯シタルトキハ其親族又ハ家族ニ非サル共犯人ニ對シテ前述ノ特例ヲ適用スルコトナク通常ノ規定ニ依リ之ヲ處罰スルヲ相當トス之レ本條第二項ノ規定アル所以ナリ

第二百四十五條 本章ノ罪ニ付テハ電氣ハ之ヲ財物ト看做ス

本條ハ電氣ノ盜罪ヲ規定シタルモノナリ既ニ述ヘタル如ク單ニ財物ト稱スルトキハ有體物ニ限り無形物ハ如何ナル價値アルモノト雖モ之ヲ盜罪ノ目的ト爲スコト能ハサルハ明カナリ然レトモ電氣ハ之ヲ事實上之ヲ有體物ト同視スルコトヲ得ヘク又之ヲ盜取スルコトヲ得ルヲ以テ本條ニ於テハ之ヲ財物ト看做セリ瓦斯ノ有體物ナルコトハ明カナルヲ以テ當然財物タルコト勿論ナリ

第三十七章 詐欺及ヒ恐喝ノ罪

第二百四十六條 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス(懲刑三九〇、三九二、三九三、三九四)

第二編 第三十七章 詐欺及ヒ恐喝ノ罪

第三編 第三十七章 詐欺及ヒ恐喝ノ罪

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

本條ハ詐欺罪ヲ規定シタルモノナリ前章ニ述ヘタル竊盜及ヒ強盜罪ハ他人ノ意思ニ反シテ財物ヲ取得スルニ因リ成立シ詐欺罪ハ他人ノ承諾ヲ得テ財物ノ交付ヲ受ケ又ハ不法ノ利得ヲ爲スニ因リテ成立スルモノトス而シテ他人カ其承諾ヲ爲スニ至リタル原因カ詐欺ニ基クモノニシテ錯誤ノ結果ニ出テタルトキハ詐欺罪トナリ承諾ノ原因カ恐喝ニ基キ畏怖ノ結果ニ出テタルトキハ後ニ述フル恐喝罪ヲ成立スルモノトス  
人ヲ欺罔シテトハ他人ヲ錯誤ニ陥ラシメト云フノ義ニシテ其手段ノ如何ハ固ヨリ之ヲ問ハス格段ナル僞計ヲ用ヒタルトキハ勿論單純ナル詐言ヲ爲シ又或態度ヲ示スカ如キ行爲ト雖モ他人ヲ欺クニ足ルモノナルトキハ欺罔行爲ト謂フヲ得ヘシ他人ヲ欺罔シタル結果錯誤ニ陥ラシメテ或行爲ヲ爲スノ承諾ヲ與ヘシメ以テ財物ノ交付ヲ受ケタルトキハ第一項ノ罪トナリ以テ財産上不法利得ヲ爲シ又ハ他人ヲシテ利得ヲ得セシメタルトキハ第二項ノ罪トナルナリ  
財物ノ意義ニ付テハ第二百三十五條ニ於テ説明シタルカ如ク竊盜又ハ強盜罪

ニ付テハ動カシ得ヘキ物即チ動産ニ限リ其目的タルコトヲ得レトモ詐欺罪ニ於ケル騙取ハ心ハ必シモ現ニ物ノ移轉ヲ必要トセサルニ因リ不動産ト雖モ犯人ノ自由ニ處分シ得ヘキ状態ニ置カレシメタルトキハ所謂騙取トナルモノトス例ヘハ土地ノ所有者ヲ欺キ其土地ニ自己ニ贈與スルコトヲ承諾セシメ其登記ヲ爲シタル場合ノ如キ騙取罪ヲ構成スルコト明カナリ  
財産上不法ノ利得ヲ爲シ又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者トハ強盜罪ニ付キ既ニ述ヘタル如クナルヲ以テ(六三)参照スヘシ

【參照判例】

- ◎ 偽造證書ハ證書タルノ價值ヲ有スルモノニ非サルヲ以テ之ヲ騙取スルモ詐欺取財ヲ以テ論スヘキモノニ非ス(大審二八年判決 録三六〇頁)
- ◎ 出訴期限ヲ經過シタル借用證書ノ日附ヲ變換シテ保證人ニ對シ請求シタルトキハ詐欺取財ナリ(大審二八年判決 録一四一四五頁)
- ◎ 人ヲ欺罔スルニ足ルヘキ詐言ハ詐欺ノ手段ト爲ルヘキモノトス(大審二八年判決 録二卷六九頁)

頁三六  
四五頁

- ⑤ 訴訟上事實ヲ構造シテ裁判官ヲ錯誤ニ陥ラシメ自己ノ所有ニ屬セサル物件ヲ騙取セントシタルハ詐欺取財ナリ(大審二八年判決 録五卷四三頁)
- ⑥ 人ヲシテ資産アル如ク信用セシムルハ欺罔ノ手段ナリ(大審二九年判決 録二卷六九頁)
- ⑦ 未來ニ屬スル事項ト雖モ虛構ニ係リ人ヲ欺クニ足ルモノハ欺罔ナリ(大審二九年判決 録六卷八七頁)
- ⑧ 騙取ノ目的ヲ以テ偽造證書ニ基キ訴訟ヲ起シタル以上ハ詐欺ノ著手ナリ(大審二九年判決 録一巻四頁三〇年四卷五五頁)
- ⑨ 欺罔ノ手段ハ積極行為ナルコトヲ必要トス(大審三一年判決 録二卷一九頁)
- ⑩ 詐欺取財ニ於ケル財物中ニハ不動産ヲ包含ス(大審三一年判決 録四卷五一頁三一年九三〇頁)
- ⑪ 賣買ハ承諾ノ意見表示ニ因リ直ニ成立シ所有權移轉ノ效果ヲ生ス從テ詐欺ノ手段ヲ以テ不動産賣買ノ承諾ヲ爲サシメタル以上ハ其登記又ハ引渡ヲ完了スルト否トニ拘ハラズ詐欺取財ノ既遂ナリ(大審三五年判決 録八卷五九頁)
- ⑫ 騙取トハ人ヲ欺罔シテ錯誤ニ陥ラシメタル結果其財物ノ占有ヲ奪ヒ之ヲ移付セシムルノ義ニシテ犯人自身カ其占有ヲ得タルヤ否ヤハ犯罪ノ成立ニ影響ナシ(大審三七年判決 録一巻五六頁)

響ナシ(大審三七年判決 録一巻五六頁)

- ⑬ 人ヲ欺罔シ表面上不動産ノ所有名義ヲ移付セシメタル場合ニハ詐欺ノ手段ヲ以テ所有權ノ移轉ヲ承諾セシメタル場合ト同シク詐欺取財ヲ構成ス(大審三九年判決 録三二巻五頁四二年 六〇七頁同年七八三頁)
- ⑭ 騙取トハ欺罔ノ結果他人ノ財物ヲ自由ニ處分シ得ヘキ状態ニ置クノ義ナリ從ツテ單ニ物ヲ握取シタル場合ニノミ存スルモノニ非ス(大審三八年判決 録三二巻三頁四〇年一三三頁)
- ⑮ 相手方カ欺罔手段以外ノ原由ニ因リ錯誤ニ陥ルヘキ地位ニ在ルニ乘シテ欺罔ヲ施シ財物交付ノ決意ヲ爲サシメ又ハ欺罔手段ヲ以テ相手方ノ錯誤ノ覺醒ヲ妨止シ其結果財物ヲ交付セシメタルトキハ詐欺取財罪ヲ構成ス(大審四〇年判決 録二七二頁)
- ⑯ 本條第二項ハ適法ノ理由ナクシテ他人ヨリ財産上ノ利益ヲ得又ハ得セシムルノ義ナリ而シテ其財産上ノ利益ハ必シモ法律上有效ニ之ヲ取得シ又ハ取得セシムルコト要セス(大審四二年判決 録一六四頁四三年一〇四〇頁)

◎第二項ハ犯人カ詐欺ノ手段ニ依テ消極的ニ財産上ノ利益ヲ得タル行為ヲモ處罰スルノ法意ナリ(大審四二年判決)(錄一七七九頁)

第二百四十七條 他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ其任務ニ背キタル行為ヲ爲シ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ背任罪ヲ規定シタルモノナリ他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者トハ法律ノ規定又ハ當事者ノ契約ニ因リ他人ノ財産上ノ事務ヲ代テ處理スル者ヲ總稱ス例ヘハ父母後見人カ子又ハ被後見人ノ財産ヲ管理スルカ如キ會社ノ取締役又ハ支配人カ會社ノ財産ヲ管理スルカ如キ其他委任ニ因リ他人ノ財産ヲ管理スルカ如シ利益ヲ圖リトハ利益ヲ得ルノ目的ヲ以テト云フニ同シ必シモ利益ヲ得タルコトヲ要セサルモ本人ニ損害ヲ加ヘタルコトヲ必要トス損害ヲ加フル目的トハ自己ノ行為ニ因リ本人ニ損失ヲ及ホスヘキ目的ヲ以テト云フニ同シ而シテ此結果現ニ損害ヲ生セシメタルコトヲ必要トスルヲ以テ本人ニ何等ノ損害ヲ生セサルトキハ本罪ヲ構成セス任務ニ背キタル行為ヲ爲シトハ事務

ノ性質ニ反シ不適當ナル行為ヲ爲スコトヲ謂フナリ如何ナル行為ヲ以テ背任行為ト認ムヘキカハ事實問題ニシテ自己ノ權限及ヒ義務ニ背反スルヤ否ヤニ因リ各個ノ場合ニ於テ研究スルノ外ナシ然レトモ其行為ハ必シモ積極行為ニ限ラス不作爲ニ因ルモ本罪ヲ構成スルコトアリ例ヘハ徒ラニ本人ノ債權ヲ時効ニ罹ラシメタルカ如シ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキトハ本人ノ財産ヲ減少セシメタル場合ノミナラス當然得ヘカリシ利益ヲ得サリシ場合ヲ包含スルコト言フ俟タス

第二百四十八條 未成年者ノ智慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ニ乘シテ其財物ヲ交付セシメ又ハ財産上不法ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス(懲刑三九二)

本條ハ詐欺ニ準スヘキ特別ノ罪ヲ規定シタルモノナリ即チ智慮淺薄ナル未成年者又ハ心神ノ耗弱セル人ニ對シテハ欺罔又ハ恐喝ヲ爲ササルモ財物交付又ハ不法利得ノ目的ヲ達シ得ル場合アリ即チ此等ノ者ハ一般ニ利害ノ判斷力カ完全ナラサル爲メ容易ニ之ヲ誘惑シ得ルヲ以テ其誘惑ニ因リ財産上ノ利益ヲ

得タルモノハ之ヲ詐欺罪ト同シク處罰セサルヘカラス是本條ノ規定アル所以ナリ智慮淺薄及ヒ心神耗弱ノ意義ハ之ヲ概説スルコト能ハス單純ナル誘惑ニ乘セラレヘキ程度ニ智慮又ハ心神ノ發達ノ不完全ナルヤ否ヤヲ研究シテ確定スヘキ事實問題ナリトス

【參照判例】

◎愚昧ノ者ヲ欺罔シ財物ヲ騙取シタルトキト雖モ幼年者若クハ精神錯亂者ニ非サルトキハ本條ヲ適用スヘキニ非ス(大審三三六六年判 決録九五六頁)

第二百四十九條 人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス(舊刑

三九〇)

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

本條ハ恐喝罪ヲ規定シタルモノナリ恐喝トハ相手方ヲシテ全然自由意思ヲ剝奪スル程度ニ達セサル畏怖ヲ生セシムルコトヲ謂フ若シ畏怖ノ結果意思ノ自由ヲ失ヒタルトキハ脅迫トナリ(二三)恐喝ニ非ス而シテ恐喝罪ハ相手方ヲシテ畏怖ノ結果或行爲ヲ爲スノ承諾ヲ爲サシメタルコトヲ必要トス承諾ノ結果財

産上ノ處分ヲ爲サシムル點ニ於テ詐欺罪ト其性質ヲ同フシ畏怖ノ結果ニ基ク點ニ於テ強盜罪ニ類似スト雖モ詐欺ハ欺罔ニ因リ錯誤ニ陷リタル爲メ財産上ノ處分ヲ爲ス點ニ於テ恐喝罪ト異リ強盜罪ハ被害者ヲシテ畏怖ノ結果意思ノ自由ヲ剝奪セシムル點ニ於テ恐喝罪ト異ナルモノトス  
財物ノ意義ニ付テハ詐欺罪ノ説明ヲ看ルヘシ其他ノ點ニ付テハ前數條ノ説明ヲ參照スヘシ

【參照判例】

◎第三者ノ醜行ヲ新聞紙ニ掲載セント恐喝シ之カ爲メ畏懼ノ心ヲ起スヘキ事由アルニ乘シ財物ヲ騙取シタル所爲ハ恐喝取財ナリ(大審二九九年判 決 録二卷八四頁)

◎虚偽ノ言語ヲ用ヒ他人ヲ畏怖セシメ財物ヲ騙取シタルハ恐喝取財ナリ(大審二 一六頁 決 録八卷)

◎被恐喝者ノ所爲不正ニ基ク場合ト雖モ惡意ヲ以テ之ヲ恐喝シ財物ヲ騙取シタルトキハ恐喝取財ヲ構成ス(大審三一年判 決 録九卷四二頁)

◎恐喝取財ハ犯人カ其所爲ニ因リテ被害者ニ危害ヲ加ヘント威嚇シタルコト

ト被害者カ畏怖ノ念ヲ生シ其意ニ反シテ財物ヲ交付スルコトトノ二個ノ要件ヲ具備スルニ因リ成立ス從テ犯人カ被害者ニ加ヘントスル危害ノ實在スルヤ否ヤハ犯罪ノ成立ニ關係ナシ(大審三三六六年判 決録四八七頁)

◎恐喝ハ恐喝者ニ於テ直接ニ危害ヲ加フヘキコトヲ以テ手段トスル場合ニ限ラス間接ニ第三者ノ行爲又ハ天災等ニ依リ危害ヲ加フヘキコトヲ以テ手段ト爲ス場合ヲモ包含ス(大審四二二年判決 録一六〇六頁)

第二百五十條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス(舊刑三九七)

本條ハ前四條ノ罪ノ未遂罪ニ關スル規定ナリ未遂罪ノ意義及ヒ刑罰ニ付テハ既ニ屢々述ヘタルヲ以テ反覆セス(四三)

【參照判例】

◎苟クモ人ヲ錯誤ニ陷レ財物ヲ騙取スルノ目的ヲ以テ僞言詐術ヲ用ユルトキハ之カ爲メ相手方カ錯誤ニ陥リタルト否トヲ問ハス詐欺取財未遂罪ヲ構成ス(大審三三六六年判決 録一九〇五頁)

◎財物騙取ノ目的ヲ以テ被害者ニ對シ直接又ハ間接ニ恐喝ノ言語ヲ通達スル

ニ於テハ縱令被害者ハ未タ財物ヲ奪取セラルヘキ状態ニ在ラサルモ恐喝取財未遂罪ヲ構成ス(大審三三七年判決 録二二六五頁)

第二百五十一條 本章ノ罪ニハ第二百四十二條、第二百四十四條及ヒ第二百四十五條ノ規定ヲ準用ス(舊刑三九八)

本條ハ財物ノ範圍及ヒ近親間ノ免刑ニ關スル特例ヲ準用シタルモノナリ即チ自己ノ所有物及ヒ電氣ト雖モ本章ノ適用ニ付テハ財物ト看做スコト近親間ノ犯罪ニ付テハ之ヲ免刑又ハ親告罪ト認ムヘキコトハ竊盜又ハ強盜罪ノ場合ト之ヲ異ニスルノ理由ナキヲ以テナリ詳細ハ各舉示ノ法條ニ於ケル説明ヲ看ルヘシ

第三十八章 横領ノ罪

第二百五十二條 自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス(舊刑三九五)

自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ横領シタル者亦同シ(舊刑三九六)



本條ハ單純ナル横領罪ヲ規定シタルモノナリ横領罪ハ自己ノ占有スル他人ノ物ヲ其用法ニ從テ處分スルニ因リテ成立スルモノニシテ物カ自己ノ占有ニ在ル點ニ於テ前二章ノ罪ト全ク其趣ヲ異ニス

第一項ハ他人ノ所有ニ屬スル物ノ横領ニシテ第二項ハ自己ノ所有ニ屬スル物ノ横領ナリ自己ノ物ハ如何ニ之ヲ處分スルモ罪トナラサルコトハ既ニ述ヘタルカ如シト雖モ差押其他犯罪ノ搜查等ニ付キ公務所ヨリ特ニ保管ノ命ヲ受ケ之ヲ占有スル場合ニ於テ之ヲ横領スルトキハ第二項ノ罪ヲ構成スルモノトス(大審四三年判決錄五卷一三〇六頁)次ニ横領トハ領得ノ意思ヲ以テスル物ノ用法ニ從テ處分ナリ例ヘハ自己ノ債務ノ擔保ニ供シ他人ニ賃貸シ又ハ賣買スルカ如シ物ノ用法ニ從テ處分ナルコトヲ要スルカ故ニ物自體ヲ毀滅スルコトハ毀棄罪タルコトアルヘキモ横領ニ非ス何等ノ行爲ヲ爲サシテ單ニ領得ノ意思ヲ生シタルルノミニテハ未タ横領アリト謂フコト能ハサルハ勿論ナリ

【參照判例】

④ 封印ナキ包中ノ委託物ヲ取出シ所爲ハ委託物費消罪ナリ(大審三一年判決錄一四頁)

③ 他人ノ依頼ニ因リ入質シタル物件ヲ受出シテ費消シタル所爲ハ委託物費消ナリ(大審三一年判決錄一四頁)

② 委託ハ保管等ノ爲メニスルモノノ謂ニシテ委託販賣ノ如キ受託者ニ處分ヲ許シタル特種ノ委託ヲ包含セス(大審三二年判決錄二卷五頁)

① 不動産ニ付テモ委託物費消罪ヲ構成ス(大審三二年判決錄七卷一三頁)

② 委託物費消罪ハ費消ノ當時惡意アルヲ以テ成立シ必シモ之ヲ返還スルノ資力ナキコトヲ要セス(大審三二年判決錄八卷四五頁)

③ 雇人カ主人ノ命ニヨリ賣掛代金ヲ取集メ之ヲ費消スル意思ヲ以テ主家ニ歸ラサルトキハ立去リタル場所カ自家ナルト否トニ拘ハラヌ拐帶罪ナリ(大審三四年判決錄五卷一四頁)

④ 共有物ト雖モ共有者ノ一人カ保存ノ爲メ之ヲ預リ居ル場合ニ在テハ他ノ共有者ニ對シ受託ノ義務ヲ生ス從テ之ヲ費消シタルトキハ委託物費消罪ヲ構成ス(大審三五年判決錄四卷一頁)

⑤ 委託金費消罪ハ他日之ヲ辨償スルノ意思アルト否トヲ問ハサルモノトス(大審三五年判決錄四卷一頁)

三七年判決録一六一  
八頁四二年七五九頁

◎ 假裝ノ賣買ニ依リ登記上或不動産ノ所有名義ヲ有スル者ハ本條ニ所謂他人ノ物ノ占有者ナリ從テ之ヲ擅ニ賣却シタルトキハ本條ノ罪ヲ構成ス(大審四二年判決五)

◎ 横領トハ自己ノ占有スル他人ノ物ニ關シ權利ナキ處分行爲ナリ(大審四二年判決九一七)返還ヲ免ルヘキ事實上ノ狀態ノ作爲ナリ(大審四三年一六卷一五三三頁)

第二百五十三條 業務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス(舊刑二八九)

本條ハ業務上ノ横領ヲ規定シタルモノナリ即チ自己ノ業務上他人ノ物ヲ占有シタル者カ之ヲ横領シタルトキハ重キ刑ヲ科スルノ要アリト認メ本條ヲ設ケタルナリ業務上トハ自己ノ職務又ハ職業ヲ總稱スルモノニシテ其業務カ自己固有ノモノナルト他人ノ業務ヲ行フモノナルトヲ問ハサルナリ例ヘハ倉庫業者質屋營業者ノ如ク其固有ノ業務トシテ他人ノ物ヲ占有スル場合ナルト會社ノ支配人其他商家ノ番頭小僧ノ如キモノト雖モ一定ノ職務範圍ヲ有シ其範圍

ニ於テ會社又ハ主人ノ爲メニ物ヲ占有スル場合ナルトヲ問ハス孰レモ業務上ノ占有者ナリトス其他横領ノ意義ニ付テハ前條ニ於テ説明シタル所ナリ

【參照判例】

◎ 村役場ノ書記ハ收入役ヲ代理スルノ資格ヲ有ス從テ其代理トシテ徵收シタル租税金ヲ竊取シタル所爲ハ監守盜(業務上ノ横領ニ當ル)ヲ以テ論ス(大審二八年判決一〇二頁)

◎ 郡書記カ郡長ノ命ヲ受ケ金錢出納ノ事務ヲ擔任スルトキハ其金錢ハ法律上監守ノ責ヲ有ス(大審三〇年判決三卷五四頁)

◎ 巡查カ職務上遺失物ヲ領收シ之ヲ當該官署ニ送致スル間ハ當然監守ノ責任ヲ有ス(大審三〇年判決三卷二六頁)

◎ 監守盜ハ官吏自ラ監守スヘキ責任アル金額物件ヲ自己ノ用途ニ供スル爲メ之ヲ他ニ遷移シ若クハ之ヲ費消スルニ因リ成立ス(大審三二年判決三卷四一頁)

◎ 監守トハ監督守護スルノ義ナリ(大審四〇年判決一三六二頁)

◎ 本條ニ業務トハ總テノ業務若クハ職業ヲ汎稱シ其執ル所ノ事務カ自己ノ爲

メナルト否トヲ區別セス又他人トハ自己以外ノ者ヲ總稱シ其占有スル物ノ  
所有カ何人ニ屬スルヤハ之ヲ問ハス(大審四二年判 決録六八二頁)

◎ 仲立人カ當事者ヨリ豫メ給付ノ目的物ヲ受領スルモ其受領行為ハ業務上ノ  
行為ニアラス(大審四二年判 決録九七一頁)

第二百五十四條 遺失物、漂流物、其他占有ヲ離レタル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以  
下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス(舊刑三三五、三八六)

本條ハ他人ノ占有ヲ離レタル物ノ横領罪ヲ規定シタルモノナリ即チ何人ノ占  
有ニモ屬セサル他人所有ノ物ヲ横領シタル場合ナルヲ以テ無主物例ヘハ他人  
カ路傍ニ捨テタル物ノ如キハ之ヲ横領スルモ本條ノ適用ナキコト勿論ニシテ  
遺失物又ハ漂流物ノ如キ占有者ノ意思ニ反シテ其占有ヲ離脱スルニ因リ本罪  
カ成立スルモノトス本條ニ掲クル遺失物又ハ漂流物ノ如キハ占有離脱物ノ例  
示ニシテ此外埋藏物又ハ飼主ノ手ヨリ逸走シタル家畜ノ如キモ他人カ之ヲ横  
領スルトキハ本罪ヲ構成スルコト明カナリ横領ノ意義ハ既ニ述ヘタル如ク物  
ノ用法ニ從フ處分行爲ナルヲ以テ(三五)單ニ他人ノ占有離脱物ヲ拾得シタルノ

ミニテハ未ダ横領トナラス然レトモ拾得ノ當時ヨリ横領ノ意思アリタルト其  
後ニ意思ヲ生シタルトハ固ヨリ本罪ノ成立ニ影響ナキモノトス

遺失物、漂流物及ヒ埋藏物ヲ拾得シタル者カ之ヲ届出テス又ハ所有者ニ返還セ  
スシテ不正ノ處分ヲ爲シタル場合ニ付テハ遺失物法第十六條ニ特別ノ處罰規  
定アリタルモ同條ハ本法ノ施行ト同時ニ廢止セラレタルモノトス

第二百五十五條 本章ノ罪ニハ第二百四十四條ノ規定ヲ準用ス(舊刑三八七、三九八)

本條ハ近親間ノ竊盜罪ニ關スル特例ヲ準用シタルモノナリ即チ横領者ト物ノ  
所有者トノ間ニ第二百四十四條ニ掲クル親族關係アルトキハ其親疎ニ因リ或  
ハ刑ヲ免除シ或ハ親告罪ト爲セルナリ詳細ハ同條ノ説明ヲ看ルヘシ

### 第三十九章 贓物ニ關スル罪

第二百五十六條 贓物ヲ收受シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

贓物ノ運搬寄藏、故買、又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役及ヒ千圓以下ノ罰金ニ

第二編 第三十九章 贓物ニ關スル罪

本條ハ贓物罪ヲ規定シタルモノナリ。贓物トハ犯罪ニ因リ所持ヲ獲得シタル物ニシテ被害者ニ其返還請求權ノ存スルモノヲ謂フ。故ニ所持ノ獲得ヲ以テ犯罪ノ要素トスル場合ニ於テハ其目的物ハ孰レモ贓物ナリト謂フヘシ例ヘハ竊盜、強盜、詐欺、恐喝、横領又ハ贓物收受罪ニ於ケル目的物等是レナリ。然レトモ被害者ニ返還請求權ノ存スルコトヲ必要トスルヲ以テ賣淫ニ因リ得タル金錢賭博又ハ收賄ニ因リ得タル者ノ如キハ之ヲ贓物ト稱スルコト能ハス。又犯人カ贓物ヲ處分シテ得タル物例ヘハ竊取シタル衣類ヲ賣却シテ得タル金錢ノ如キハ贓物ニ非スシテ贓物ニ代ル物タルニ過キス。從テ其金錢ノ如キハ本罪ノ目的タルモノニ非サルナリ。然レトモ贓物ノ原質ヲ滅却セサルトキハ其一部分ノミ存スル場合ト雖モ尙贓物タルコトヲ妨ケス例ヘハ竊取シタル石材ヲ以テ造リタル石器又ハ竊取シタル反物ヲ以テ造リタル衣類ノ如シ收受トハ贓物ノ所持ヲ取得スル一切ノ行爲ヲ總稱スルカ如キモ第二項ニ寄藏故買等ノ行爲ヲ列記スルヲ以テ第二項ニ掲クル行爲ハ收受ノ中ニ包含セサルモノト謂フヘク又贓物ヲ竊

取強取又ハ詐欺恐喝ニ因リ取得シタルトキハ別罪ヲ構成スルヲ以テ之レ亦收受中ヨリ除外スルヲ相當トス。運搬トハ贓物ノ所在ヲ移轉スルコトヲ謂フ。必シモ長距離ノ場所ニ移轉スルノ要ナキモ被害者ノ取還ヲ困難ナラシムル程度ニ至ラサレハ運搬ト稱スヘカラス。寄藏トハ寄託ヲ受ケテ之ヲ收藏スルコトヲ謂ヒ故買トハ有償行爲ニ因ル所持ノ取得ヲ總稱シ必シモ賣買ニ限ラス交換又ハ有償贈與ノ如キ孰レモ故買ナリ。牙保トハ贓物ノ處分行爲ノ媒介ヲ謂フナリ。即チ贓物ノ賣買又ハ質入等ノ周旋ヲ爲スコトヲ謂フモノトス。本罪ノ刑罰ニ付テハ收受罪ト運搬、寄藏、故買、牙保罪トニ付キ大ナル差異アリ。收受ハ多クハ無償ナルモノニシテ通常其害重大ナラサルモ其他ノ場合ハ普通通常習的性質ヲ有スルモノ多ク其危險重大ナルノミナラス之ニ因リ不法ノ營利ヲ圖ルモノナルヲ以テ重キ懲役刑ノ外罰金刑ヲモ併科スルモノトセリ。一罪ニ付キ二個ノ主刑ヲ併科スヘキ場合ハ本條唯一ノ例ナリ。

【參照判例】

◎贓物ヲ賣却シテ得タル金員ハ贓物ニ非ス(大審、二四年判決、錄一、卷一、三三頁)